

はじめに

本校は、岡山県の中央部(吉備高原地帯)吉備中央町の北部に位置する、全校児童61名、8学級(含む特別支援学級2)の小規模校です。学区は標高200メートル台の中山間地域で、山林地帯の中に小規模な棚田も見られる農山村です。山林や川等の自然に恵まれ絶滅危惧種のブッポウソウをはじめ多くの生き物が豊かに息づいています。近年学区を貫く主要道が整備され、近隣の地区への自動車によるアクセスは便利になっているとはいえ、過疎化、少子高齢化の波はこの地にも押し寄せており、店舗や医療機関は減少しているという現実があります。このような環境の中で、本校は日々教育活動を展開しております。

さて、本校は平成25年度および26年度の2年間にわたり、一般社団法人日本学校歯科医会より委嘱を受け、「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」の研究推進に取り組んで参りました。この取り組みに当たり、まず私たち職員が「歯・口の健康を維持していくことの大切さ」について認識することから始めました。毎日何気なく行っている「歯みがき」一つとっても奥の深いものであるとともに、「歯・口の健康」が子どもたちが一生を健やかに過ごしていくために不可欠な要件であることを知りました。そして、子どもたちには自分で自分の健康を築いていこうとすると同時に家族や周囲の人をも健康にしていこうとする姿勢を身につけさせるのが我々の大切な役割であるという認識をもつに至りました。本校の研究主題「自分の体に関心を持ち、進んで健康な生活を送る児童の育成ー口は「生きる」の入り口ー」は、私たち職員がその役割を担うのだという思いを込めて設定したものです。

本日は、我々のそうした思いのもとに実践した結果としての本校児童の姿をしっかりとご覧ください、温かくまた厳しいご助言やご鞭撻をいただければ幸いと存じます。

本研究会の推進に当たり、ご多用の中、授業へのご協力や講演会により多くのご示唆を与えてくださった岡山大学医学部・歯学部附属病院小児歯科長 仲野道代先生、そして前田潔先生(平成25年度岡山県教育庁保健体育課課長)、福本和宏先生(平成25年度同副課長、平成26年度同課長)、小川泰永先生(平成26年度同副課長)、末廣真由美先生(平成25、26年度同指導主事(副参事))、中山博文先生(平成25、26年度吉備中央町教育委員会学校指導主事(参事))には、研究の方向性や内容についての確なご指導と温かい励ましをいただきました。また、地域推進委員会では、岡山県歯科医師会副会長(平成25年度日本学校歯科医会副会長)黒住正三先生、同常務理事 平岩弘先生、御津歯科医師会、岡山県学校保健会加賀支部、吉備中央町教育委員会の諸先生方に、幅広い見地からご助言をいただき、研究を大きく前進させることができました。最後となりましたが、学校歯科医の石井雅之先生には、たびたび授業やその他様々な場面を通して子どもたちの健康に対する意識や知識の向上に大きく貢献していただきました。

こうした学内外の多くの皆様方のご支援により、遅々とした歩みではありますが、研究実践を進めることができました。関係者の皆様方に、心より御礼申し上げます。

平成26年11月

吉備中央町立御北小学校
校長 有馬雄二郎

目 次

◎ はじめに

I 研究の概要

1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
3	研究主題について	1
4	研究の重点	2
5	めざす児童像	2
6	研究仮説	2
7	研究組織	2
8	研究全体構想図	3
9	研究の経過	4～10

II 研究の内容

1	研究の基本構想	11
2	授業実践	11
3	日常活動	11
4	家庭・地域等との連携	12
5	学校行事や児童会活動	12
6	健康づくり指導計画表や学級活動指導計画一覧表の作成	12～14

III 研究の実践

1	各学年の授業実践	15～76
2	日常活動	77～80
3	家庭・地域等との連携	81～83
4	学校行事や児童会活動	85～87

IV 成果と課題

89～94

V 資料

1	学校保健安全全体計画	95～97
2	アンケート用紙	98～99
3	地域推進委員会会則・構成員氏名等	100～101

◎ おわりに

◎ 研究同人

I 研究の概要

I 研究の概要

1 研究主題

「自分の体に関心を持ち、進んで健康な生活を送る児童の育成」
ー口は「生きる」の入り口ー

2 研究主題設定の理由

(1) 今日の課題から

現在、わが国は世界でも有数の長寿国であるが、同時に国民医療費は増え続けている。また、個々のライフスタイルの変化を起因として生活習慣病も増加の傾向にある。自立して健康に生活できる期間を示す「健康寿命」と「平均寿命」との差を少なくするためには、病気の早期発見、早期治療だけでなく、生活習慣を改善していくこと、特に子ども時代に健康な生活習慣を確立していくことが大切であると考えます。

特に口腔は目で見ることができると、課題や問題を明確にすることができ、それとともに、評価や日常生活の中で実行しやすく結果も確認しやすいなど、児童に適した題材である。現代の教育的課題である「生きる力」をはぐくむためにも、歯科保健教育や食育に目を向け、ヘルスプロモーションの理念を生かしながら、児童が心身ともに健康づくりを進めていけるようにしていきたい。

(2) 児童の実態から

児童は、素直で自分の課題に対して真面目に取り組むことができる。反面、自分の考えを進んで話したり、まとめて説明したりすることに消極的な面も見られる。

本校では、これまでに吉備中央町教育研修所養護部会と連携し、学級活動の中で6年間を見通した「歯っぴースタディ」の学習や、学校歯科医による指導を受けたり、保健委員会による集会活動をしたりして「歯・口の健康づくり」を推進してきた。また、年間2回の歯・口の健康診断の時に、「むし歯・治療した歯・要注意乳歯」などに色分けした一人一人の絵図を配り、視覚的に見やすいものを作ったり、歯・口の健康診断の結果を12段階のレベルで表して知らせたりして、児童や保護者の歯や口の健康に関する意識を高める工夫を行ってきた。しかし、う歯罹患率やう歯治療率からみても、歯や口の健康に関する児童や保護者の意識はなかなか高まっていかない現状があった。

(3) 学校教育目標の具現化から

本校の教育目標は、『心豊かにたくましく生きる子どもを育てる』である。この教育目標に向けて、「みんな仲良く助け合う子」「ほん気で考え進んで学ぶ子」「くじけない心と身体で最後まで頑張る子」という3つの児童像を設定し、すべての教育活動の中で具現化に努めている。また、指導の重点の中に「進んで心身の健康づくりにはげむ態度の育成」を設定していることから、歯・口の健康づくりに取り組む研究を通して教育目標に迫りたいと考える。

3 研究主題について

○〈自分の体に関心を持ち〉とは

自分の歯・口の状態だけにとどまらず、体の変化や健康について関心を持ち、日々変わっていく自分の様子に気づく力を身に付けることだと考える。学習したことを基に自分の課題を振り返り、健康の価値に気づき、一人一人が健康な生活を送るために必要なことは何かを主体的に考えることができるような支援をしていく。

○〈進んで健康な生活を送る〉とは

むし歯や歯肉の病気の予防をはじめ、将来にわたって健康な生活を送るために、学習して得た知識や、それを基にして考えたり身に付けたりした方法を上手に活用して実践していくことだと考えている。その過程では、友達同士や家庭など、自分のまわりの人へも積極的に働きかけながら、ともに健康づくりに励もうとする姿を目指していく。

○＜口は「生きる」の入り口＞とは

健康に生活するのは、すべての人々の願いである。一生の中で一度、歯が生え替わるこの小学生の時期は、「健康」を実感し、生活を見直す良いチャンスである。「歯・口の健康づくり」をきっかけとして、将来にわたる体の健康への入り口となるよう『口は「生きる」の入り口』を合い言葉にして継続した指導をしていきたい。

4 研究の重点

- (1) 児童の興味・関心を生かし、実践力が高まる授業づくり
 - 児童の興味・関心を高める手立てや活発な話し合いのための工夫。
 - 専門的な知識を基にして、正しい実践ができるようなT・T指導の工夫。
- (2) 児童の意識が高まり、継続する日常生活の指導と環境整備
 - 正しい実践が習慣化できるような日常の継続した指導の工夫。
 - 児童の実践の意欲が高まるような環境整備の充実。
- (3) 家庭や地域等との連携
 - 学校と家庭・地域等とでお互いに情報を共有し、連携を深める工夫。
 - 学んだことを地域に広め、実践に生かす工夫。

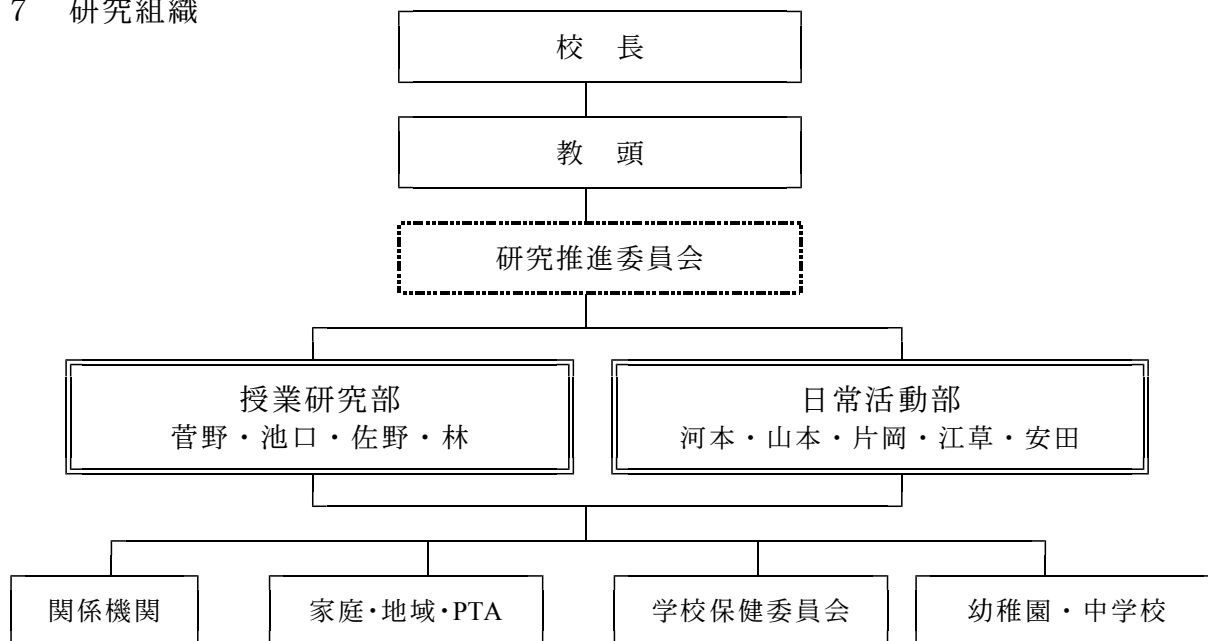
5 めざす児童像

- (1) 正しい実践の仕方を身に付けた子
- (2) 自ら進んで続けて実践し、健康づくりに励む子
- (3) 身に付けたことを進んで発信できる子

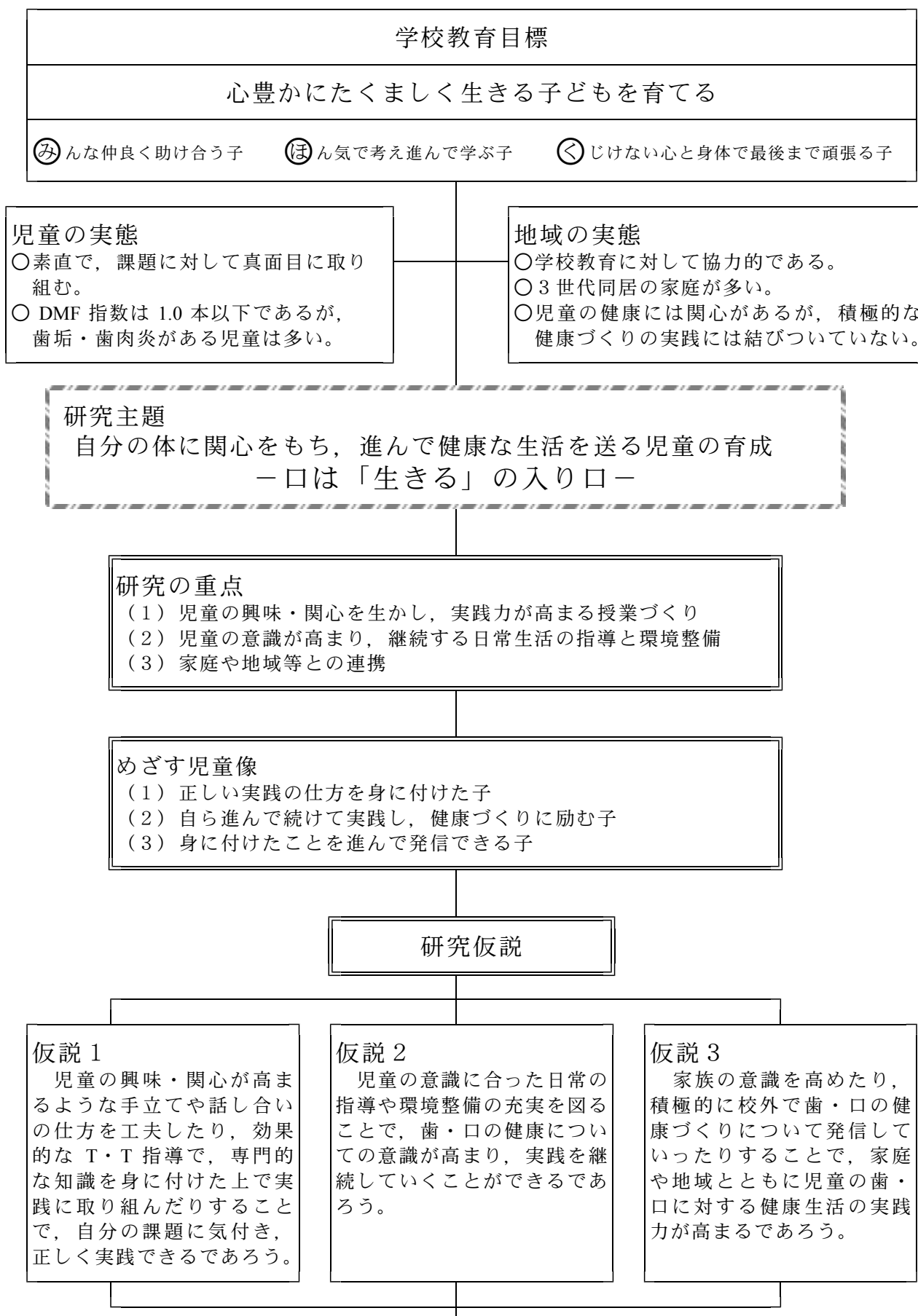
6 研究仮説

- (仮説1) 児童の興味・関心が高まるような手立てや話し合いの仕方を工夫したり、効果的なT・T指導で、専門的な知識を身に付けた上で実践に取り組んだりすることで、自分の課題に気づき、正しく実践できるであろう。
- (仮説2) 児童の意識に合った日常の指導や環境整備の充実を図ることで、歯・口の健康についての意識が高まり、実践を継続していくことができるであろう。
- (仮説3) 家族の意識を高めたり、積極的に校外で歯・口の健康づくりについて発信していったりすることで、家庭や地域とともに実践力が高まるであろう。

7 研究組織



8 研究全体構想図



授業実践 さまざまな授業を通して，児童の意欲と実践力の向上を図る。	日常活動と環境整備 児童の歯・口の健康に対する関心を高め，健康生活の実践力を養い育てるための活動を行う。
各種連携 専門的な立場からの話や説明を聞くことにより，正しい実践ができるようにする。	
ヘルスプロモーションの理念を生かし，家庭や地域に積極的に働きかけることで，歯・口の健康の大切さを呼びかける。	

9 研究の経過

<平成25年度>

月 日	全体会・部会	授業研究・日常活動	各種連携
4月3日 4月17日	◎第1回研究推進委員会 (研究主題や研究計画) ○第1回校内研修会 (研究の方向性)	☆歯っぴーキャラクター 発案	・アンケート
5月1日 5月10日 5月22日 5月27日	○第2回校内研修会 (年間計画の作成) ◎第2回研究推進委員会 (研究の方向性) ○第3回校内研修会 (研究の概要について) ◇第1回学校保健委員会	☆みほく歯っぴー銀行設立 金貨発行の規約作成	・学校歯科医 ・町保健課
6月4日 6月5日 6月6日 6月12日 6月15日 6月26日 ～7月3日	◇第70回学童歯みがき大会へ 参加 ○第4回校内研修会 (6年指導案検討) ◇歯・口の健康診断 ◇歯っぴー報告 (保健・栽培委員会) ○第5回校内研修会 (6年指導案検討) ◇Dr石井の歯みがき教室 歯・口のクイズ (PTA) 景品	☆6月はみがきがんばり 表 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ☆歯っぴー教室 全児童 (歯みがき個別指導) ↓	・学校歯科医 ・学校歯科医 ・学校歯科医
7月10日 7月17日 7月18日 7月19日	○第6回校内研修会 ○第7回校内研修会 (2学期の研究について) ◇歯肉検査	◎公開授業 6年 学級活動 「かむことって大切！」 ☆歯っぴー七夕飾り ☆岡山県歯科保健図画ポ スターコンクール応募	・養護教諭との TT ・学校歯科医

7月20日 ～8月中 7月29日	○第8回校内研修 (1年指導案検討)	☆夏休み歯みがきがんばり表 ↓ ↓ ↓	
8月2日 8月27日 8月29日 8月30日	○第9回校内研修 (3年指導案検討) ◎第3回研究推進委員会 (2学期の研究の方向性) ○第10回校内研修 (3年指導案検討, 年間指導 計画検討) ○教育センターカリキュラムサ ポート (学活授業の評価について)	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	・岡山県総合教 育センター 久次先生
9月11日 9月21日 9月25日	○第11回校内研修 5年・わかば学級指導案 検討 ◇運動会 ○第12回校内研修	☆歯・ロパレード (歯・ロティッシュ配布) ◎公開授業 1年 学級活動 「めざせ!おはしめいじ ん」 3年 学級活動 『歯っぴースタディ 「歯!いろいろ!」』	・学校栄養職員 とのTT ・学校歯科医の ビデオメッセ ージ
10月7日 10月12日 ～ 11月11日 10月17日 ～18日 10月29日 10月30日	○第13回校内研修 (アセスメントシートの結果 についての考察) ○第77回全国学校歯科保健研 究大会参加 熊本県熊本市 ○第14回校内研修 ○第15回校内研修 (4年指導案検討)	☆歯・口の健康診断前の 歯みがきがんばり表 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ☆歯っぴー通帳作成及び 歯っぴーキャラクター シール作成 ↓	・岡山県総合教 育センター 北川先生 ・養護教諭との TT ・ゲストティー チャー 歯科衛生士
11月1日 11月9日 11月13日 11月14日	○第16回校内研修 (2年指導案検討) ◇学習発表会 ○第17回校内研修 (2・4年指導案検討) ◇歯・口の健康診断	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ☆歯っぴー通帳使用	・学校歯科医

11月15日	○第4回研究推進委員会 (今後の研究の方向性)		
11月20日	○第18回校内研修	◎公開授業 6年 家庭科 「くふうしよう 楽しい 食事」	・栄養委員さん とのTT
11月26日	○第19回校内研修	◎公開授業 2年 学級活動 『「歯っぴースタディ」 前歯の外がわを ピカ ピカに!』 4年 総合的な学習 「進め!かむかむ探検隊」 ☆歯っぴー通信1号配布	
11月27日	○第20回校内研修 (研究会や行事の日時決定)	☆給食後の歯みがき CD の改良 ☆歯ブラシを購買に入品	
12月3日	◇歯っぴー集会	☆学年発表 ☆○×クイズ (PTA) ☆全校歯垢染め出し	・学校歯科医
12月5日	○第5回研究推進委員会 (今後の方向性, 部会の役割)		
12月11日	◇歯肉検査		
12月12日	○平成25年度第1回鳥取県学 校歯科保健研究大会参加 鳥取県鳥取市		
12月13日 12月16日 ~19日 12月18日	○第21回校内研修 (3学期の方向性)	☆歯っぴー通信2号配布 ☆歯っぴー教室 (歯肉炎児童対象) ☆冬休み歯みがきがんば り表 ↓ ☆親子歯垢染め出し ↓ ☆歯っぴー川柳募集 ↓ ☆歯っぴー申告募集 ↓	
1月6日	○第6回研究推進委員会 (3学期の研究内容)		
1月10日 1月12日 1月15日 1月23日	○第22回校内研修 ○平成25年度地域推進委員会 研究の報告 ○歯・口の健康づくり講演会 「歯の健康のおはなし」 仲野道代先生		
1月31日	○歯・口健康参観日 ○第7回研究推進委員会 (アンケート検討)	☆歯っぴーキャラクター の見直し	
2月5日	○第23回校内研修		

2月12日	○第24回校内研修	☆校内歯みがき大会実施 (ふれあいタイム)	・学校歯科医
2月12日 ～23日 2月13日		☆歯っぴーキャラクター の新基準決定 ☆金貨でポスター作成す ることに決定 ☆歯みがきがんばり表 ↓ ↓ ☆歯垢染め出し得点調査 ↓ ↓ ☆金貨ポスターイラスト 作成(6年児童)	
2月19日	○第25回校内研修 (部会からの提案)		
3月5日		☆金貨ポスター作成 (全校児童参加) ナイスアイデア賞表彰 ナイスイラスト賞表彰 ☆歯っぴーキャラクター 新基準発表	・アンケート
3月5日	○第26回校内研修 (アンケート集計)		
3月10日	○第8回研究推進委員会 (歯みがきレシピ, 研究紀要 について)		
3月14日	○第27回校内研修	◎公開授業 1年 学級活動 歯っぴースタディ 「おく歯をピカピカに！」	
3月26日 ～4月6日		☆春休み歯みがきがんば り表 ↓ ↓	

<平成26年度>

月 日	全体会・部会	授業研究・日常活動	各種連携
4月3日	◎第1回研究推進委員会 (本年度の研究の方向性)		↓ ↓
4月9日	○第1回校内研修 (本年度の研究の方向性)		
4月16日	○第2回校内研修 (6年指導案検討)	☆歯っぴー通信1号配布 ☆全校歯垢染め出し	
4月21日	○第3回校内研修 (5年指導案検討)		

4月30日	○第4回校内研修 (1年・2年指導案検討)		
5月1日 5月7日 5月12日	◇歯・口の健康診断 ○第5回校内研修 (1年・2年指導案検討) ○第6回校内研修	☆歯っぴー通帳使用 ◎公開授業 6年 学級活動 『「歯っぴースタディ」 すべての歯をピカピカ に!』 5年 学級活動 『「歯っぴースタディ」 犬歯・大臼歯をピカピ カに!』	・学校歯科医 ・養護教諭との TT ・養護教諭との TT
5月19日	◎第2回研究推進委員会 (研究の概要等の検討) ◇歯・口の健康診断 (未受診者対象)		・学校歯科医
5月20日	○第7回校内研修	◎公開授業 1年 学級活動 『「歯っぴースタディ」 6さいきゅうしがはえ たよ!』 2年 学級活動 『「歯っぴースタディ」 プラークがかくれん ぼ!』	・歯科衛生士さ んとの TT ・養護教諭との TT
5月21日 5月26日 ～28日 5月29日	○第8回校内研修 (1年・2年研究授業の反省)	☆なた豆栽培 ☆みほく歯っぴー銀行開設 (保健・栽培委員会) ☆歯っぴー通信2号配布	
6月1日 6月2日 6月4日 6月11日 6月12日 ～18日 6月14日 6月18日	◇歯っぴー報告 (保健・栽培委員会) ◇第71回学童歯みがき大会へ 参加 ○第9回校内研修 (3年指導案検討) ○第10回校内研修 (わかば学級2指導案検討) ◇歯っぴー集会 咀嚼力判定コーナー 歯垢染め出し剤配布 (PTA) ○第11回校内研修	☆6月歯みがきがんばり 表 ↓ ☆歯っぴー通信3号配布 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ☆歯肉炎クイズ (お昼の放送) ↓ ☆歯っぴーソング合唱 ☆学年発表コーナー開設 ☆歯っぴークッキング (きなこ飴・お茶) ☆ヘルスプロモーション 活動表彰 ↓ ☆全校歯垢染め出し ↓	・学校歯科医

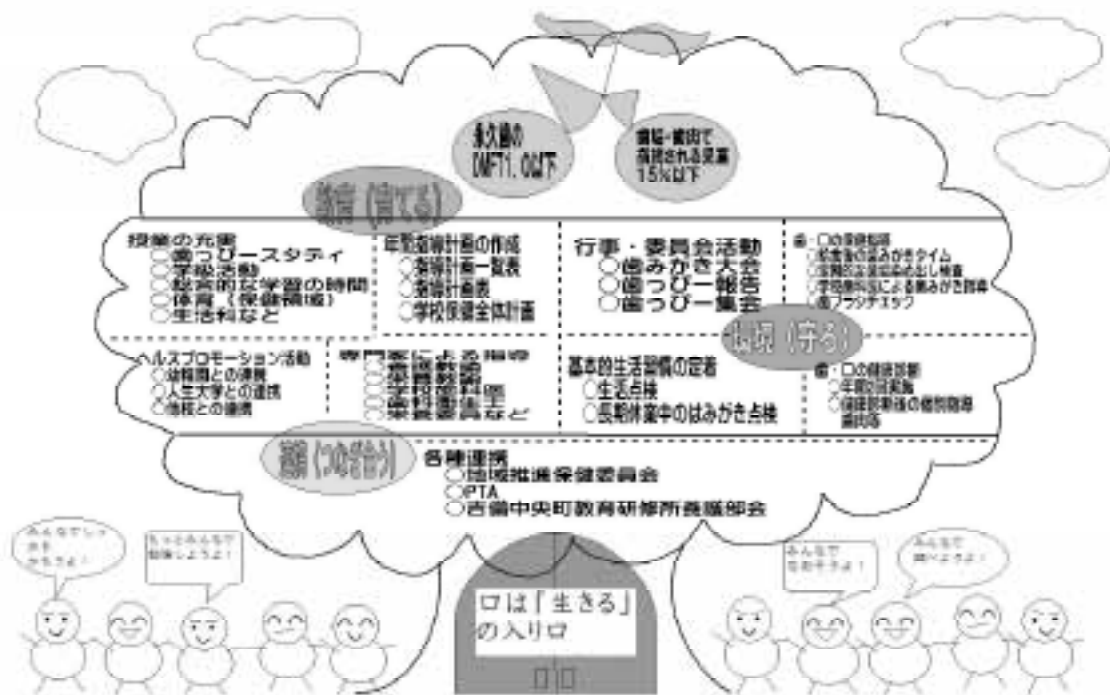
6月19日	(わかば学級1・2, 3年指導案検討) ◇歯肉検査(全児童)	↓ ↓	・学校歯科医
6月23日		☆歯っぴー通信4号配布	
6月25日	○第12回校内研修 (わかば学級2・3年指導案検討)	↓ ↓ ↓	
6月27日	◇歯肉検査(歯肉炎児童)	☆新歯ブラシを購入に 入荷	・学校歯科医
7月2日	○第13回校内研修 (わかば学級1, 4年指導案検討)		
7月9日	○第14回校内研修	◎公開授業 わかば2 学級活動 「バランスよくなんでも 食べよう」 3年 学級活動 『「歯っぴースタディ」 前歯の内側をピカピカ に!』 ☆みほく歯っぴー銀行開設	・栄養教諭との TT ・養護教諭との TT
7月11日 ~15日			
7月16日	○第15回校内研修	◎公開授業 わかば1 学級活動 「なんでもすきスキ!」 4年 学級活動 『「歯っぴースタディ」 小白歯をピカピカに!』 ☆夏休みヘルスプロモー ション活動 (咀嚼力判定ガム使用)	・栄養委員さん とのTT ・養護教諭との TT
7月18日	◎第4回研究推進委員会 (研究紀要について)		
7月19日 ~		☆夏休み歯みがきがんば り表	
8月31日		↓	
7月25日	○第16回校内研修 (中学校との連携について)	↓ ↓	
7月29日	○第17回校内研修 (研究の内容・実践の検討)	↓ ↓	
8月6日	○第18回校内研修 (研究の実践・成果と課題の 検討)	↓ ↓ ↓	
8月25日	○第19回校内研修 (4年・わかば・3年・2年指 導案検討)	↓ ↓ ↓	
8月26日	○第20回校内研修 (1年・5年・6年指導案検討, 成果と課題検討)	↓ ↓ ↓	
8月27日	◎第5回研究推進委員会 (研究紀要, 研究会当日につ いて)	↓ ↓ ↓	

9月8日		☆歯っぴー通信5号配布	
9月24日 ～ 10月2日		☆歯みがきがんばり表↓ ☆全校歯垢染め出し ↓	
9月3日	○第21回校内研修 (4年指導案検討)		
9月10日	○第22回校内研修 (3年・わかば指導案検討)		
10月1日	○第23回校内研修 (1年・2年指導案検討)		
10月2日	◇歯・口の健康診断	☆みほく歯っぴー銀行開設 (保健栽培委員会)	学校歯科医
10月7日	◎第6回研究推進委員会 (研究会当日までの準備について)	☆歯っぴー通信6号配布	
10月8日	○第24回校内研修 (5年・6年指導案検討)		
10月22日	○第25回校内研修 (研究会に向けての準備) ◇歯肉検査	☆なた豆収穫	学校歯科医
11月7日	○研究発表会	◎公開授業(1～6年・わかば)	小児歯科医
11月12日	○第26回校内研修 (授業反省, 今後の取り組みについて)	☆全校歯垢染め出し	学校歯科医
11月19日	○第27回校内研修 (学校力向上サポートキャラバン, 5年指導案検討)		養護教諭 栄養教諭 栄養委員 町保健師 歯科衛生士
11月26日	◎第7回研究推進委員会 (今後の研究の方向性について)		
12月	◎第8回研究推進委員会 (研究会のまとめについて)	☆歯っぴー通信7号配布 ☆冬休み歯みがきがんばり表 ↓	
1月	○第28回校内研修 (H26年度のまとめについて)	☆全校歯垢染め出し	
2月	○第29回校内研修 (H26年度の成果と課題)	☆校内歯みがき大会 (ふれあいタイム) ☆歯っぴー通信8号配布	学校歯科医
3月	○第30回校内研修 (H26年度の成果と課題, 来年度の方向性について)	☆全校歯垢染め出し	

Ⅱ 研究の内容

II 研究の内容

1 研究の基本構想



2 授業実践

☆さまざまな授業を通して、児童の意欲と実践力の向上を図る。

☆専門的な立場の人からの話や説明を聞くことにより、正しい実践ができるようにする。

(1) 歯っぴースタディ

- ①学級活動の中で、特に歯みがきの指導に関するものを「歯っぴースタディ」として、年間2単位時間設定している。歯みがきや歯・口の健康に関する知識についての学習を『歯っぴースタディ「知識編」』、歯みがきの技能に関する学習を『歯っぴースタディ「技能編」』として、全学年実施する。
- ②知識編の学習過程を、「つかむ→知る→話し合う→決める」とし、技能編の学習過程を、「振り返る→知る→話し合う→決める→みがく」とする。学習過程を統一することで、各学年とも同じパターンで学習に取り組むことができるようにする。
- ③技能編では、新しく学習したことを基に、歯の状態や個々の課題から、それぞれに合った歯みがきの手順を作り、それを実践していく活動を取り入れる。その歯みがきの手順を「歯みがきレシピ」と呼び、6年間を通してすべての歯の「歯みがきレシピ」が作れるようにする。

(2) 学習活動の工夫

児童が意欲をもって学習に臨んだり、歯と口の健康づくりに継続的に取り組んだりするために、体験活動などを積極的に取り入れていく。

(3) TT指導やGTを活用した指導の工夫

- ①養護教諭、栄養教諭などとのTT指導で、専門的な知識を生かした指導を行う。
- ②仲野道代先生、学校歯科医、栄養委員、歯科衛生士などを、GTとして授業に招き、専門性を生かした指導を行う。

(4) 話し合い活動を充実させる工夫

- ①本時の話し合い活動を充実させていくために、事前指導を工夫する。
- ②話し合いのポイントを提示したり、発問を工夫したりする。

3 日常活動

☆児童の歯・口に対する関心を高め、健康生活の実践力を養い育てるための活動を行う。

- (1) 歯っぴー銀行
 - ① 児童の歯・口への意識が高まり、継続した実践につながるようにするため、歯・口の健康状態に応じて金貨を貯蓄することができる「みほく歯っぴー銀行」を開設する。
 - ② 自分の歯・口の健康状態の経過を記録するために、「歯っぴー通帳」を作成する。歯・口の健康診断や歯肉検査の結果を貼り付けたり、児童自ら記入したりする欄を設ける。また、ヘルスプロモーション活動の内容を記録するページも用意する。
 - ③ 自分の歯・口の健康状態を分かりやすくするために、「歯っぴーキャラクター」を考案する。
- (2) 歯みがきがんばり表
児童の歯みがきの習慣化を図るために、長期休業中や歯・口の健康診断前などに、歯みがきがんばり表を実施する。
- (3) 校内歯垢染め出し検査
全校で統一した「カラーテストのきろく」を作成し、定期的（約2ヶ月に1回）に検査を実施しする。検査のたびに、前回の記録と比較しながら自己評価をする。
- (4) 昼の歯みがき指導
昼の歯みがきを全校で一斉に行う。

4 家庭・地域等との連携

★ヘルスプロモーションの理念を生かし、家庭や地域に積極的に働きかけることで、歯・口の健康の大切さを呼びかける。

- (1) 家庭との連携
 - ① 「学校だより」や「学級だより」、「保健だより」、「歯っぴー通信」などにより、児童の様子や歯・口の健康診断の結果を報告したり、健康づくりについての啓発をしたりする。
 - ② 「親子歯みがき教室」を開催し、歯みがきに関する保護者の意識を高める。
 - ③ 健康参観日などで、全学級が歯・口の健康に関する授業を公開し、保護者の理解を深める。
 - ④ PTA と協力し、保護者の啓発活動に努める。
- (2) 幼稚園・中学校・地域等との連携
 - ① 運動会や学習発表会などの行事の場で、歯と口の健康に関するパレードや啓発活動を行う。
 - ② 地域の老人クラブ「人生大学」の講座で、学んだことの情報発信する。
 - ③ 児童が幼稚園へ行って歯についての話をしたり、幼稚園児を小学校へ招いて歯のみがき方を指導することで交流を深めたり、学んだことを広げたりする。
 - ④ 中学校との情報交換会をもったり、互いに授業を参観し合ったりして情報交換を密にする。

5 学校行事や児童会活動

- (1) 学童歯みがき大会への参加
インターネット通信で開催される学童歯みがき大会に、4年生以上の児童で参加し、歯や口の健康づくりについて学習する。
- (2) 保健栽培委員会による報告や啓発活動
歯・口の健康診断の結果についての報告や、歯・口に関する意識や実践力を高め、う歯の治療率を高める目的で、「歯っぴー銀行」の運営を行う。ヘルスプロモーション活動として、「歯っぴークッキング」や歯・口臭に効果があるとされる「なた豆の栽培」を行う。
- (3) 歯っぴー集会の開催
児童が歯と口の健康づくりについて学んだことを保護者や他の学年の児童、地域の方々に発表し、啓発していく場として歯っぴー集会を開催する。「歯っぴーソング」を歌ったり、それぞれの学年の出し物を楽しんだりしながら、みんなで学んだり交流を深めたりする。
- (4) 歯・口の健康診断
年2回の歯・口の健康診断を児童の健康づくりの場とするため、ショートの学級活動に位置づけ、事前・事後指導を行う。健康診断実施後は歯肉炎が見つかった児童を対象に個別指導を行う。指導後にも歯肉炎が改善されたか1ヶ月以内をめどに歯肉検査を実施する。

6 健康づくり指導計画表や学級活動指導計画一覧表の作成

平成26年度 歯と口の指導計画表

要素	課題	到達目標	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
生活行動	早寝・早起き・朝ごはんの習慣化	自分で就寝時間を決められる	○	◎	◎			◎	
	寝る前に歯みがき	自分から寝る前の歯みがきができる	○	◎	◎				
	仕上げみがき	家族が第一臼歯の大切さを知り、みがける	○	◎					
食生活	食事のマナー	正しいマナーを身につけることができる	◎	○					
	良く噛む習慣	意識して良く噛むことができる	○	○	○	◎	◎	◎	
	食べ物の好き嫌い	食べ物の好き嫌いを変えることができる	◎	◎					
	バランスのよい食事と歯・口の健康	バランスのよい組み合わせや量がわかる	○	○			◎	◎	
	間食のとり方	時間をきめて間食をとることができる				○	◎	○	○
		歯により間食を選ぶことができる				◎	○	○	○
自分のからだに合った量を知っている					○	◎			
全身の健康づくりへの広がり	歯・口の健康づくりが全身の健康と関係していることがわかる				○	○	○	◎	
歯・口の清潔	歯ブラシの持ち方	自分の口に合った歯ブラシの持ち方ができる	◎	○	○	○	○	○	
	歯の汚れがわかる	汚れを染め出し、歯垢の付着がわかる	◎	○	○	○	○	○	
		歯垢が歯の汚れであることがわかる	○	○	○	◎	○	○	
	前歯・犬歯のみがきかた	歯の汚れをとり、表側がみがける	○	◎	○	○	○	○	
		歯の汚れをとり、裏側がみがける		○	◎	○	○	○	
		歯の汚れをとり、犬歯がみがける					◎	○	
奥歯のみがきかた	歯は立体で毛先をあてる工夫ができる	○	○	◎	○	○	○		
	第一大臼歯の噛み合わせをみがくことができる	◎	◎	○	○	○	○		
	小臼歯・第二大臼歯のかたちにあった歯みがきができる					◎	◎		
	すべての歯がきれいにみがける						◎		
歯や口の健康状態の理解	歯・口の健康診断とその受け方	健康診断の意義を知り、自分のからだを知る	○	○	○	○	○	○	
	乳歯から永久歯への交換と成長	永久歯の特徴を知り、守り育てる態度を養う	◎	○	○	○	○	○	
	歯の形とその役割	人間の歯と動物の歯を比較して役割の違いを理解する			◎	○	○	○	
	むし歯や歯肉の病気の原因と予防法	むし歯の原因を知り、予防する行動ができる	○	◎	○	◎	○	○	
歯肉炎の原因を知り、予防する行動ができる				○	○	◎	○		
	DMF 1 歯以内を目指す						◎		
病気やけがの予防	あやまった生活習慣による病気を知る	ふだんの生活習慣が大切であることがわかる	○	○	○	○	○	◎	
		よい生活習慣が健康づくりに必要であることがわかる	○	○	○	○	○	◎	
		自分で健康のため生活習慣を変えることができる	○	○	○	○	○	◎	
	生活環境が予防に大切なことがわかる	タバコの害を知る						◎	
けがの防止について知る	からだや衣類を清潔に保つ行動ができる			◎					
	安全な行動をとることが大切であることがわかる			◎		◎			
歯や口の中のように知る	歯・口の機能について知る	歯・口にはいろいろな機能があることを知る	○	○		◎	○	○	
		いろいろな器官が連係して動いていることを知る				◎	○	○	
		唾液には多くの働きがあることがわかる					○	◎	

◎・・・「学級活動」、「家庭科」、「生活科」、「総合的な学習」などで指導する。

○・・・学年の実態に応じて指導する。

◎や○がない場合でも、日常指導や学級指導で扱う。

平成26年度 歯・口の健康づくり指導計画一覧表（学級活動を中心として）

学年		関連学習内容												
1年生		★わかつたかな？自分の歯・口 ☆歯スタ 6才きゅうしがはえたよ												
2年生		★わかつたかな？自分の歯・口 ☆歯スタ プラークがかくれんぼ												
3年生		★わかつたかな？自分の歯・口 ☆歯スタ 歯！いろいろ												
4年生		★わかつたかな？自分の歯・口 ☆歯スタ むし歯の正体												
5年生		★わかつたかな？自分の歯・口 ☆歯スタ やだよ歯周病												
6年生		★わかつたかな？自分の歯・口 ☆歯スタ めざせゴールド歯つびー												
要素	課題	到達目標	関連学習											
		自分で就寝時間を決められる												
生活行動	睡眠	早寝・早起き・朝ごはんの習慣化												
		寝る前に歯みがき												
食生活	食生活	食生活の好き嫌い												
		食事のマナー												
歯・口の清潔	歯・口の清潔	歯の汚れがわかる												
		歯の汚れをとり、表面もみがける												
歯や口の健康状態の理解	歯や口の健康状態の理解	歯の形とその役割												
		歯の役割をとり、裏側もみがける												
病気の予防	病気の予防	歯の予防												
		歯の予防												

Ⅲ 研究の実践

1 各学年の授業実践

Ⅲ 研究の実践

1 授業実践を中心として

わかば学級

平成25年度

1 学級活動の実践①

わかば学級 学級活動指導案

平成25年10月29日(火) 第5校時 指導者 T1 岡崎多香子

T2 安田 麻美

GT 片山 祐子 歯科衛生士

- 1 題材名 歯っぴーおやつ(歯によいおやつのとり方)
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

本題材は、心身ともに健康で安全な生活態度の形成に関わる内容である。おやつには、勉強や運動などで疲れた体や心をリラックスさせる効果があるだけでなく、気分転換になり心理的にも良い影響をもたらすと考えられる。また、3食だけでは不足しがちな栄養を補う役割もある。おやつは生活に潤いを与える楽しみがあるが、摂取しすぎや不規則な食べ方による弊害が生じている等の健康面に悪い影響をおよぼしている子どもも見受けられる。

そこで、児童が関心をもって楽しく学習に取り組むことができるように、実際におやつを食べる活動を取り入れる中で、自分の「おやつのとり方」について見直し、望ましいおやつのとり方を理解し、自分の健康を考えて「むし歯にならないおやつのとり方をしよう」とする態度を育てたい。

○児童の実態

本学級の児童は、いつも給食に出るデザートを楽しみにしている。家族と買い物に行った際は、おやつを自分で選んだり、家でも好きなおやつを食べたりするようになってきている。日常のおやつアンケートでは、おやつはほとんど毎日食べており、1回のおやつに複数の物を食べていること、砂糖が多く入った食品や柔らかく歯にまとわりつく物を食べていることなどがわかった。また、食後の歯みがきの習慣はかなり身に付いているものの、おやつの後にはうがい、歯みがきをしている児童は少ない。歯・口の健康については知識としては何となく知っているが、おやつにその知識をあまり生かしていないと思われる。

そこで、視覚的に分かりやすい掲示物を用意したり、歯科衛生士の専門的な立場からの話や、一人一人の実態にあった細かい指導をしたりすることで、歯によい、望ましいおやつのとり方の知識を身に付け、「むし歯にならないおやつのとり方をしよう」という意識を高めて実践につなげていきたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

導入で、事前の「歯っぴーおやつアンケート」の結果を基に普段のおやつのとり方について振り返りをする中で関心をもって学習に取り組むことができるようにする。また、歯にくっつきにくいもの、くっつきやすいものを食べた時の口の中の違いを観察するために実際におやつを食べる活動を取り入れて、口の中の様子を実感したり比較したりするなど、楽しく、意欲的に学習を進めるとともに、よりよいおやつのとり方について考えることができるようにしたい。

(2) TT指導を生かす

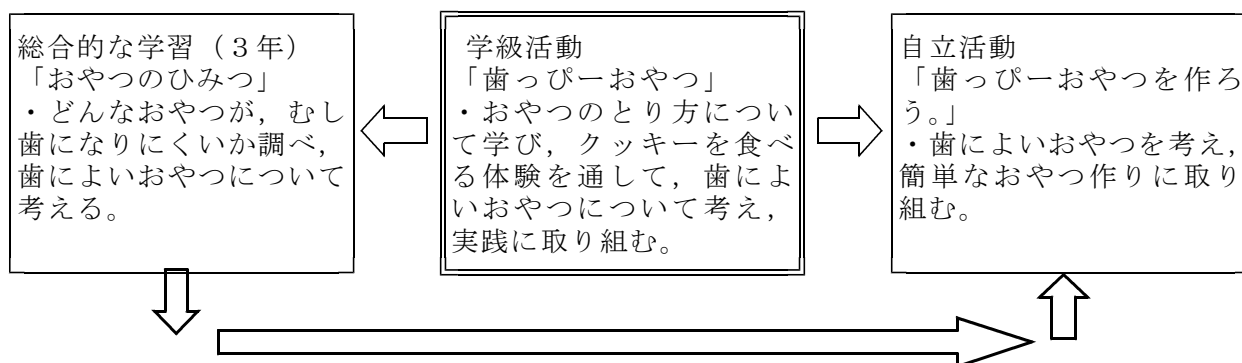
本時は、おやつをとる意味や問題点について歯科衛生士の専門的な話を取り入れることで、おやつのとり方の課題へとつなげていきたい。おやつを食べたり、「歯っぴーおやつ」について考えたりする活動でも、必要に応じてTTによる個別支援を行い学習の視点がずれないようにしたい。また、歯科衛生士がおやつのとり方の工夫について具体的に話をするにより児童が自分にあつたためあてを設定できるようにしていきたい。

(3) 話し合い活動を充実させる

おやつを分類する活動では、イメージしやすいように写真等、視覚的に提示する。おやつのとり方の工夫についての説明では、「種類」「時間と量」「食べた後」の観点に分けることで自分の考えをもちやすくする。また、話し合い活動では、グループで相談す

る場面を設け、上学年のリーダーが中心になって意見交換ができるようにしたい。

3 他の教科との関連



4 本時のねらい

- 自分のおやつのとりに方を振り返り、歯によいおやつのとりに方について教師や友達と一緒に考え、これからの生活に生かそうとしている。
(A児・B児・C児・D児・E児)
- 自分のおやつのとりに方を振り返り、歯によいおやつのとりに方について考え、学んだことを生活に生かそうとしている。
(F児・G児)

5 評価規準

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活について の知識・理解
A児 B児 C児 D児 E児	おやつのとりに方について関心をもち、自主的に日常生活に生かしたり学習に取り組もうとしたりしている。	歯によいおやつのとりに方について話し合い、自分に合ったおやつのとりに方について教師や友達と一緒に考え、判断し、実践している。	歯によいおやつのとりに方について理解している。
F児 G児	おやつのとりに方について関心をもち、生活の充実のために自主的に日常生活に生かしたり学習に取り組もうとしたりしている。	歯によいおやつのとりに方について話し合い、自分に合ったおやつのとりに方について考え、判断し、実践している。	歯によいおやつのとりに方について理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	10月15日(火)	○「歯っぴーおやつ」についてのアンケートを実施する。
本時	10月29日(火)	○歯によいおやつのとりに方をすることによって、健康な生活が送れることが分かり、「歯っぴーおやつのとりに方」について考え、自己決定する。
事後	10月29日(火) ～ 11月7日(木)	○「歯っぴーおやつ週間」を設定し、自分で決めたことを続ける。 ○「歯っぴーおやつメニュー」を考える。 ◆【知識・理解】 歯によいおやつのとりに方について理解している。 (A児・B児・C児・D児・E児・F児・G児) (歯っぴーおやつメニューカード) ○家庭や学校でおうちの人や友達と一緒に「歯っぴーおやつメニュー」を実践する。(自立活動)

7 本時の展開

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 ・ 評 価 に 関 す る 配 慮 事 項 な ど
<p>1 アンケートの結果を基に、本時の学習のめあてをつかむ。</p>	<p>○アンケート結果を基に、いつも食べているおやつを想起するとともにおやつを食べる意味を考える。 ○歯科衛生士のおやつを食べる意味と課題について具体的な話を聞くことにより、おやつのとりに方について意識を向けていく。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「歯っぴーおやつ」について考えよう。</div>	
<p>2 おやつを食べた時の口の中の様子を観察する。 ・りんごを食べた時 ・クッキーを食べた時 ・お茶を飲んだ後</p>	<p>○見るポイント（例示を）を確認することで、一人一人が意欲をもって口の中の様子を観察できるようにする。 ○手鏡を使って口の中の様子を丁寧に観察できるようにする。 ○T 1, T 2 は、観察の視点がずれないように個別の支援をする。 ○りんごを食べた後は、おいしくて甘酸っぱい果汁や果肉が口の中に少し残っていることに気づかせる。 ○クッキーを食べた後は、口の中においしくて甘い余韻が残っているが、リンゴを食べたときと比べて食べかすがたくさん歯にくっついていることに気づかせる。 ○お茶を飲んだ後は、まだ食べかすが残っているものの、口の中がさっぱりすることを実感させる。</p>
<p>3 おやつの仲間分けをする。</p>	<p>○いろいろな種類のおやつを、歯にくっつきやすいものとくっつきにくいものに分類することで歯によいおやつについて考えることができるようにする。 ○T 2 は、判断がむずかしいと思われる A 児・B 児を中心に個別の支援を行う。</p>
<p>4 「歯っぴーおやつ」のとりに方の工夫について話を聞く。</p>	<p>○歯科衛生士が、おやつのとりに方の工夫を「種類」「時間と量」「食べた後」の観点に分けて具体的に説明することにより、一人一人が自分の目標を立てやすいようにする。</p>
<p>5 「歯っぴーおやつ」にするためにできそうなことについて話し合う。</p>	<p>○「歯っぴーおやつ」にするためにできそうなことを、二つのグループに分かれて話し合う。 ○班長を中心に、できるだけたくさんの意見交換ができるようにする。 ○T 1, T 2 は、それぞれのグループに入り、実態に合わせた個別指導を行い、一人一人が自分の考えをもつことができるようにする。 ○出された意見は、班長や教師がメモを取るようにする。 ○なかなか意見が出ない場合には、「歯科衛生士の話を参考にしよう。」と助言したり、具体的な例を挙げたりして考えるヒントとする。 ○全体で発表することで、一人一人の考えを広げるようにする。 ○板書の中から、「本当に実行できるか？」の観点で、自分が実行することを1つ決めるようにする。 ◆【思考・判断・実践】 話し合いを基に、自分に適した「歯っぴーおやつ」にするための方法を教師や友達と一緒に考えて、決めている。 (A 児・B 児・C 児・D 児・E 児) 話し合いを基に、自分に適した「歯っぴーおやつ」にするための方法を決めている。 (F 児・G 児) ＜学習カード、観察＞</p>
<p>6 本時のまとめをする。</p>	<p>○自己決定しためあてを発表して、「歯っぴーおやつ週間」への意識を高めていく。 ○「歯っぴーおやつ」について一生懸命考えたことを称揚する。</p>

8 反省と考察

(1) 児童の興味・関心から

・導入で、アンケートをもとに児童が大好きなおやつを取り方について振り返りを行うことで「歯っぴーおやつ」について関心をもつことができた。また、歯にくっつきにくいもの、くっつきやすいものを食べた時の、口の中の違いを観察するために、実際にクッキーとリンゴを食べる活動を取り入れた。一人一人、口の中の様子を実感したり比較したりすることができて良かった。おやつの仲間分けでも、普段、自分たちが食べているいろいろな種類のおやつを歯にくっつきにくいもの、くっつきやすいものに分類することで、歯によいおやつについて考えることができた。



歯によいおやつについて考えよう

(2) TT指導を生かす

・学習のめあてをつかむ場面では、おやつをとる意味、問題点について、歯科衛生士の話を取り入れたので、本時の学習の課題へとつなげることができた。また、専門的な立場から、おやつのとり方の工夫を「種類」「時間と量」「食べた後」の観点に分けて説明していただいた。絵図を用いての具体的な話だったので、とても分かりやすく、児童一人一人が自分の目標を決める時の参考になった。TT指導については話し合いの際、T1、T2で分担し、それぞれのグループに入って助言したり出た意見をカードに書いたりすることができたのは良かった。しかし、思考・判断がむずかしいと思われるA児・B児については、短時間の中では十分な支援ができなかったので、今後は活動の時間配分等を工夫し、実態に合わせた支援を行っていきたいと思う。



歯科衛生士の話



グループでの話し合い

(3) 話し合い活動を充実させる

・おやつを分類する活動では、写真等、視覚的に提示したのでイメージしやすくなり活発に発言できた。「歯っぴーおやつ」にするためのグループでの話し合いでは、班長を中心にできるだけたくさんの意見交換ができるようにT1、T2がそれぞれに支援を行った。歯科衛生士の話や教師の具体例が参考となり、いろいろな意見が出たものの、やや上学年中心の話し合いとなった。班長、副班長の下学年への関わり方の指導もしていきたい。



自分のめあてを決める

2 自立活動の実践

①「歯っぴーおやつをつくろう」

学級活動「歯っぴーおやつ」の事後として、「歯っぴーおやつメニュー」をみんなで考えた。歯によいおやつとは、「歯にくっつきにくいもの」、「口の中ではやくとけるもの」として捉えている児童は、最初、果物を使った「フルーツポンチ」「フルーツ白玉」「フルーツプリン」等のメニューを提案した。「本で調べてみよう。」という5年生、G児の声で図書室の本で探したところ、「歯によいおやつづくりシリーズ」から「じゃこいりピザ」が目

にとまった。ピザが大好きな7人は、やる気満々で、「歯っぴーピザ」と名付け、調理活動を行った。まずは、ピザクラフトにたっぷりのじゃこ。その後、それぞれ好みの具材をのせ、オーブンで焼いてできあがり。児童の感想は、「おいしいね。」「簡単で、はやくできるね。」等と大好評であった。「日曜日、家で『歯っぴーピザ』を作りました。」というおうちの人からのメッセージも届いた。



みんなで、おいしい「歯っぴーピザ」づくり

3 歯っぴー集会での発表

「歯っぴーおやつについて、御北小学校のみんな、おうちの人達に分かりやすく伝えよう。」というめあてで、内容、役割分担について話し合いをした。「歯っぴーおやつとは」「おやつの役割」「歯っぴーおやつにするための工夫」「歯っぴーおやつにするために自分たちが頑張っていること」「みんなへの呼びかけ」等を柱として発表しようということになり、5年生G児、4年生F児が中心となって練習計画を立てた。「大きな声でゆっくり説明すると、聞く人は分かりやすいね。」「歯っぴーおやつにするための工夫は特に大切だから、写真や絵を指しながらいねいに発表しよう。」等、建設的な意見を出し合って練習に励んだ。当日は、7人それぞれが自分の役割をしっかりと果たし、堂々と発表することができた。これからも、ヘルスプロモーターとして、学んだことを全校へ、家庭へ、地域へと広げていきたいと思う。



「歯っぴーおやつ」の発表

4 学級活動の実践②

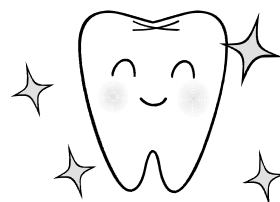
「歯や口のけがについて考えよう」

本題材は参観日に実施し、おうちの方にも授業に参加していただいた。導入で、「歯や口のけがにはどんな種類があるか、どんなときにけがが起きるか。」について写真を手がかりに考えた。実際に歯のけがを経験した児童もいて、現実の問題としてよく考えることができた。また、普段の生活から、けがが起こりやすい場面も思い起こすことができた。おうちの人からも、子どもの頃の歯のけがについて話をしていただき、気をつけなければいけないことを自分のこととして考えることができた。

「もしけがをしたらどうすればよいか。」については、「①歯を探す。②水道水で洗う。③乾燥しないように保存（牛乳に入れる、またはほっぺの内側に入れる。）④できるだけ早く歯医者さんに行く。」を写真や絵図を用いて、具体的に説明した。終末の「歯や口のけがをしないためには、どんなことに気をつければよいでしょう。」では、「ふる場で遊ばない。」「体育の時は、よそ見をしない。」「遊具で遊ぶ時は、ふざけない。」「道具を使って遊んだり運動したりするときはまわりをよく見て確かめる。」「牛乳をいつも冷蔵庫に入れておく。」等、たくさん意見が出た。おうちの人からも「授業に参加して、救急処置のことが分かってよかった。」という感想をいただいた。今後も、保護者参加の授業を工夫していきたい。



「歯や口のけがについて考えよう」の授業の様子



平成26年度

1 学級活動の実践

わかば学級1 学級活動導案導案

平成26年7月16日(水)

第4校時

指導者 安田 麻美

G T 藤川 典子 栄養委員

- 1 題材名 「なんでもすきスキ！」
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(キ) 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 指導上の立場

○題材について

食することは生きる上での基本となり、成長期の児童にとって、バランスのとれた食事をとることは健康な身体を保つために大切であると考えます。また、将来自立し、社会参加するために、望ましい食習慣を身につけることは重要であると考えます。しかし、日常生活の食事で、好きなものは食べ、初めて食べるものや苦手なものは残すなど偏った食事をしている児童もいます。これは栄養のバランスの大切さの理解が不十分であることも理由として考えられる。

そこで、専門的な立場の人から話を聞くことで、学校給食や家庭の食事は栄養のバランスを考えて作られていることや、何でも食べることの大切さを理解し、自分の生活を振り返ることで課題に気づくようにする。そして、体験活動によって苦手なものでも工夫をすればおいしく食べられることを知ることで、自分自身の健康のために何でも食べてみようとする態度を育てたいと考える。

○児童の実態

本学級は特別支援学級(知的)で、A児2年、B児4年の2名が在籍しており、毎日の献立を確認するほど給食は楽しみにしているが、好き嫌いは多い。A児は前学年に比べ、完食できる回数が増え、食べる量も多くなったが、苦手なものがあると、減らしても残してしまうことがある。B児は好きなものを時間内に食べることはできるが、初めて食べるものや苦手なものは量を減らしても残してしまう。A児はピーマン、しいたけ、B児はトマト、わかめ、なす等が苦手である。

毎日の給食時間に、苦手なものでも少しは食べてみようと言葉がけをしながら給食指導を行っているが、残食はなかなか減らない。好き嫌いはよくないと知っているが、なぜよくないかについてまで正しく理解できていないのが一因であるようだ。そこで、視覚的にわかりやすいように写真やイラストを用意したり、興味関心を生かすためにパペットを使用したりして、何でも食べることの大切さを知ることで、苦手なものでも食べてみようとする態度を育てたいと考える。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

児童がなぜ好き嫌いはよくないかについて理解する場面では、栄養のバランスのとれた食事をするための大切さを児童にとって身近な学校給食をつかって理解できるようにする。また、視覚的に理解しやすいようにパペットやイラスト、写真を効果的に活用していく。

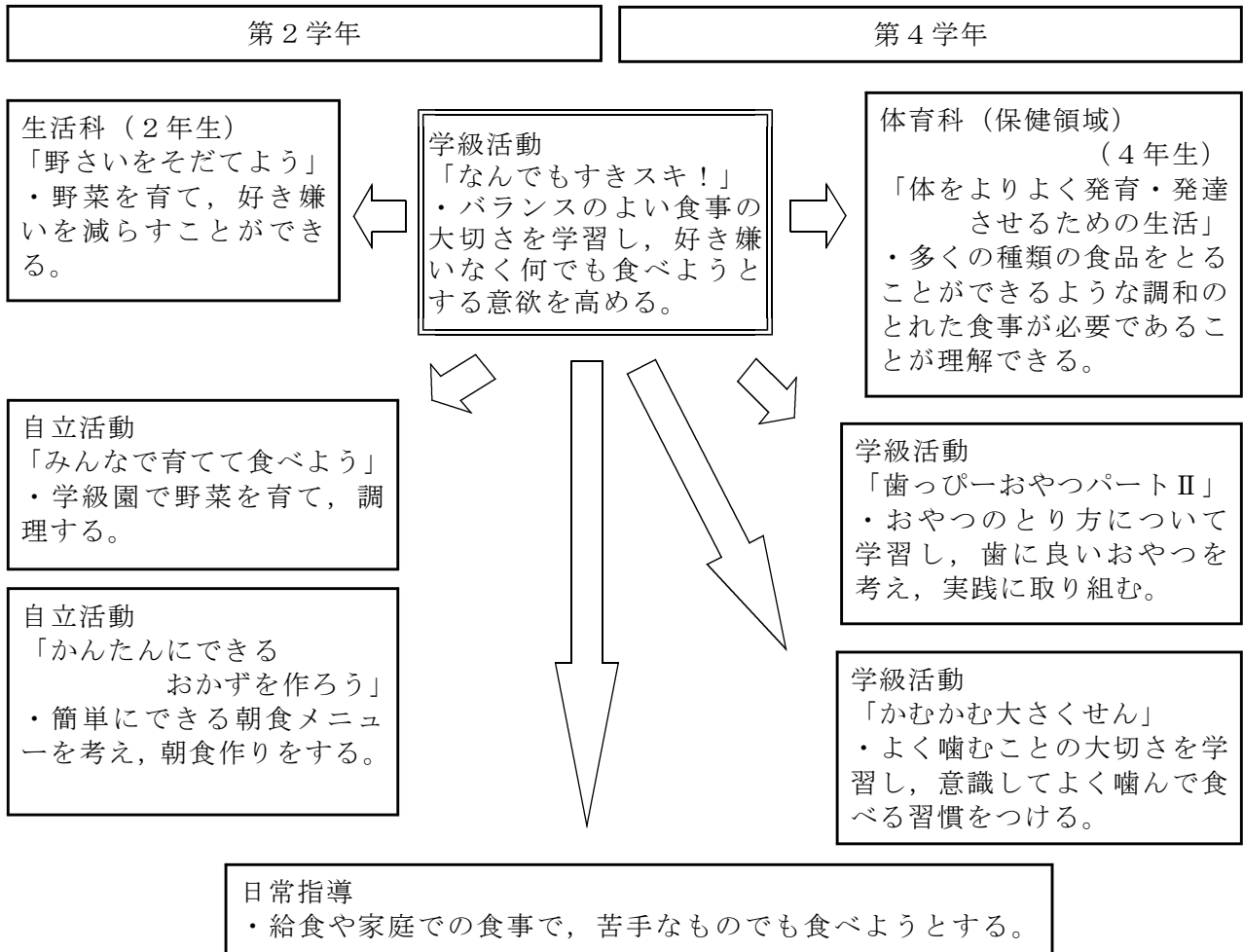
(2) T T指導を生かす

栄養委員が作った、児童が苦手なものを入れたおかしで、苦手なものでも調理や工夫次第でおいしく食べられることを実感できるようにする。また、専門的な立場から何でも食べるための大切さや、児童の実態に合った工夫の仕方の助言をもらうことで自分に合った方法を考えられるようにする。

(3) 話し合い活動を充実させる

苦手なものでも挑戦していく方法を話し合う場面では、写真やイラストを視覚的に掲示し、自分の考えをもちやすくする。また、教師と栄養委員も話し合い活動に加わり、多様なアイデアが出るような発問を工夫し、話し合いが活発になるようにしたい。

3 他の教科等との関連



4 本時のねらい

- バランスよく何でも食べることの大切さを知り、苦手なものを食べるための工夫を教師と一緒に考えたり、栄養委員の話から考えたりしてこれからの日常生活に生かそうとしている。
(A 児)
- バランスよく何でも食べることの大切さを知り、苦手なものを食べるための工夫を教師と一緒に考え、学んだことを日常生活に生かそうとしている。
(B 児)

5 評価規準

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
A 児	バランスよく何でも食べることの大切さに関心を持ち、日常の食事で苦手なものを工夫して食べようとしている。	苦手なものを食べる工夫について話し合い、自分に合った解決方法について考え、判断し、実践している。	バランスよく何でも食べることの大切さを理解している。
B 児	バランスよく何でも食べることの大切さに関心を持ち、日常の食事で苦手なものを工夫して食べようとしている。	苦手なものを食べる工夫について話し合い、自分に合った解決方法について教師と考える、判断し、実践している。	バランスよく何でも食べることの大切さを理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	6月4日(水)	○好き嫌いアンケートをする。
本時	7月16日(水)	○バランスよく何でも食べることの大切さを知り，苦手なものを食べるための工夫を考え，決定する。
事後	7月16日(水) ～ 7月22日(火)	○「なんでもすきスキ週間」を設定し，自分が決定した方法を実践する。 ○学級通信等で，家庭との連携をはかり，自分で決めたことが実行できるようにする。

7 本時の展開

	学 習 活 動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。	○栄養委員が学校給食や家庭の食事は栄養のバランスを考えて作られていることを伝え，日常の食事の大切さを理解できるようにする。 ○児童が興味をもって話が聞けるよう，パペットを使ってバランスよく何でも食べることの大切さを伝える。
		にが手なものでも食べられる方法を1つ決めよう。
知る	2 苦手なものでもおいしく食べられる方法を知る。	○苦手なものを材料としたおかしを食べ，苦手なものでも工夫をすればおいしく食べられることを実感できるようにする。 ○栄養委員が他の工夫を紹介することで，次の話し合い活動につなげるようにする。
話し合う	3 苦手なものを食べるための工夫を考え，話し合う。	○教師や栄養委員も話し合い活動に参加し，実態に合わせた個別指導を行う。 ○A 児が工夫を考えることが難しい場合は，具体的な例を挙げ考えるヒントとする。 ○B 児が工夫を考えることが難しい場合は，友達の意見に対して「どう思う？」と問いかけるようにする。 ○児童のアイデアを教師が短冊に書き，掲示することで，決定するときの手だてとなるようにする。 例)・苦手なものを先に食べる。 ・好きなものと一緒に食べる。 ・小さく切って食べる。 ・鼻をつまんで食べる。
決める	4 話し合いを基に，自分にできそうなことを決定する。	○自分が決定したことを全体で発表することで，苦手なものでも工夫して食べようとする意欲を高めるようにする。 ○1人で発表が難しい児童には，一緒に発表するように支援する。 ○児童のアイデアが適切かどうか専門的な立場から栄養委員が助言をすることで，児童の意欲をより高めるようにする。 ◆【思考・判断・実践】 苦手なものを食べる工夫を話し合い，自分に合った工夫を決めている。 <ワークシート，観察>
	5 本時のまとめをする。	○「なんでもすきスキ週間」を設定し，自分が決めた工夫で1週間取り組むことを伝える。

8 準備物

- ・パペット，おかし，短冊，ワークシート

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

- ・本時は、パペットを使って栄養委員さんと対話をする形でバランスよく何でも食べることの大切さを理解できるようにした。長時間、話を聞くことが難しい児童であるため、パペットを使うことで関心をもって話を聞くことができた。しかし、教師と栄養委員さんの立ち位置が離れていたため、パペットと栄養委員さんが対話をしていることが理解しにくかった。児童の目の前でを行うと、より興味をもって聞くことができると感じた。栄養のバランスのとれた食事をするることの大切さを理解する場面では、児童にとって身近な学校給食をつかった。そのことで、授業後の給食では、自分で決定したことを生かし、苦手なものを食べている児童もいた。



バランスよく何でも食べることの大切さについて知ろう

(2) TT指導を生かす

- ・前時に、栄養委員さんと「ぎょうぎピザ作り」を行ったことで、本時でも、児童は安心して活動することができた。児童が苦手な食材を使ったパウンドケーキを作ってきてくださり、苦手なものでも調理を工夫すればおいしく食べることができることを実感することができた。しかし、もっとおかしを生かした展開をする必要があった。例えば、栄養委員さんが調理の方法を具体的に教えてくださったので、話し合いのヒントとなるように板書したり、実際に食材を準備したりすることで、苦手な食材からおかしへの変化の様子が理解でき、より驚きと「食べることができた。」と実感することができると感じた。また、児童が決定したことを専門的な立場から助言をしていただくことで、取り組むための意欲につながった。



栄養委員さんの話



苦手な食材が入ったおかしを食べる

(3) 話し合い活動を充実させる

- ・少人数であることや、自分の意見を言うことが難しいこと、長時間座っていることが難しい児童であるため、イラストや写真から考えたり、クイズをしたりする工夫が必要であった。栄養委員さんが、苦手なものでも食べられる方法を紹介して下さることで、話し合いのヒントとなり、児童から意見が出た。教師が方法を短冊に書くことで、決定するときの手立てとなり、児童はスムーズに決定することができた。しかし、教師が短冊にすぐ意見を書いたため、話し合いがふくらまなかつたので、メモをとる等の工夫が必要であった。



教師、栄養委員も話し合い活動に参加

平成26年7月9日(水) 第4校時 指導者 林 司
T T 峯園 友理 栄養教諭

- 1 題材名 「バランスよくなんでも食べよう」
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(キ) 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 指導上の立場

○題材について

人は生命を維持し、活動したり望ましい成長をしたりするために必要な栄養素を食物から摂取している。主要な栄養素には、炭水化物・脂質・たんぱく質・無機質・ビタミンがあり五大栄養素と呼ばれている。それらは相互に関連をもちながら、健康の保持増進や成長のために役立っていることから、多様な食品を組み合わせた、栄養のバランスのとれた食事のとり方を身に付けることが大切である。本題材では、学年の発達段階や個の実態に応じて、日常の食事の大切さや食品のもっている栄養について知り、バランスのとれた食事のとり方が理解できるようにすることをねらっている。そこで、本授業では、学校給食を教材として活用することで、学校給食が多様な食品を使い、栄養のバランスを考えて作られていることに気付かせ、今後もいろいろな食品を食べ、バランスを考えて食事をとろうとする態度を育てたい。

○児童の実態

本学級は、特別支援(自閉症・情緒)の学級(3年1, 4年4, 5年1, 6年1計7)である。給食によく使われる食品に関する好き嫌いのアンケートでは、残さず食べる児童がほとんどで、苦手な食品も食べようと努力している。(下記一覧表参照)児童は、学校給食の献立や給食中の放送により、食品が体内での栄養素の働きにより3つのグループに分かれていることは知っている。しかし、栄養素の働きについて理解できている児童は少ない。そこで、栄養教諭が3つのグループに分かれている意味や食品をバランスよくとることの大切さを教え、児童の理解を深めたい。食事への興味・関心をより一層高め、バランスのとれた食事を残さず食べるために、自分でめあてを考えて取り組もうとする態度を育てたい。

[苦手な食品のアンケート結果]	
A (3年)	苦手な食品はない。
B (4年)	いか, わかめ, こんぶ, きのこと類, トマト
C (4年)	肉類, 乳製品, 海藻類, きのこと, にら
D (4年)	ほうれんそう, れんこん, にら
E (4年)	白いご飯(米), チーズ, 魚, 海藻, 豆, きのこと
F (5年)	うどん, 肉類, 魚, たまねぎ, きのこと, トマト
G (6年)	グリーンピース, 生野菜

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

本題材では、学校給食や、その中に出てくる食品を取り上げることで、児童が共通の経験を通して考えられるようにする。また、児童のアンケート結果を基に授業を展開することで、自分自身のこととして捉えることができると考える。また、給食の献立に使われている食品を3つのグループに分けるクイズを行うことで、楽しみながら食品の献立が栄養バランスを考えて作られていることを理解させる。

(2) T T指導を生かす

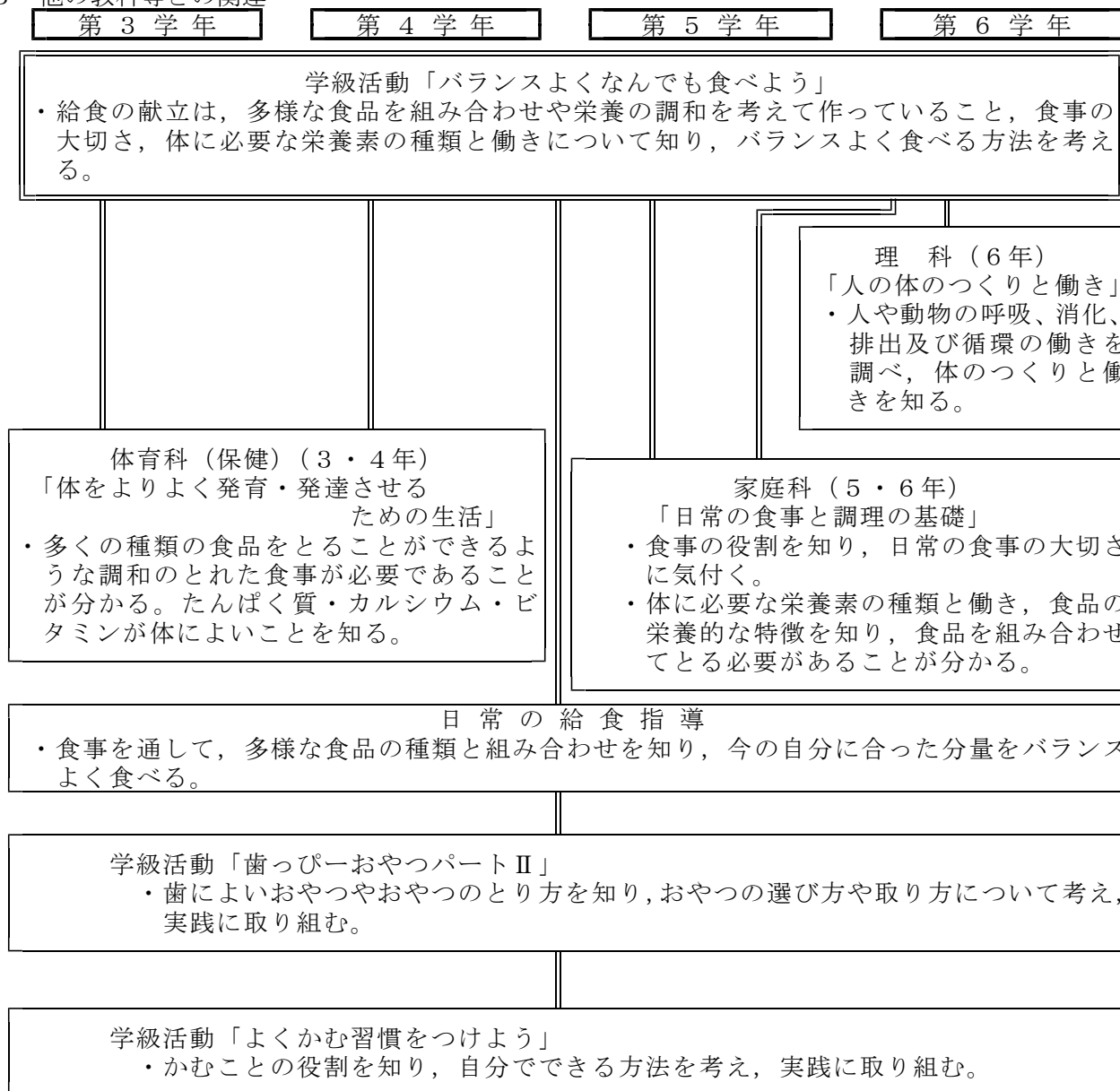
本時では、栄養教諭の専門性を活かした指導により食品が3つのグループに分かれる意味やその大切さを理解できるようにする。また、食材がもつ栄養の働きについて、児童一人一人の実態に合った説明を工夫することにより理解を深めたい。次に児童が自分に合った食事のとり方を考える場面では、栄養教諭と連携しながら、児童の実態に合ったアドバイスをしていくことで、より実践意欲が高まるように支援をしていく。

(3) 話し合い活動を充実させる

本学級の児童は、多くの人の前では自分の意見を言いにくいので、自分の意見をもつ時間をしっかり確保する。その上で、高学年の児童をリーダーとしてグループでの話し合いを進めたり、意見をまとめていくようしたりする。次に自分でめあてを考えて決める場面でも、グループで自分の考えを出し合いながら話を進めていくようにす

ることで、友達の意見を参考にしながら考えられるようにしたい。そのためには、指導者と栄養教諭が付箋に児童の考えを書いて貼り、視覚的に友達の考えが見えるようにする。話し合いの場では、栄養教諭の説明を想起させながら、苦手な食品と別の食品の組み合わせや献立や調理の工夫等について解決方法を話し合えるように支援していきたい。

3 他の教科等との関連



4 本時のねらい

- 自分の食生活に関心を持ち、栄養教諭の話からバランスよく食事をする大切さを知るとともに、食事における自分の課題に気付き、指導者や友達と一緒に考えて、友達の発表内容を参考にしながら、自分に合ったよりよい解決方法を決め実践しようとしている。
(A児・B児・C児・D児・E児)
- 自分の食生活に関心を持ち、栄養教諭の話からバランスよく食事をする大切さを知るとともに、食事における自分の課題に気付き、自分に合ったよりよい解決方法を決め、実践しようとする。
(F児・G児)

5 評価規準

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
A児	自分の食生活に関心を持ち、進んで日常生活に望ましい食事のとり方を生かそ	栄養のバランスの取れた食事をするための方法を教師や友達と一緒に考え、実	栄養のバランスのとれた食事が大切であることやそのとり方を理解している。
B児			
C児			

D児 E児	うとしている。	践している。	
F児 G児	自分の食生活に関心を持ち、進んで日常生活に望ましい食事のとり方を生かそうとしている。	栄養のバランスの取れた食事を残さず食べることができるとの自分に合った方法を考え、判断し、実践している。	栄養のバランスのとれた食事が大切であることやそのとり方を理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	6月19日(木) 7月3日(木)	○「好きな食品や苦手な食品のアンケート」を実施する。 ○給食時間中に栄養教諭が、食品が体をつくる働きにより3つのグループに分かれている意味や食品をバランスよくとることの大切さについて指導する。
本時	7月9日(水)	○食事の取り方を振り返り、食事の役割や健康な体づくりのために必要な食品の栄養素とその働きを知り、残さず食べるために、自分に合った方法を考え決定する。
事後	7月9日(水) 7月16日(水)	○「バランスよくなんでも食べよう週間」について、家庭にもお知らせし協力を依頼する。

7 本時の展開

	学 習 活 動	指導・支援・評価に関する連絡事項など
つかむ	1 栄養教諭の話を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。	○食品が体内での栄養素の働きにより3つのグループに分かれることの意味や食品をバランスよく何でも食べることが大切であるという栄養教諭の話を想起させ、本時の課題へつなげる。
	バランスよくなんでも食べるための方法を考えよう	
知る	2 学校給食のある一日の献立から、使用されている食品を3つのグループに分類するクイズをする。	○学校給食のある一日の献立から、使用されている食品を3つのグループに分類するクイズをし、給食の献立はバランスを考えて作られていることに気付くようにする。 ○給食の栄養バランスを確かめるために一学期の献立表の全食品について、体をつくる食品の3つのグループ別毎の使用状況を調べた資料を提示する。
話し合う	3 バランスよく何でも食べる方法について考え、話し合う。	○栄養教諭が「調理の仕方によっては、自分の苦手なものも食べられることがある」という事例を紹介することで、苦手を克服しようとする意欲につなげる方法を考えるきっかけとする。 ○バランスよくなんでも食べる方法について、2つのグループで話し合い自分の意見を出しやすくする。 ○高学年の児童（F児・G児）が、話し合いを上手に進められるように話し合いの柱を記述したワークプリントを用意する。 ○高学年の児童（F児・G児）に、話し合いの方向が変わらないように適宜支援する。 ○机間指導で、栄養教諭の話を参考にしながら担任も補足説明し個別に支援する。 (A児・B児・C児・D児・E児) ○大声を出してしまう児童（E児・G児）には、他のグループや周囲に配慮するように言葉がけをする。また、活動の意欲を失わないような言葉がけをしていく。
決める	4 自分に合った方法を考えて発表する。	○自分の考えを短冊に書き、黒板に提示し発表することで、実践の意欲を高める。 ◆【思考・判断・実践】 話し合いを基に、バランスよく何でも食べる方法を決めている。

〈ワークシート・観察〉

5 本時のまとめをする。

- 毎日の給食を残さず食べてほしいという願いを綴った給食調理員さんからの手紙を読むことで、バランスよく食べようという気持ちを高めていく。
- 「残さずなんでも食べよう週間」を設定することを知らせ、実践していくように伝える。

8 準備物

- ・クイズの記入用紙（児童用・掲示用），1学期の給食に使われた食品表，話し合いのポイントを記述したワークシート，めあてを書く短冊用紙，給食調理員さんの手紙，グループで出た意見を書く付箋（教師用）

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心から

- ・本時は、バランスよくなんでも食べるための方法を考えることを活動の中心に学習を進めた。児童が意欲をもって学習に取り組むために、学校給食やその中に出てくる食品を取り上げたことは効果的だった。また、給食の献立に使われている食品を3つのグループに分けるクイズを行ったが、児童は身近な給食のよく知っている献立だったので楽しみながら学習ができた。しかし、事前に行った児童のアンケート結果を基に授業を展開することは、自分自身のこととして課題を捉えることができ、授業への興味・関心がさらに増す手立てと思われたが、各児童へアンケート結果を知らせなかったために、「～がもし苦手だったら」という仮定で考え、課題を自分自身のこととして捉えることができなかった。



給食に使用されている食品を3つの色別に分ける

(2) TT指導を生かす

- ・ 本題材では、栄養教諭の専門性を生かした指導で、食品がもつ栄養の働きにより3つのグループに分かれる意味や、バランスよくなんでも食べることの大切さを児童の実態に応じた説明してもらった。次に本時の課題についても専門性を生かし、調理の仕方によっては自分の苦手なものでも食べられるような方法をいくつか紹介し、児童の課題解決への参考となった。また、グループの中の話し合いで自分の考えを发表或し、課題解決の方法を決定したりする活動では、指導者で2つのグループを分担して、話し合い活動の支援をすることができた。



栄養教諭が調理方法を紹介



グループの話し合いで運営を支援

(3) 話し合い活動を充実させる

- ・ 本学級の児童は、多くの人の前では自分の意見を言いにくいので、話し合いを活発させるためにグループ活動を取り入れた。また、グループで出た意見も付箋に書いて児童に見やすく工夫した。

しかし、話し合いを上手に進めていくことは高学年の児童にとっても難しいため、指導者や栄養教諭が司会をして、意見を出やすくしたりまとめたりする支援をした。

話し合い活動では、「～がもし苦手だったら」という仮定の意見を言うグループがあり、課題を自分自身のこととして考えにくく、友達の見解を参考にしながらの充実した話し合い活動ができなかった。事前に行ったアンケート結果を各児童に知らせておけば、課題を自分自身のこととして考え、もう少し話し合いが活発になったと思われる。



**グループで出た意見を付箋に書いて
友達の意見を参考にしやすくする**



**話し合いから自分の取り組みたい
めあてを書いている**

第1学年

平成25年度

1 学級活動の実践

第1学年 学級活動指導案

平成25年9月25日(水) 第4校時 指導者 佐野 隆朗
T T 村上 尚美 栄養士

- 1 題材名 「めざせ! おはし めいじん」
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(キ) 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 指導上の立場

○題材について

本題材は、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成に関わる内容である。食事のマナーとは、箸の持ち方や使い方、配膳の仕方、食器の並べ方、食べる時の姿勢や話題の選び方など多岐に渡っており、相手を思いやり楽しい食事をするためには、そのひとつひとつがどれも大切な要素である。本題材で取り上げる箸の役割は、和食の食事作法の中でもとても重要である。日本人として私達は給食をはじめとして、料理の多くを箸で食べるため、箸の使い方が正しくできていると美しく料理を食べることが可能であり、周囲にも好印象を与えることができる。その一方で、間違っただけの持ち方や使い方は周囲に悪い印象を与えるばかりでなく、成長してから間違っただけの使い方を正すことは決して容易なことではない。正しい箸の使い方を子どものうちに身に付けておきたいものである。そこで、小学校第1学年の段階で正しい箸の持ち方を理解し、正しく使おうとする態度を育てたいと考え、本題材を設定した。

○児童の実態

本学級の児童は、毎日の給食の時間をとても楽しみにしており、自分の食べられる量に気をつけながら調整をし、ほとんどの児童が完食できるようになってきている。また、年度当初から「1粒のお米も残さず食べよう」を合い言葉にしてきたため、食べ終えてぴかぴかになった食器を教師に自慢気に見せる児童も多い。しかし、正しい箸の使い方ができていないために、1粒残さず食べることにかなりの時間を要する児童がいるのも事実である。事前に行った「おはし」に関するアンケートでは、自分で「箸の持ち方が正しい」と思っている児童は7人中3人(正しくない:2人 よくわからない:2人)、また、「上手に箸が使える」と答えた児童は4人(使えない:2人 よくわからない:1人)という結果となっており、約半数の児童が「正しく箸を持ち、上手に使いこなしている」と感じている。しかし、教師の観察では、常に正しく箸が持てているのは1人であり、上手に使いこなしている児童は皆無に等しい。そこで、本題材では、小さく切ったスポンジや豆を皿に移し替える活動を通して、正しい箸の持ち方であると上手にものがかめることを体験するとともに、正しい持ち方の利点や大切さを理解し、「おはし名人」を目指して、日々の食生活の中での実践に向けて意識化できるようにしたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) T T指導を生かす

本時では、「おはし名人」として栄養士の立場からの専門的な話や提示等を行うことにより、児童が箸の持ち方や使い方について興味・関心が持てるようにするとともに、個別指導での充実を図るようにする。

(2) 話し合い活動を充実させる

箸の持ち方を練習する活動では、ペアを組み、相手の上手なところや頑張っているところなどを見つけやすくすることで、活発な話し合いができるようにする。

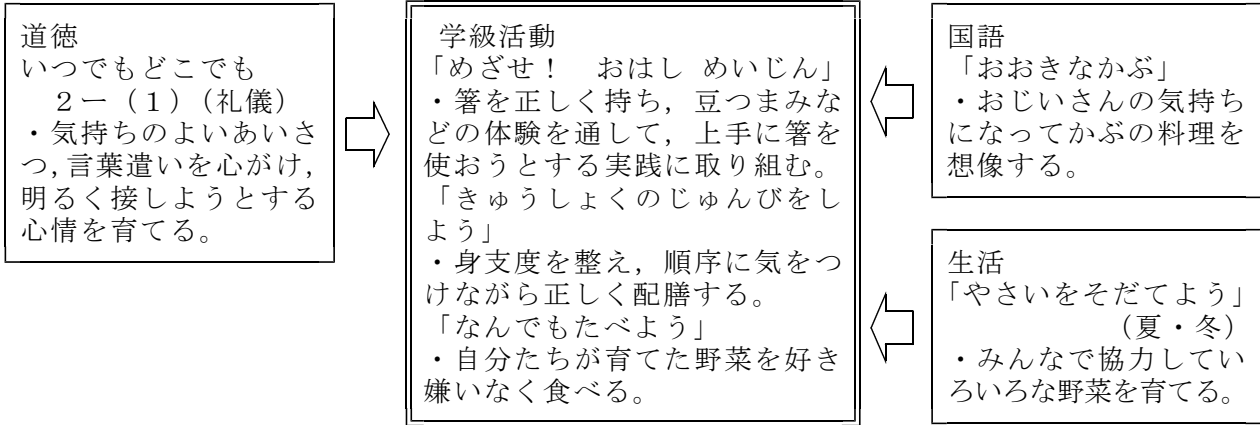
(3) 環境の充実を図る

児童の実践の意欲が高まるよう、事後には教室内にコーナーを設置し、いつでも箸の使い方の練習ができるよう環境の充実を図る。

(4) 「おはしの持ち方」練習カードの活用

学習したことを家庭でも取り組めるよう、「おはしの持ち方」練習カードを用意し、家庭との連携を図りながら毎日継続して実践できるようにする。

3 他の教科等との関連



4 本時のねらい

- 正しく箸を持つことの大切さや利点が変わり、これまでの自分の箸の持ち方や使い方を振り返りながら、上手に箸を使おうとする意欲をもつことができる。

5 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
進んで正しい箸の持ち方を練習しようとしている。	自分や友達の正しい箸の持ち方や使い方について考え、実践している。	正しい箸の持ち方や利点、使い方がわかる。

6 指導計画

事前	7月26日(金)	○「おはし」に関するアンケートを実施する。
本時	9月25日(水)	○正しい箸の持ち方や使い方の練習を通して、その大切さや利点が変わり、実践していこうとする。
事後	9月25日(水)～ 10月1日(火)	○「おはしの持ち方」練習カードをもとに、家庭でも1週間、重点的に取り組むようにする。 ○教室内にまめつまみコーナーを設置し、毎日いつでも箸の使い方の練習ができるようにする。

7 本時の展開

学 習 活 動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
1 本時の学習のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○食事の時に使う道具のそれぞれの役割について考えることで、箸の便利さに気づくようにし、本時の学習への興味が持てるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・スプーン：すくう、まぜる… ・フォーク：さす、まきつける… ・ナイフ：切る… ・箸：まぜる、はさむ、切る、すくう… ○道具が思いつかない場合には、スプーンやフォークなどの絵を提示しながらヒントを出すようにし、箸が最も使い方が多いことを捉えられるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めざせ！ おはし めいじん</div>
2 間違っただけの箸の使い方と、正しい持ち方を知る。	○1年生の児童の中で特に多い間違っただけの箸の使い方を教師が示すことで、自分も同様の使い方をしていなかったかどうか確認できるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・さしばし：食べ物に突き刺す。 ・もちばし：箸を持った手で器を持つ。 ・ねぶりばし：箸をくわえてなめる。 ・よせばし：食器を箸で引き寄せる。 <p>○箸を正しく使うには、まずは正しい持ち方が大前提であることを押さえながら正しく箸を持つようとする意欲が高められるようにし、みんなが楽しく食事をするためにも、これらのマナーが大切であることを知らせる。</p> <p>○教師が間違っただけの箸の持ち方でつまむ演示をするとともに、おはし名人が正しい持ち方のポイントを一つ一つ示すことで、比較しながら、どこが違うのか、間違いに気づくことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①上の箸を鉛筆と同じようにして持つ。 ・②下の箸は親指の付け根と薬指で固定する。 ・③下の箸は動かさず、上の箸を3本の指で動かす。 <p>○おはし名人及び教師の箸の持ち方がよく見えるように、児童を前に集めて演示する。</p> <p>○児童が確認しやすいよう、正しい箸の持ち方の図を提示する。</p>
<p>3 正しい箸の持ち方を練習する。</p>	<p>○持ち方の基本となる鉛筆の握り方が正しくない児童も多いため、はじめはトレーニング用箸を使って指の位置を確認する。</p> <p>○その後は練習がしやすいよう、各自で用意した使い慣れた箸で行う。</p> <p>○皿から皿へ、つまんで移し替える練習をする。段階を追って、はじめは小さく切ったスポンジで行い、その後、豆を使って行う。達成感が得られるよう、豆は水でふやかしたものを用いる。</p> <p>○移し替える皿には動物の絵を描いておき、はやさではなく、正しい持ち方で口の部分に確実に移すことが大切であることを伝える。</p> <p>○練習はペアで行い、友達の箸の使い方が上手なところや頑張っているところを見つけやすくする。</p> <p>○机間指導を行い、苦手な児童には箸の持ち方を個別に指導する。</p>
<p>4 自分ができるようになった箸の持ち方や使い方を考え、発表する。</p>	<p>○できるようになったことを学級全体に広めることで、今後も正しく箸を持ち、使おうとする意識が高められるようにする。</p> <p>◆【思考・判断・実践】 今までの自分の箸の持ち方や使い方について振り返りながら、正しい使い方を練習し、今後の生活に生かそうとしている。 ＜観察、発表＞</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>○普段の児童の箸の持ち方を写真（手元のみ）で提示し、本時の学習で上達したことを称揚するとともに、おはし名人からメダルを授与し、今後の励みとなるようにする。</p> <p>○家庭でも「おはしの持ち方」練習カードを実施したり、教室にまめつまみコーナーを設けたりすることを伝え、継続して取り組んでいこうとする意欲が高められるようにする。</p> <p>○学習したことを今日の給食から実践していけるよう声かけをする。</p>

8 反省と考察

(1) TT指導を生かす

- ・担任が間違っただけの箸の使い方や持ち方を示し、それをおはし名人である栄養士が指摘することで、正しい使い方をわかりやすく提示することができた。机間指導では、名人に教わろうと意欲的に持ち方の練習に励む児童の姿も見られ、実態に応じて丁寧に個別指導を行うことができた。



(2) 話し合い活動を充実させる

- ・ペアになり、友達の練習の様子について上手なところや頑張っているところを紹介し合うことで、自分だけではわからなかったよさや悪い点に気づいたり、友達のよかった部分を自分の練習に取り入れたりすることができた。また、友達に褒めてもらうことで、自信をもって学級全体に自分の考えを発表する手助けにもなった。



上のお箸は鉛筆のように持って…



わたしは3本の指で動かしました

(3) 環境の充実を図る

- ・事後には教室にまめつまみコーナーを設置し、いつでも箸の使い方やつまみ方が練習できる環境づくりを行った。箸はトレーニング用箸、割り箸、塗り箸など児童の実態に応じて難易度を選べるようにした。休み時間などに他学年の友達が来た際にコーナーを開放したところ、上級生と競い合って練習に励むなど、ヘルスプロモーション活動としての役割も果たした。



教室の一角に設けた「まめつまみコーナー」

(4) 「おはしの持ち方」練習カードの活用

- ・事後には「おはしの持ち方」練習カードを配布し、家庭での協力を得ながら継続して練習を行った。2か月後、給食での箸の持ち方は、声かけや意識をすればかなりの改善が見られたものの、気をゆるめると、以前の持ち方に戻ってしまう児童もいた。また、正しい持ち方ができない保護者もあり、家庭での定着の難しさを痛感した。



上段が事前、下段が事後（2か月後）の持ち方の様子



2 生活科の実践

「やさいをそだてよう」

事前に行った野菜に関するアンケートでは、野菜が「好き」「どちらかといえば好き」という児童が大半を占める本学級であるが、個々の野菜で見ると、苦手と感じるものも多いという実態が明らかになった。そこで、1学期には夏野菜の中から児童が希望する野菜はもちろん、苦手であっても食べてほしいと教師が願う野菜も含めて栽培することにした。

選んだ野菜はミニトマト、なす、ピーマン、パプリカ、キュウリ、枝豆、スイカなどである。



優しく苗を植えて…



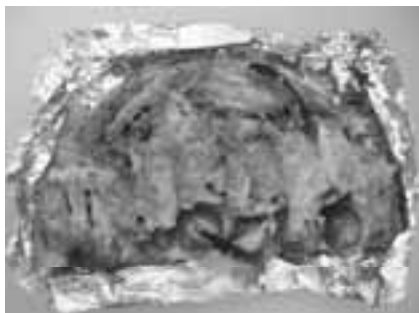
夏にはたくさんの実り



なすは味噌田楽に



育てた野菜を切って…



野菜たっぷりピザのできあがり



これなら食べられる!

関連学習「なんでもたべよう」(学級活動)から、苦手な野菜を食べるための手立てとして「小さく刻む」「好きな料理に混ぜる」「味付けを工夫する」などが挙げられた。そこで、穫れた野菜はフローズン・トマト、薄切り浅漬け、なすの味噌田楽、マーボーなす風野菜炒め、野菜ピザ、ピーマンとパプリカのペペロンチーノなど、児童が抵抗なく食べることのできる方法により調理したところ、すべての児童が苦手意識を克服することができた。さらに、自分達で苗を植え、自分達で世話をして育て、自分達で調理をしたことで、野菜に対する愛着も湧き、「食べてみよう」という気持ちを高めることができたと思われる。

3 ヘルスプロモーション活動の実践

学習した内容を広く地域に伝え、歯・口の健康の大切さを訴えるためにいろいろな場面でヘルスプロモーション活動を行ってきた。参観日での歯っぴー集会、毎年、慰問を行っている特別養護施設、幼稚園年長組の友達など、対象年齢も様々であるため、相手に合わせて発表の内容や方法を変えながら活動を行ってきた。



歯っぴー集会で



特別養護施設で



隣接する幼稚園で



幼稚園児からのお礼の手紙

平成26年度

1 学級活動の実践

第1学年 学級活動指導案

平成26年5月20日(火)

第5校時 指導者 佐野 隆朗

G T 片山 祐子 歯科衛生士

- 1 題材名 歯っぴースタディ「6さいきゅうしがはえたよ」
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

1年生では、歯っぴースタディの知識編で6歳臼歯(第一大臼歯)の特徴やその大切さについて理解することをねらっている。児童は昨年度、御北幼稚園の年長児に当時の1年生によるヘルスプロモーション活動を通じて、6歳臼歯のむし歯になりやすいという特徴やみがき方など、ある程度の知識をもっており、歯に対する関心も高いと思われる。歯の王様と呼ばれ、歯の中で最も大きく、歯並びや噛み合わせを決定するなど重要な役割を担っている6歳臼歯であるが、永久歯がむし歯になりやすくなる6歳の時期と萌出時期が重なるため、本来の機能を十分に果たせない場合も多い。そこで、本時では大切な働きをもっている6歳臼歯について、その特徴を理解するとともに、自分の課題をとらえ、自分に合った歯の磨き方を見つけ、実践していこうとする態度を育てていきたい。

○児童の実態

本学級の児童は、入学前から、保護者の協力のもと、家庭での歯みがき指導にも力を入れているが、5月の歯・口の健康診断では半数以上がう歯を保有しており、カリエスフリーの児童は2名だった。給食後の歯みがきでは、手鏡を使いながら音楽に合わせて丁寧にみがいているが、歯垢染め出し検査の判定ではみがき残し部分が多いなど、きちんと隅々までみがけているとは言い難い。また、現時点において6歳臼歯が生えている児童は8名中3名であり、多くの児童はまだ生えていない。中切歯などの生え替わりの経験から「むし歯になっても新しい歯と抜け替わる」「永久歯から気をつければ大丈夫」など、誤った理解をしている児童もいる。既に萌出している児童はもちろんであるが、これから生えてくる児童にとっても、萌出前の入念な手入れは必要不可欠であり、その重要性について理解できるようにしたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

6歳臼歯の有無を確認する際には児童の個別の歯列写真を提示することで、自分の歯についてより関心をもてるようにする。また、いつ萌出したかを「メモリアル・デー」として記録することで、本時以降も6歳臼歯への興味が継続できるようにする。

(2) TT指導を生かす

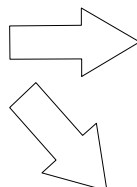
本時には6歳臼歯について、歯科衛生士の専門的な話を聞くことで、その特徴や大切さを理解できるようにする。また、児童が自分の実践のための自己決定を行う場面では、TTを活用した個別指導により、個々の児童にとって自分に合った歯のみがき方が見つけられるよう留意する。

(3) 話し合い活動を充実させる

自分の意見をまとめやすくするために、6歳臼歯をむし歯から守る方法を「歯っぴースタディカード」に記入して話型や話し合うポイントを明確にするとともに、自分の考えがもてるよう十分な時間を確保する。

3 他の教科等との関連

学級活動 歯っぴースタディ知識編
「6さいきゅうしがはえたよ」
・6才臼歯の特徴を学習し、大切な歯を守るための方法を考える。



学級活動 歯っぴースタディ技能編
「おく歯をピカピカに！」
・6歳臼歯の様子を知り、自分に合ったみがき方を考え、きれいにみがく。

日常指導
・給食後や家庭で、6歳臼歯をきれいにみがく。

4 本時のねらい

- 6歳臼歯の特徴を知り、大切に守る方法について、自分に合ったよりよい解決法を見つけ、実践しようとする事ができる。

5 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
大切な6歳臼歯について関心をもち、健康な歯を保つために、日常の歯みがきに進んで取り組もうとしている。	6歳臼歯を守る方法について話し合い、自分に合った解決方法を考え、判断し、実践している。	6歳臼歯には大切な働きがあるととともに弱点があることを理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	5月9日(金)	○歯の様子を鏡を使って確認し、個々の歯列写真を撮影する。
本時	5月20日(火)	○6歳臼歯の特徴を知り、大切に守る方法を見つける。
事後	5月20日(火) ～	○「メモリアル・デー」の記録を行い、家庭との連携を図りながら、6歳臼歯への興味が継続できるようにするとともに、仕上げみがきなど、保護者の協力を促すようにする。

7 本時の展開

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 ・ 評 価 に 関 する 配 慮 事 項 な ど
つかむ	1 学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">6さいきゅうしをたいせつにしよう</div>
知る	2 6歳臼歯について知る。 ○事前に撮影した本人の歯列写真を提示し、6歳臼歯の有無を調べることで、自分の歯について関心がもてるようにする。 ○歯科衛生士より6歳臼歯の特徴を説明することで、その大切さについて理解できるようにする。 <特徴> ・大人の歯の中で一番形が大きい(歯の王様・第一大臼歯) ・一番噛む力が強い ・子どもの歯の後ろに生えてくる(歯のガイド) <むし歯になりやすい弱点> ・生えたばかりでやわらかい ・歯ブラシがとどきにくい ・でこぼこで汚れがたまりやすい ・歯が生えていることに気付きにくい ○6歳臼歯のイラストや写真、歯の模型などを用いることで、視覚的に特徴を捉えやすくする。
話し	3 大切な6歳臼歯を守るための方法を考え、
	○むし歯になりやすいという弱点に着目し、むし歯から守るために何が大切なのかを歯っぴースタディカードに記入するこ

合う	意見交流をする。	<p>とで、話すポイントを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既に6歳臼歯が生えているか否かにより、方法も変わることを確認し、自分に合った方法を考えられるようにする。 ○歯科衛生士と連携を図りながら、専門的な立場で助言をすることで、よりよい方法を見つけられるようにする。 ○ペアで意見交換したり、それぞれの意見を掲示したりすることで、自分と友達の意見の比較をしやすくする。
決める	4 自分が取り組む方法を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のアイディアや意見も取り入れながら、自分に合った方法を見つけるようにする。 ○決定した方法をみんなに宣言することで、大切に守ってほしいとする意欲を高められるようにする。 <p style="text-align: center;">◆【思考・判断・実践】</p> <p>6歳臼歯を大切に守る方法を話し合い、自分に合った解決方法を決めている。</p> <p style="text-align: right;"><歯っぴースタディカード、観察></p>
	5 本時のまとめをする。	○6歳臼歯の特徴について確認をするとともに、「メモリアル・デー」を記録することを伝え、今後も興味を継続できるようにする。

8 準備物

- ・児童の歯列写真、資料のイラスト・写真、歯の模型、歯っぴースタディカード
- 発表ボード、掲示用カード、メモリアル・デー・カード

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

- ・それぞれの歯列写真を提示することにより、客観的に自分の歯についての状態を知ることができた。また、メモリアル・デー・カードにより、事後も毎日自分で鏡を見て確認することが楽しくなるなど、6歳臼歯に対する意識を継続させることができた。



メモリアル・デー・カード



私の歯は…

(2) TT指導を生かす

- ・歯科衛生士という専門的な立場に加え、普段、実際に診察をしている児童もいることから、事前の打ち合わせでは児童の実態に即した指導計画を立てることができ、学習中にも適切なアドバイスを行うことができた。しかし、話し合い活動では、時間的な都合などにより、専門性を十分かつ効果的に生かせなかったことが反省点である。自分に合ったみがき方を宣言した児童に対する判定や声かけ、担任との役割分担など、さらに綿密な事前の打ち合わせの必要性を感じた。



歯科衛生士の説明

(3) 話し合い活動を充実させる

- ・入学して間もない時期でもあり、話し合い活動をまだ十分に経験していない児童であるが、ペアになった話し合いでは、友達の意見に共感したり、自分との違いに気付いたり、さらによりよいアドバイスを提案したりするなどの深まりが見られた。全体の場でも友達の考えと自分の考えを比較しながら活発な意見交流ができるよう、今後、手立てを工夫していきたい。



ペアで意見交換

第2学年

平成25年度

1 学級活動の実践

① 歯っぴースタディ 「前歯の外がわを ピカピカに！」

第2学年 学級活動指導案

平成25年11月26日(火) 第4校時 指導者 江草 亜紀
T T 河本 君子 養護教諭

- 1 題材名 歯っぴースタディ 「前歯の外がわを ピカピカに！」
内容 (2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

2年生では、歯っぴースタディの技能編で前歯の外側のみがき方を学習することになっている。

2年生は上下の永久前歯が生え揃う時期である。よって、生え揃った時点で正しいみがき方を学習することが必要であると考え、まずは歯ブラシが比較的行きわたりやすい前歯の外側のみがき方から学習することにした。

歯みがきの目的は、歯の表面に付着している歯垢(プラーク)を取り除くことであり、歯みがきをしていても歯垢が取れていなければみがけたことにはならない。歯垢はその大部分が細菌で、ミュータンス菌が砂糖から産生したネバネバした多糖類を多く含み、水に溶けないため、うがいをしただけではとれない。また、歯の形や歯並びは人によって異なるため、画一的なみがき方では必ずどこかにみがき残しができてしまう。このみがき残しを、児童が自らの課題としてとらえ、解決のために工夫し実践できるようにすることが指導の目標となる。

歯の形は1本1本丸みを帯びており、前歯はシャベルのような形をしている。また、歯並びは一人一人さまざまである。したがって、効果的に歯垢を落とすためには、どのように歯ブラシを当て、どのように動かせばよいかを児童が自分自身で考え、みがいて確かめながら身に付けていくことが大切である。

そこで、養護教諭から歯ブラシの毛先は「つま先」「わき」「かかと」の部分があること、歯の形に合わせて毛先を使い分けることがきれいにみがけるポイントであることを聞き、それを生かしながら自分の前歯の歯並びや歯の形に合ったみがき方を見つけ、外側を丁寧にみがこうとする態度を育てる。

○児童の実態

本学級の児童は、カリエスフリー(ゴールド歯っぴー)の児童が多く、きれいな歯の児童が多く、給食後の歯みがきできれいにみがこうという意識は高い。歯っぴースタディ知識編では「プラークがかくれんぼ」の学習をした。歯垢が残りやすい部分は「歯と歯の間」「歯と歯ぐきのさかいめ」「奥歯の溝」の3つであることを理解し、そこを1週間集中的にみがくようにした。その直後は、学校でみがき残しがないように意識してよくみがけていた。しかし、学習から日が経つにつれてその意識はだんだんと薄れているように感じる。また、歯ブラシはしっかりと動いているのだが、前歯をみがいているときに横に大きく動かしている児童が多い。1本1本の歯をすみずみまでみがけていなかったり、歯ブラシを縦にしてみがいているが前歯4本すべてをみがけていなかったりする。鏡を見ながらみがくこともなかなか定着していない。そこで、すみずみまでみがくためにはどうしたらよいか、前歯4本とも丁寧にみがくためにはどのようにしたらよいかということをお話し合わせる。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

児童が自分の前歯の様子に興味・関心を持ち、自分の問題として意見が出せるように、一人一人の歯並びの模型を用意する。

(2) T T指導を生かす

本時では、養護教諭による、歯ブラシの部分の呼び方や、毛先の使い分けの仕方についての話により、歯のみがき方の工夫について理解できるようにする。また、前歯をみがく場面では、机間指導をしながら、自分の歯に合ったみがき方ができているかを個別に指導していくようにする。

(3) 話し合い活動を充実させる

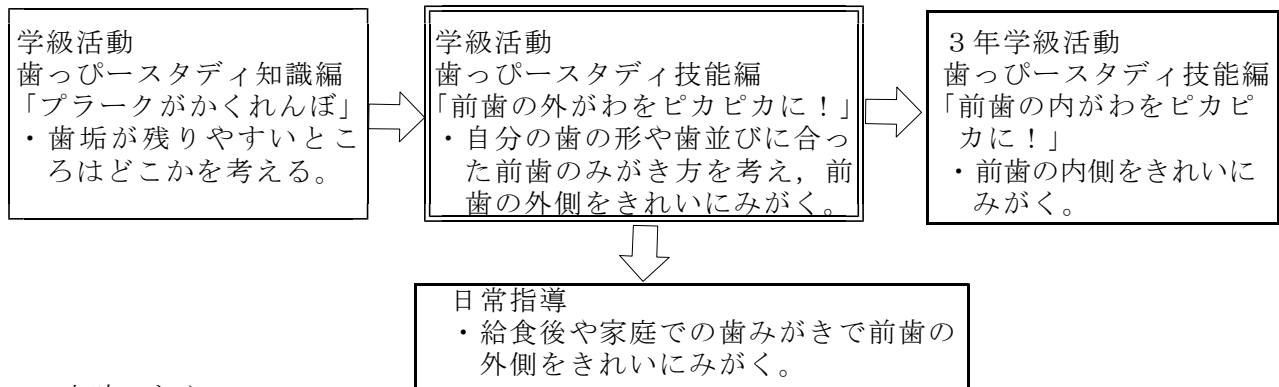
児童が積極的に話し合いに参加できるように、ペアで話し合う時間を設定する。その際、様々な考えを引き出せるよう、共感的に話したり聞いたりすることを徹底する。

話し合い活動に入る前に、「どのようにみがいたら歯垢が落ちるのかを考えよう」と伝えることで、話し合いのポイントを明確にしたい。歯ブラシや歯の模型を動かしながら話し合わせることで、具体的な意見を出せるようにする。

(4) 家庭や地域との連携を深める

ヘルスプロモーターとして、学習した内容を歯っぴースタディカードを用いながら家族に伝えることができるようにする。「前歯ピカピカウィーク」を設け、家族の協力を得ながら、家庭での歯みがきの意識も高まるようにする。そのために、学級通信などを通して保護者との連携を図る。

3 他の教科等との関連



4 本時のねらい

- 自分の前歯の様子を知り、自分の歯の形や歯並びに合った前歯のみがき方を考え、前歯の外側をきれいにみがくことができる。

5 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自分の前歯の様子に関心をもち、健康な歯を保つために進んで日常の歯みがきに取り組もうとしている。	話し合いを基に、自分の歯の形や歯並びに合った前歯のみがき方を考え、よりよいみがき方を見つけ、前歯の外側をきれいにみがいている。	歯ブラシの部分の呼び方や、その部分の使い方を理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	11月19日(火)	○前歯の歯垢を染め出した写真を撮る。
本時	11月26日(火)	○自分の前歯の様子を観察し、自分に合った前歯のみがき方を考え、前歯の外側をきれいにみがく。
事後	11月26日(火) ～	○「前歯ピカピカウィーク」を設定し、自分で決めたみがき方を実践する。
	12月2日(月)	○ヘルスプロモーターとして、学習した内容を歯っぴースタディカードを用いながら家族に伝える。

7 本時の展開

学 習 活 動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
1 自分の前歯の様子を知る。	○前歯を染め出した写真を用意し、みがけていない部分、歯の形や歯の様子をそれぞれが観察できるようにする。 ○「プラークがかくれんぼ」の学習を想起させ、歯垢が残りやすい部分は「歯と歯の間」「歯と歯ぐきのさかいめ」「奥歯の溝」であったことを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">前歯の外がわを ピカピカにみがこう</div>	

<p>2 養護教諭の話聞く。</p>	<p>○養護教諭の話から、歯みがきをする際には、歯ブラシの毛先の部分を使い分けることがポイントであることを理解できるようにする。</p> <p>○自分に合ったみがき方を見つけることができるよう、前歯のみがき方を紹介する。</p> <p>○視覚的に理解ができるように、大型歯ブラシを用いて、歯ブラシの部分の呼び方や、その使用方法を確認する。</p> <p>◆【知識・理解】 歯ブラシの部分の呼び方や、その部分の使用方法を理解している。</p>
<p>3 前歯のみがき方について考え、意見を交流する。</p>	<p>○一人一人に前歯の模型を用意し、それを使いながら前歯の外側のみがき方を考えることができるようにする。</p> <p>○前歯の模型をホワイトボードマーカーで赤くし、歯ブラシでみがくことで歯垢がとれるみがき方を体験できるようにする。</p> <p>○「どのようにみがいたら歯垢が落ちるのかを考える」ということを伝え、話し合いのポイントを明確にする。</p> <p>○ペアになり、それぞれの前歯のみがき方を一緒に考える時間を設ける。</p> <p>○各自が考えた「オススメみがき」を短冊に書き、黒板に貼り、みんなで意見を共有できるようにする。</p>
<p>4 前歯のみがき方を決め、その方法で前歯をみがく。</p>	<p>○意見を交流して見つけたみがき方から自分の前歯の歯並び合ったみがき方を決める。その際に友だちが考えた「オススメみがき」の中からも選んでよいことを伝える。</p> <p>○染め出し液を使い前歯の外側の歯垢を染め出し、自分が決めたみがき方で前歯をきれいにしよう伝える。</p> <p>○養護教諭は、机間指導をしながら、個に合ったみがき方ができているかを個別に指導していくようにする。</p> <p>○決めたみがき方で歯垢が落ちない場合には、他のみがき方でみがいてみることを助言する。</p> <p>○前歯の外側がきれいにみがけた児童には、学年到達目標の2年の所にスタンプを押し、よくみがけたことを賞賛する。</p> <p>◆【思考・判断・実践】 自分の前歯に合ったよりよいみがき方を見つけ、前歯の外側をきれいにみがけている。</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>○自分の歯に合ったみがき方を決め、歯っぴースタディカードに記入させる。</p> <p>○「前歯ピカピカウィーク」をすることを伝え、継続して実践できるようにする。</p> <p>○ヘルスプロモーターとして、学習した内容を歯っぴースタディカードを用いながら家族に伝えることができるようにする。</p>

8 準備物

教師：歯ブラシ毛先ネームの模型、大型歯の模型、毛先を塗った歯ブラシ（児童用）、個々の歯並びに合った模型、染め出し液・麴棒、歯みがき到達目標シート、むし歯の写真、歯っぴー短冊、歯っぴースタディカード、スタンプ
児童：歯ブラシ、コップ、鏡、唾だし容器、のびっこファイル

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

・前歯を染め出した写真を歯っぴースタディカードに貼り付け、自分の前歯の観察することができるようにした。自分の歯を実物よりも大きい写真で見ることによって、どこにみがき残しがあるのかということ視覚的に理解をすることができた。しかし、確認に時間もかかり、自分の課題をしっかりととらえることができにくい児童もいた。

(2) TT指導を生かす

・養護教諭から、歯ブラシの毛先の名前の紹介と前歯のみがき方について話をしてもらった。「前歯は3つに分けてみがくこと」「歯と歯の間は歯ブラシを縦にしてみがくとよいこと」を大型歯の模型で実際に見せて説明をすることで、児童は視覚的に理解ができたようだった。養護教諭の話をもとに置き、その後の活動に生かすことができたように思う。また、前歯をみがく場面で、机間指導をしながら児童に合ったみがき方をアドバイスしたり、T1・T2の二人でみがき方を見ていくことで、一人一人にしっかりと時間をかけることができた。



(3) 話し合い活動を充実させる

・個々の歯の形・歯並びに合った模型を用意し、ペアになって前歯のみがき方を見つけるようにした。ホワイトボードマーカーで模型の歯を赤くした。模型があったことで、歯の汚れが落ちる様子を視覚的にとらえることができたようである。また、歯ブラシに対して歯の模型は少し大きかったが、大きくても「歯と歯の間」はなかなか汚れが落ちにくいことも実感することができた。模型を使いながら話し合ったことで、児童の中からいくつかの意見がでた。しかし、話し合ったことを伝える際に、「(歯ブラシの)どこで」「(歯の)どこを」「どのように」という発表のポイントを明確にしておくべきであった。



歯の模型で話し合い活動



模型で歯垢が落ちるのを実感



児童のオススメみがき

(4) 家庭や地域との連携を深める

・学習の日から1週間「前歯ピカピカウィーク」を行った。保護者からは「前歯がピカピカになるようにがんばっていました。みがいた後に自分で確認する習慣が付き、よかったですと思います。」「いつもより歯みがきをがんばりました。鏡を見ながらしっかりとみがいていました。」「少し歯ブラシがけばだっていたので、すき間などみがき残しが多かったように思います。歯を大切にしてほしいです。」などの意見があった。児童が歯みがきをがんばることで、保護者の意識が高まった家庭もあった。しかし、歯みがきの技術の定着には、家庭を巻き込んだ取り組みの工夫がさらに必要であると感じた。

②「みがいておやすみ」

保護者も参加できる健康参観日に実施した。事前に通信で内容を伝え、協力をお願いした。そこで、夜の歯みがきと仕上げみがきについて学習をした。

導入では、冬休み歯みがきカレンダーの朝・昼・晩別の回数を表にし、夜の歯みがきは朝・昼に比べるとよくできていることを確認した。次に、歯みがきを3日しなかった人と毎日歯みがきをした人の歯の写真を用いながら、夜の歯みがきが大切だということを説明した。また、1日のうちで一番みがかない時間が長いことは夜から朝までであるということを、24時間時計の表を使って伝えたことで、視覚的に理解がしやすかったようである。夜の歯みがきをしっかりとするために、「寝てしまったらおうちの人に起こしてもらおう。」「ていねいにみがく。」などの意見が出た。最後に、歯を染め出し検査をし、歯垢が残っているところを保護者と確認した。この授業は午後からだったので、保護者に、昼の歯みがきでみがけていない所を確認してもらい、家庭でも支援してもらえるようにした。児童が3分間自分でみがき、その後保護者が仕



上げみがきを行った。家庭によって、仕上げみがきがなかなかできない家庭もあるようなので、この授業がよい機会になったようである。

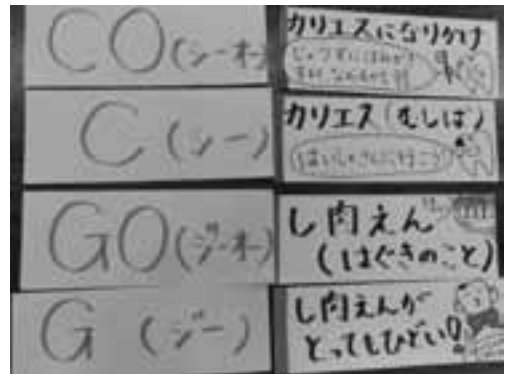
《保護者の感想》

- ・夜の歯みがきがとても大事なことをしっかり勉強しました。仕上げみがきをしたけれどきれいになりました。毎日してやればいいと思います。本日はいい勉強をさせてもらいました。
- ・染め出しをして、みがきにくそうな奥歯より、前歯の方が汚れていることが分かりました。苦手なところは気をつけたいです。寝る前はしっかり歯みがき頑張ります。
- ・染め出しで古いプラークまで分かってしまうと聞いてドキドキしましたが、黒い所はなくてほっとしました。でもみがけていないところもあったので、今晚からの仕上げみがきをがんばろうと思います。
- ・子どもも歯みがきの大切さが良く分かったと思います。
- ・食べてすぐはみがけていないので、ちゃんとさせるようにしたいと思います。
- ・親の仕上げみがきは必要だなと思いました。
- ・ふだんあまり歯みがきをきびしくみていなかったのですが、私も一緒に気をつけてみがこうと思います。



③「わかったかな 自分の歯・口」

年度当初の歯・口の健康診断前に、20分間のショートで歯・口の学習を行った。「CO」「C」「GO」「G」の用語について、用意していたカードを照らし合わせてクイズ形式で行った。用語を知ることによって、健康診断の時に自分の歯の状態に関心をもてるようにした。また、歯っぴー調査票を使って、前回の健康診断の自分の歯の状態を知った。検診の後には、「Cって言われなかったから、むし歯がなかったよ！」などの児童の声もあった。



2 ヘルスプロモーション活動

歯っぴースタディで学習したことを、幼稚園の年長に伝える活動をした。歯ブラシの毛先の名前、前歯の外側のみがき方を伝えるために、クイズ形式にしたり、授業で使用した歯の大きい模型を使ったりするなど友だち同士で話し合いをしながら発表準備をすることができた。

当日は、前歯の外側のみがき方の紹介をした後に、園児に実際に前歯をみがかせ、児童がアドバイスをを行った。「歯ブラシを縦にするといいよ。」「くるくる回してみがくといいよ。」など声をかけながら、園児の手を取り教えている児童もいた。

「プラークねらいうち」という歌を披露するために、歯の模型やプラークのお面などを用意した。



園児にみがき方をアドバイス



「プラークねらいうち」を披露

平成26年度

1 学級活動の実践

第2学年 学級活動指導案

平成26年5月20日(火)

第6校時

指導者

江草 亜紀

TT

河本

君子養護教諭

- 1 題材名 歯っぴースタディ「プラークがかくれんぼ」
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

2年生では、歯っぴースタディの知識編で歯垢(プラーク)の残りやすいところについて学習することになっている。児童は前学年で、第一大臼歯の大切さやその特徴、みがき方について学習している。

むし歯になりやすい歯の部位は、臼歯にある溝や、歯と歯の間、歯と歯肉の境目である。これらの部位は、唾液が行き届かないこと、歯垢が付着しやすいことから、適切な歯みがきによる歯垢の除去が必要となる。この時期の子どもの歯は、乳歯から永久歯へと生えかわる歯が多くなり、また、第一大臼歯がほぼ生え揃う。永久歯が生え、エナメル質の構造が向上していくまでの2~4年間でむし歯になりやすい時期と言われている。よって、むし歯の原因となる歯垢について学習し、その歯垢を適切に除去し、むし歯を予防しようとする態度を育てていくことが必要であると考えられる。

○児童の実態

本学級の児童は、春休みの歯みがきカレンダーでは、ほとんどの児童が1日3回歯みがきをしており、歯みがきをする習慣は家庭の協力のもと、身につけているように感じていた。しかし、5月の歯・口の健康診断では、8名中、カリエスフリーの児童が2名、処置済みの児童が2名、う歯保有の児童が4名と、歯みがきの習慣がついているとは言い難い結果であった。給食後の歯みがきでは、音楽に合わせてそれぞれの部位をみがくことが難しい児童も数名いる。丁寧にみがこうとする姿勢はあるが、鏡を見ていなかったり、歯ブラシを大きく動かしていたりと、歯に付着した歯垢を除去できているとは言い難い。

また、歯垢染め出し検査の結果から見ても、ほとんどの児童が「歯と歯の間」「歯と歯ぐきのさかいめ」「奥歯の溝」に汚れが残っていた。そこで、歯垢について学習した後に、歯垢が残りやすいところはどこかを考え、なぜその3か所に歯垢が残りやすいのかを話し合うことで、今後の歯みがきに対する意識づけになるようにしたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

「プラークねらいうち^{*1}」という曲を導入に用いることで、「プラーク」という言葉に興味・関心をもち、楽しく学習を進めていくことができるようにする。また、「ボクらの敵だ」「やっつけろ」などの関連する歌詞を抜き出し、歯垢は歯にとって良いものではないということを理解できるようにしたい。

(2) TT指導を生かす

本時では養護教諭による、歯垢についての専門的な話を聞き、歯垢がむし歯の原因であることを理解できるようにする。また、児童が歯垢を残さないための方法を自己決定する場面では、TTを活用した個別指導により、それぞれの児童に合った方法が決定できるように留意したい。

(3) 話し合い活動を充実させる

児童がたくさん意見を出せるように、グループで話し合う時間を設定する。歯の模型を用意し、児童が歯並びや歯の形を触りながら話せるようにすることで、歯垢が残りやすい3か所について意見が活発に交流するようにしたい。

3 他の教科等との関連

学級活動
「わかったかな？
自分の歯・口」
・自分の歯・口の

学級活動 歯っぴースタディ
知識編
「プラークがかくれんぼ」
・歯垢がどこに残りやすいか

学級活動 歯っぴースタディ
技能編「前歯の外がわを
ピカピカに！」
・自分の歯の形や歯並びに

状態を知る。

を考え、歯垢を残さないための方法を考える。

合った前歯のみがき方を考え、前歯の外側をきれいにみがく。

日常指導
・給食後や家庭で、歯垢が残りやすいところを意識して、歯をきれいにみがく。

4 本時のねらい

- 歯垢について学習し、歯垢が残りやすいところについて考え、歯垢を残さないための自分に合ったよりよい方法を見つけ、実践しようとする。

5 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
歯垢が残りやすいところについて関心をもち、健康な歯を保つために、進んでむし歯予防に取り組もうとしている。	歯垢の残りやすい3か所に、なぜ歯垢が残りやすいのかを話し合い、歯垢を残さないための解決方法について考え、判断し、実践している。	歯垢が細菌の塊であること、歯垢が残りやすいところは「歯と歯の間」「歯と歯ぐきのさかいめ」「奥歯の溝」であることを理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	5月19日(月)	○前学年の歯っぴースタディの学習内容を振り返る。
本時	5月20日(火)	○歯垢が残りやすいところについて考え、歯垢を残さないための方法を決めている。
事後	5月20日(火) ～ 5月26日(月)	○「プラーク退治ウィーク」を設定し、自分が決定した方法で1週間取り組む。 ○自分で決めたことが実行できているか、学級だよりなどで保護者にも協力をお願いし、自分で決定した方法が習慣付くようにする。

7 本時の展開

	学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 ・ 評 価 に 関 する 配 慮 事 項 な ど
つかむ	1 本時のめあてを知る。	○「プラーク」という言葉を知っているか尋ね、今日は「プラーク」について学習することを伝える。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">プラークが かくれんぼ</div>	
知る	2 プラークについて知る。	○歌詞の中から「ボクらの敵だ」「やっつけろ」など歯垢に関連する言葉を抜き出し、歯垢は歯にとって良いものではないということを理解できるようにする。 ○養護教諭の説明により、歯垢は細菌の塊であること、歯垢がむし歯の原因であることを正しく理解することができるようにする。
話し合う	3 プラークがどこに残りやすいかを調べ、なぜ残りやすいのか話し合う。	○歯垢を染め出し、赤く染まったところを歯っぴースタディカードに記入し、各自の歯垢が付着している部位を確認できるようにする。 ○教師が歯列の写真を提示し、歯垢が付着していたところをかきこんでいくことで、それぞれに赤く染まったところは異なるが、共通する部分もあり、それが「歯と歯の間」「歯と歯ぐきのさかいめ」「奥歯の溝」であることを理解できるようにする。 ○歯の模型を用いて、歯並びや歯の形、奥歯の溝を触りながら、グループで話し合いをすることで、意見が活発に交流するようになりたい。
決	4 自分が取り組む方法	○話し合いで出た意見を基に、自分なりの歯垢を残さないため

める	を考え、発表する。	<p>の方法を見つけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○養護教諭と連携し、専門的な立場から見た方法を、ヒントで出しながら、よい方法を見つけることができるようにする。 ○方法が思いつかない児童には、「(3か所のうちの)どこを」「何を使って」「どうするか」などの考えるポイントが分かるようにする。 ○決定した方法を歯っぴースタディカードに記入し、宣言することで、実践への意欲が高まるようにする。 <p>◆【思考・判断・実践】</p> <p>話し合いから、歯垢を残さないための自分に合った方法を決めている。(歯っぴースタディカード、観察)</p>
5	本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめとして、歯っぴースタディカードに歯垢が残りやすい3か所の名称を記入する。 ○「プラーク退治ウィーク」を設定し、自分が決めた方法で1週間実践していくことを伝える。

8 準備物

「プラークねらいうち」CD・歌詞カード、プロジェクター、歯垢染め出し剤、歯っぴースタディカード、鏡、歯ブラシ、コップ、小黒板

参考文献において

※1 歯科の総合情報サイト MI21.net. 「むし歯予防プロジェクト プラークねらいうち」
(歌詞：MI21.net. 曲：しる) <http://www.mi.21.net/>

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

・授業の導入で、「ぼくらのてきだ」「やっつける」の言葉を隠した歌詞を使って、「プラークねらいうち」を聞いた。「プラークねらいうち」を聞いたことにより、児童が「プラーク」という言葉について、興味・関心をもって学習に入ることができた。しかし、活動の時間をしっかりと取るために、事前活動で曲を何回か聞いておいた方が良かった。また、学習課題のめあてを提示する際に、「プラークがかくれんぼ」だけではなく、「プラークをやっつける方法を考えよう」など、これからどのような学習を行うのか、児童が明確に理解できるような具体的なめあてを提示した方がよかった。

(2) TT指導を生かす

・養護教諭が歯垢についての話をする際に、パワーポイントを使って説明を行った。大きな画面でアニメーションを入れながらの説明により、児童にとって視覚的に理解がしやすく、効果的に歯垢の特徴について知ることができた。

(3) 話し合い活動を充実をさせる

・8人を4人1組のグループに分け、歯の模型を触りながら、プラークが「歯と歯の間」「歯と歯ぐきのさかいめ」「奥歯の溝」に隠れやすい理由を考えた。歯の模型を使用したことにより、普段あまり意識することのない歯の形や、歯並び、歯と歯肉の様子などについて考えることができた。また、模型を触りながら歯垢が残りやすい理由を考えたことで、活発に意見が出たように思う。しかしながら、相手に伝えてそこから考えを深めたり、共感的に話を聞くことなどに関して、学習していく中での指導が必要だと感じた。



パワーポイントによる説明



かくれんぼする理由を考える



歯の模型を使い話し合う

第3学年

平成25年度

1 学級活動の実践

第3学年 学級活動指導案

平成25年9月25日（水）第5校時 指導者 山本 由佳理

- 1 題材名 歯っぴースタディ 「歯！いろいろ」
内容（2） 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
（カ） 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

本題材は、心身ともに健康で安全な生活態度の形成に関わる内容である。歯・口の健康は健康な生活の基盤であり、「8020」運動に代表されるように、生活の質的な向上や日常生活の活性化につながるものである。特に、小学校6年間での児童の心身の発達は顕著であり、乳歯から永久歯への転換期であり、永久歯の形成期に歯・口の健康状態を正しく理解し、自ら歯・口の健康を育てていこうとする姿勢の形成が重要である。柔らかい物・食べやすい物があふれる現代においては、自ら意識して食習慣や生活習慣を変えていかなければならない。そこで、健康への関心を高め、家庭と連携し、食習慣や生活習慣を改善することで、日常的な実践力を身につけることができると考える。

○児童の実態

本学級の児童は、体験的な学習に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。好き嫌いはあるものの、給食ではどの子も残さず食べようとしている。残食もほとんどなく、食缶を空にして返すことで給食を作ってくださっている先生方への感謝を示そうという意欲をもっている児童が多い。しかし、口より大きなサイズの食べ物やかみ切りにくい物は食べるのに非常に時間がかかる児童が多い。また、平成25年度歯・口の健康診断では、すべてが健全歯の児童が6名（42%）であった。残りの児童も1学期中には処置済みとなり、健康な歯への意識は高まっている。さらに、歯みがき指導の時などに、下の切歯の先がギザギザになっていることに気付き、不思議がる児童がいた。このことから、歯・口に関する児童の関心をさらに高め、食育の面からも自らの健康づくりに取り組む児童の育成を目指したい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

（1）児童の興味・関心を生かす

「すごい」「楽しそう」「どうしてだろう」など、児童の興味関心を高めるために、導入段階で写真や絵図など視覚に訴える資料を提示する。

実際にリンゴを噛む活動を取り入れることで、普段あまり意識していない切歯の役割について児童の興味や関心を引き出せるよう工夫する。

（2）話し合い活動を充実させる

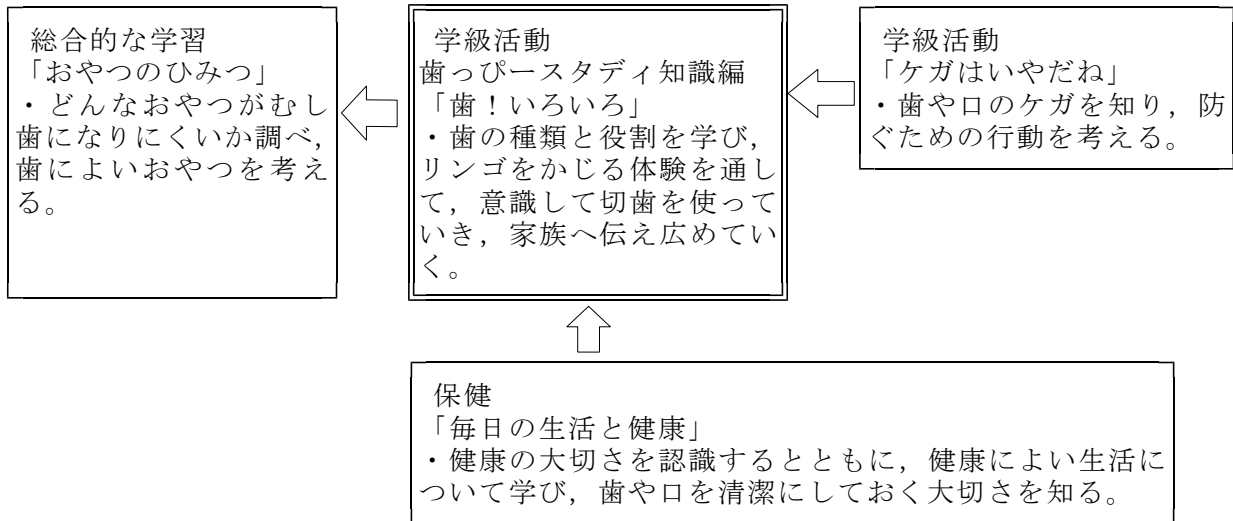
自他の比較をしやすくするために、事前調査を視覚的にわかりやすく提示する。各自の気づきを大切に、学級全体のものへと広めていくために、リンゴを噛む活動を活用する。学校歯科医からのビデオレターを視聴することにより、専門的な知識を確認し、思考を深める。

関係書籍や資料を教室に掲示し、日常的に歯・口のけんこうについての知識を得たり、関心を高めたりすることで、話し合い活動への導入をスムーズにする。

（3）家庭との連携を深める

授業で考えた「切歯を使った食事」を家庭で実践してもらえるよう「リクエストカード」を作成し、児童自身が家の人に伝え、継続して実践できるようにする。

3 他の教科等との関連



4 本時のねらい

- 人間の歯と動物の歯を比較して役割の違いを理解し、食習慣によって自分の歯を育てていこうとする態度を身につけるとともに、噛むことにおける自分の課題に気づき、自分にあったよりよい方法を考えることができる。

5 評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
歯の役割について関心を持ち、生活の充実のために、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	今までの食習慣を振り返り、歯の役割に応じた使い方ができているか話し合い、自分にあった解決方法などについて考え、判断し、実践している。	人間の歯と動物の歯の役割の違いがわかり、望ましい食習慣について必要なことを理解している。

6 指導計画

	日時	活動内容
事前	9月3日（火） ～9月13日（金）	○「給食を食べる時どの歯を使って噛んでいるか」について調査を行う。
本時	9月25日（水）	○動物の歯と人間の歯を比較して、役割の違いを理解し、意識して切歯を使う方法を考える。
事後	9月25日（水） ～10月23日（水）	○学習したことをもとに家庭へ伝え、家族に広めて一緒に実践していく。

7 本時の展開

学習活動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
1 恐竜の歯についてのクイズを行う。	○肉食恐竜と草食恐竜の歯の特徴がとらえられるようにする。 ○草食恐竜は胃石によって消化を助けていたことを知らせ、人間の臼歯の役割を理解しやすくする。
2 歯にはそれぞれ役割があることを知り、本時のめあ	○人間の歯の形を提示し、3種類の歯があることに気付かせ、噛み切る役割（切歯）・引き裂く役割（犬歯）・すりつぶす役

てをつかむ。	<p>割（臼歯）があることを理解できるようにする。</p> <p>○食べる物によって歯も進化していることに気付くように、白亜紀の恐竜の歯の写真を提示し、食べる物の変化によって口や歯が変化していることに気付くようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>全部の歯を使って食べているか考えよう。</p> </div>	
3 使う回数の少ない歯を見つめる。	<p>○事前アンケートの結果を提示し、児童が自分の問題としてとらえられるようにする。</p> <p>○犬歯は、現代の食事では直接使うことは少ないが、あごを動かしたり、歯に力を入れる時に働いていることを知らせ、切歯の使用が少ないことに意識を向ける。</p>
4 かみ切る体験をする。	<p>○リンゴに皮ごとかぶりつく活動で、口を大きく開け、切歯を使って食べる体験をし、普段使う頻度が少ないことに気付くようにする。</p> <p>○気付いたことを確かめるために、もう一度かじらせるようにする。</p>
5 切歯を意識して使うためにどうしたらよいか話し合う。	<p>○学校歯科医の石井先生のビデオレターを視聴し、切歯を使うことのよさが理解できるようにする。</p> <p>○「たくさんアイデアを出す」「友だちの意見をヒントにしてもよい」などの約束事を決め、自由に意見が出せる雰囲気を作る。</p> <p>○「聞き方のポイント」「話し方のポイント」を確認し、共通点や相違点に意識して話したり聞いたりできるようにする。</p> <p>○日頃の食生活に目を向け、切歯を使わない原因はどこにあるかを考え発表する。</p> <p>○考えがなかなか出ない場合には、どのような食事の時に噛み切らなければならないかを考えて具体的な例を挙げる。</p> <p>○堅い物は歯を痛める原因にもなる点をおさえておく。</p>
6 「意識して切歯を使うためのリクエストカード」を作る。	<p>○出てきたアイデアの中から、自分にあった方法を保護者あてのリクエストカードに記入し、学習内容を家庭へ広げられるようにする。</p> <p>○リクエストカードを発表することで、互いの取組を知り、みんなで取り組んでいくという意識を高める。</p> <p>◆【思考・判断】 話し合いを基に、自分にあった切歯を使ってよく噛むための方法を決めている<リクエストカード・発表></p>
7 本時のまとめをする。	<p>○本時の振り返りをし、事後の学習に生かしていく。</p> <p>○切歯に力がかかりすぎるのを防ぐため、毎日行うのではなく週に一回程度行っていくことを伝え、長期的に継続して行うことで効果が出ることを理解できるようにする。</p>

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

- ・本時は、恐竜の歯についてのクイズから人間の歯の種類や役割を推測できるようにした。恐竜に興味のある児童が多く、食べる物によって歯が進化していることを押さえることができた。しかし、写真や図を多用したため、資料が多すぎて板書のスペースが少なくなってしまった。掲示資料の精選が必要であった。
- ・普段あまり意識していない切歯の役割について意識できるよう、リンゴを噛む活動を行った。児童が普段大きく口を開けてかじりつく経験が少ないことを実感するのに役立つ活動となった。机に直接リンゴを置いたりする児童もあり、皿や食べ残しを入れる袋を初めから配っておく必要があった。また、活動中に出た硬さや温度についての感想をもっと取り上げて強調することで、切歯がかみ切る役割のみならず、硬さや温度を感知する役割もあることを理解する手助けになったのではないかと考える。



リンゴをかじった児童の感想発表

(2) TT 指導を生かす

- ・学校歯科医である石井先生から、切歯の役割や、切歯を使わないとどうなるかについてビデオレターを頂き視聴した。専門家の意見を聞くことで、前歯を使っていかなければならないという気運が高まった。スケジュールの都合で直接お話し頂くことができなかつたのが残念である。



ビデオレターを視聴する

(3) 話し合い活動を充実させる

- ・話し合いを活発にするため、「たくさんアイデアを出す」「友だちの意見を参考にしてもよい」ことを伝え、気軽に発言できる雰囲気を作った。「どんなときに切歯を使うか」と「どんなときに使わないか」を比較して問いかけることで、どうすれば意識して切歯を使うことができるのか具体的な意見が多く出た。しかし、友だちの意見と比べながら、まねできそうなことやいいなと思うことを発言できるように支援する必要がある。今後も友だちとの関係を深めていけるような話し合い活動となるよう支援の充実を図りたい。



前歯を鍛える方法を話し合う



2 体育科(保健領域)の実践

「毎日の生活と健康」

長期休業中の歯みがきカードなどの取り組みから、ほとんどの児童は1日2～3回の歯みがきが定着している。しかし、形式的に行っているだけで、毎回歯をピカピカにしたいという思いをもってみがいているとは言いにくい。そこで、歯も体もきれいにすることが気持ちのよいことだという意識を育てることに焦点を当てた。本時では、まず体を清潔に保つことを考えた。衣類などの見えない汚れから、体の汚れが溜まりやすい箇所を考え清潔な暮らしについて話し合った。アミノ酸検出試薬を使用した画像や細菌の寒天培養の写真を使用したことで、目に見えない汚れを理解するのに役立った。家庭でも入浴時に洗い忘れないように言われている児童が多く、自信を持って意見を発表できた。次に、むし歯のでき方を確認した。体と同様に、見えない汚れが歯にも付着していることを絵や写真で説明した。汚れることは生きている上で当然のことであり、汚れないように生きるのではなく、ついた汚れをしっかりと落とせばよいことを児童とともに確認した。「家でも鏡を見て歯みがきをする」「舌でさわってみてつるつるしているか自分で確認してみる」と発言する児童もいて、清潔にすることが気持ちのよいことだという意識が育っていると思われる。



清潔な生活行動について考える

3 総合的な学習の時間の実践

「おやつのはみつを調べよう」

学級活動「おやつのはみつ」の学習を基に、総合的な学習の時間でさらに「望ましいおやつを取り方とむし歯予防」ということについて詳しく調べていくことにした。間食の役割を学習することで、市販のお菓子だけがおやつではないことを知った。さらに、おやつには歯にくっつきやすい食べ物と歯にくっつきにくい食べ物があることにたどり着き、それぞれに課題を設定して調べた。砂糖の含有量やカロリーなどは3年生の児童にとって難しいので解説は必要であったが、自分たちの分かる言葉でまとめた。それぞれが調べたことをクラス内で発表し、共有した。その中で、歯にくっつきにくい食べ物と歯にくっつきやすい食べ物のどちらにも入る食べ物があることに気が付き、その理由を調べ、「種類」「時間」「量」の組み合わせが大切であることを調べだした。

その後、地域の高齢者に向けて発表した。発表にあたり、資料などを付け加えて作り直し、見る人・聞く人にわかりやすいように工夫した。発表をすることで、これまでの学習がより深く定着し、次学年につながる新たな疑問を持つことができた児童もいた。



地域の高齢者に向けての発表

平成26年度

1 学級活動の実践

第3学年 学級活動指導案

平成26年7月9日(水)

第4校時

指導者 池口 真由美

TT 河本 君子 養護教諭

- 1 題材名 歯っぴースタディ「前歯の内側をピカピカに！」
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

3年生では、歯っぴースタディの技能編で前歯の内側のみがき方を学習する。児童は前学年までに、第一大臼歯の溝や前歯の外側のみがき方を学習し、日々の歯みがきで実践してきた。3年生は乳歯から永久歯への転換期、永久歯の形成期であり、本題材では、前歯の内側の形を理解した上で、効果的に歯垢を落とすためにはどのようなみがき方があるのか児童が自ら考え、自分に合ったみがき方を身につける。そして、前歯の内側のみがき方を理解し、これまで以上に正しい歯みがきの仕方について学習し、習慣化を図っていききたい。

○児童の実態

本学級の児童は、5月の歯・口の健康診断で、8名中、カリエスフリーの児童が3名、処置済みの児童が3名、う歯保有の児童が2名であった。給食後の歯みがきでは、鏡を見ながら曲に合わせてみがいているものの、歯ブラシの毛先が歯の面にきちんとあたっていなかったり、力が入りすぎたりしている児童が見られる。また、歯垢の染め出し検査の結果では、みがき残し部分が多く、ほとんどの児童が前歯の内側にも汚れが残っていた。

そこで、本題材では自分に合った前歯の内側のみがき方を正しく身につけ、歯みがきを丁寧に行うことが大切であるという意識を改め、もつことができるように指導していききたい。そして、歯・口の健康を自分で進めていこうとすることができる児童を育てたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

児童が自分に合った歯のみがき方を発見、工夫することができるように、歯垢の染め出し検査を行う。そして、3種類のみがき方を試しながら、自分の前歯の内側に合ったみがき方に気づいたり、自分のみがき方と友だちのみがき方を比較して、自分に合ったみがき方を考えたりすることができるようにしていく。

(2) TT指導を生かす

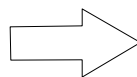
本時は、養護教諭による専門的な話を取り入れ、前歯の内側の形の特徴や3種類のみがき方について正しく理解できるようにする。そして、一人一人が自分の歯に合った効果的なみがき方を考えることができるようにTTを活用した個別指導を行う。みがき方の良さや問題点を個別に助言することで、より効果的なみがき方をしようとする意欲を高めたい。

(3) 話し合い活動を充実させる

どの児童も積極的に話し合い活動に参加できるように、まず自分の考えをもつ時間をしっかり確保する。その際、「歯っぴースタディカード」を用意し、後で自分と友だちの考えを比較しながら視覚的に確かめられるようにする。話し合い活動は、まず少人数グループで意見交換をし、友だちの考えと比較したり、自分の考えを深めたりできるようにする。その際、観点を明確にしより効果的なみがき方を選ぶことができるようにする。そして、みがき方の表を拡大したものにシールを貼り、児童がどのみがき方を選んだのかがひと目で分かるようにする。その表をもとに、全体でなぜそのみがき方が効果的なのかについて活発に話し合いができるようにする。

3 他の教科等との関連

学級活動 歯っぴースタディ技能編
「前歯の内側をピカピカに！」



学級活動 歯っぴースタディ知識編
「歯！いろいろ」

・前歯の内側のみがき方について学習し、自分の歯に合ったみがき方を考える。



・歯の種類と役割を学び、リンゴをかじる体験を通して、意識して切歯を使っていき、家庭へ伝え広めていく。

日常指導
・給食後や家庭での歯みがきで、前歯の内側をきれいにみがく。

4 本時のねらい

- 前歯の内側の形の特徴や3種類のみがき方を知り、話し合いから自分の歯に合ったみがき方を考え、決定し、きれいにみがくことができる。

5 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自分の前歯の内側のみがき方に関心を持ち、自分に合ったみがき方を進んで考え、歯みがきに取り組もうとしている。	自分や友だちの前歯の内側に合ったみがき方について積極的に話し合い、自分の歯に合ったみがき方を判断し、実践している。	歯の形に合わせてみがき方を変えることの大切さや、その方法について理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	6月18日(水)	○歯垢の染め出し検査を行い、前学年までのみがき方を振り返る。
本時	7月9日(水)	○前歯の内側の特徴やみがき方について知り、自分の歯に合ったみがき方を考え、決定する。
事後	7月10日(木) ～ 7月17日(木)	○「前歯の内側ピカピカ週間」を設定し、自分で決定したみがき方を実践する。 ○学習内容や家庭での協力依頼を学級通信等で伝え、自分で決定した方法が習慣づくようにする。

7 本時の展開

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 ・ 評 価 に 関 する 配 慮 事 項 な ど
振り返る	1 本時のめあてを知る。 ○前学年までに学習したみがき方を振り返り、本時の課題につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">前歯の内がわを自分に合った方法できれいにみがこう。</div>
知る	2 前歯の内側の形の特徴とみがき方について知る。 ○養護教諭の説明を聞き、前歯の内側の形の特徴や3種類のみがき方を理解できるようにする。 ○前歯の内側の形の特徴を理解できるように、模型や写真などを用いて確認する。
話し合う	3 前歯の内側の効果的なみがき方について考え、話し合う。 ○前歯の内側の染め出し検査を行い、「歯っぴースタディカード」に記入することで、個人の課題を確認できるようにする。 ○3種類のみがき方をためすことにより、①歯ブラシを動かしやすい。②汚れがよく落ちる。の2つの観点から、自分の歯

		<p>に合った効果的なみがき方が見つけられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いを活発にするために、なぜそのみがき方が良いのか理由も書いておくように指示する。 ○2人～3人グループで意見交流をし、自分と友だちの考えを比較したり、自分の考えを深めたりできるようにする。 ○3種類のみがき方の表を拡大したものを黒板に掲示し、選んだみがき方にシールを貼ることで、児童がどのみがき方を選んだのかがひと目で分かるようにする。 ○みがき方の表やグループでの話し合いをもとに、効果的なみがき方について話し合いが活発になるようにする。
決める	4 自分に合ったみがき方を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いを参考にして、自分の歯に合ったみがき方を決めるように指示する。 ○決定したみがき方を一人ずつ発表することで、実践の意欲を高めることができるようにする。 ◆【思考・判断・実践】 話し合いによって、自分の前歯に合ったみがき方を決めていく。 ＜歯っぴースタディカード、観察＞
みがく	5 決定した方法でみがき、本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○決定した方法できれいにみがくことができているか一人ずつ確認し、みがくことができているならば「歯みがき学年到達目標」にチェックする。 ○「前歯の内側ピカピカ週間」を設定し、「マイ歯みがきレシピ」をもとに自分が決めた方法で継続して取り組んでいくように伝える。

8 準備物

- ・歯っぴースタディセット、歯っぴースタディカード、歯の模型、歯の写真

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心から

- ・歯垢の染め出し検査を行うことで、児童が実際に3種類のみがき方を試してみながら、意欲的に自分の歯に合ったみがき方を考えることができた。また、話し合い活動をまず2人～3人の少人数で行うことで、全体の場ではなかなか意見を言いにくい児童も自分の考えを表現しやすかった。自分の考えを言うだけになってしまっていたので、友だちの考えも興味をもって聞き、自分と比較したり考えを深めたりできるような話し合いができるとさらによかったと思う。



(2) TT指導を生かす

- ・養護教諭による3種類のみがき方の指導では、実際に歯ブラシを動かしてみる活動を取り入れながら、動かし方のポイントをわかりやすく説明してもらった。それによって、実際にみがいてみる時にスムーズに活動を行うことができた。また、レシピ作りの時には個別にアドバイスをしてもらい、一人一人の歯に合ったレシピにすることができた。歯の形の特徴やみがき方のポイントなど、教わったことを生かして話し合いができるように進めていけたらよかったと思う。



(3) 話し合い活動を充実させる

- ・どの児童も自信をもって話し合い活動に参加できるように、歯っぴースタディカードに理由を書かせる時間をとったり、少人数で意見交換をさせたりした。それによって、自分の考えに自信をもち、全体の話し合いに進むことができたと思う。また、全員の考えを一つの表にまとめることで、どのみがき方を選んだのかがひと目でよくわかり、話し合いがしやすかった。話し合いをより活発にさせるために、選んだ理由だけではなく、選ばなかった理由も取り上げる必要があったと考える。



第4学年

平成25年度

1 総合的な学習の時間の実践

第4学年 総合的な学習の時間指導案

平成25年11月26日(火) 第5校時 指導者 片岡 為世
G T 石井 雅之 学校歯科医

1 単元名 進め! かむかむ探検隊

2 指導上の立場

○単元について

本単元は、児童の歯・口の健康課題から現代社会が抱えている健康課題まで視野を広げ、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康づくりが効果的に促進され、子どもの生きる力の育成にもつながっていくことをねらい設定した。

歯・口の健康課題は、児童にとって自分の目で見ることのできる題材であり、歯の萌出・交換で自分の体の成長を実感しやすいなど、大変身近で把握しやすいものである。また、歯・口の機能は食べる・話すなど人が生活する上で、生活の豊かさや楽しさを様々な側面から高めることができ、自分の生き方を考えることにもつながる。

「歯・口の健康づくり」として4年生の総合的な学習の時間では「かむかむ探検隊」と題し、「咀嚼と歯の健康」について学習していく。噛むことの大切さを各自が探求していくことにより、児童が自分で健康課題を認識し、問題解決のため、歯磨きや生活習慣や食生活を改善することなどの必要性を理解する。多くの情報や体験から自分の健康行動を選択し、実践できるようになることへとつながっていく。さらには全身の健康問題や生涯を通じた健康作りなどこれからのライフスタイルや生き方を考えていく機会にもなる。

○児童の実態

本学級の児童は、6月の歯科健康診断の結果、カリエスフリーの児童(ゴールド歯っぴー)3名、処置済み児童(シルバー歯っぴー)3名、う歯保有の児童(イエロー歯っぴー)4名であった。う歯治療に前向きに取り組み9月にはう歯治療は100%達成できた。しかし、夏期休業中に行った「はみがきがんばり表」の結果では朝・昼・夜と3回歯磨きをしている児童は3名、昼食後の歯磨きをしていない児童4名、あと3名は1日に1回、もしくは全くしていないこともあるという結果であり、今までの学習の成果が日常生活に十分に生かされていないという実態となっている。

児童は学校行事・保健便り等を通じて自分の歯や口についての興味・関心は高くなってきている。11月上旬に学習した、学級活動「よくかむ習慣をつけよう」では自己の課題を見つけ一週間「かみかみ週間」に取り組んできている。噛むことへの意識は高まってきているところである。また、学習発表会「あまちゃん、ヘルスプロモーション」の発表により、自分たちが歯・口の健康問題についてヘルスプロモーターとして推進していく一員であるという自覚も育ちつつある。

児童が、本単元「進め! かむかむ探検隊」の学習により、生涯にわたり健康な生活をしていく上で、よく噛んで食べることの大切さを理解し、心身ともに健康で安全な生活態度の形成に自ら関わっていこうとする態度を培い、ヘルスプロモーターとして周囲へ働きかけていくなどの活動を通じて確実な実践につなげていきたい。

本学級には、様々な学習場面で特別支援を要するA児と特別支援学級に在籍するB児がいる。2人の児童が意欲的に学習できるよう、グループ分けや指示・説明の際には十分に配慮していきたい。

○本単元の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

課題の設定場面では、学級活動「よくかむ習慣をつけよう」で学習した「かみかみマシーン^{*1}」の実験結果・噛むことについての意識アンケート結果・しっかり噛むことの大切さについてなど既習の学習内容をていねいに振り返る。また、問題意識を焦点化していくために資料『かむことの力^{*2}』を活用する。さらに、夏期休業中のはみがきの実態を示し、危機感を持たせることで、本単元への学習意欲を高めたい。

情報の収集・整理・分析場面では、インターネットや図書の本の活用だけではなく、歯科医・歯科衛生士・養護教諭・図書館司書への積極的なインタビュー活動も奨励していきたい。

まとめ・表現場面では、町内の様々な機関と連携しながら、発信の方法を考えさせたい。

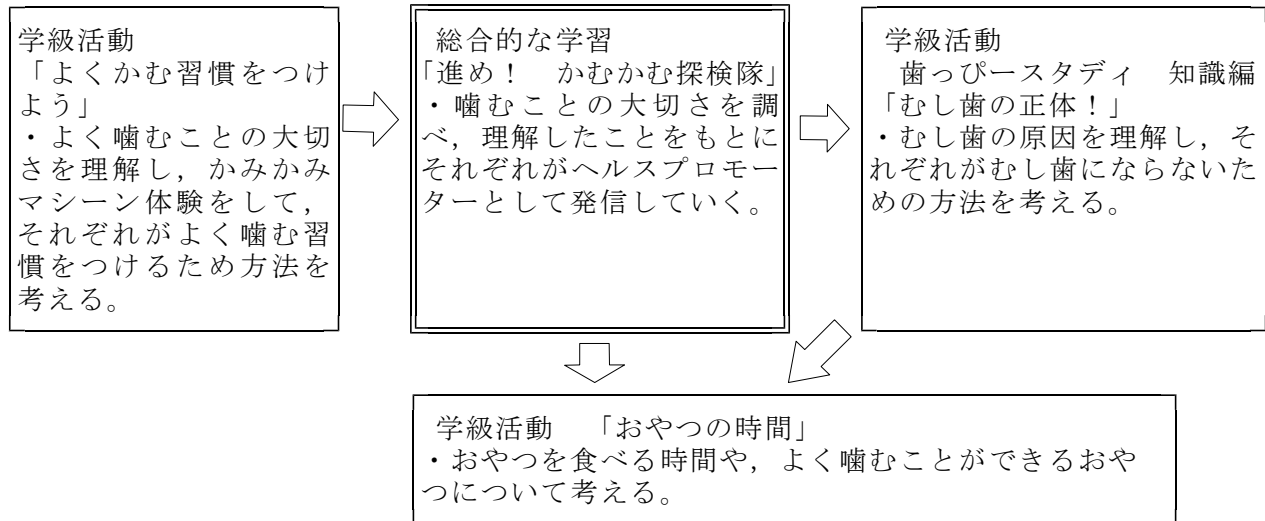
全12時間の活動計画表を作成し、毎時間提示しておくことにより、児童が自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、見通しをもって問題を解決していくことができるように支援していきたい。

(2) 話し合い活動を充実させる

問題解決や探求活動の過程では以下3点を充実させながら学習を展開していくことを確認しておく。課題設定から発表までの活動全般をグループ活動で行い、グループ・学級での話し合いを基盤としながら活動に取り組みさせていきたい。

- ①他者と協同して問題を解決しようとする学習活動。
- ②言語により分析しまとめたり表現したりするなどの学習活動。
- ③体験活動を適切に位置づけた学習活動。

3 他の教科等との関連



4 単元の目標

- 「進め！ かむかむ探検隊」の活動を通して、歯・口の健康づくりについて関心をもち、適切な学習方法で課題を解決できる。
- 歯・口の健康作りについての話を聞いたり、グループで調べたりまとめたりする活動を通して、学び方や考え方を身に付け、自分たちにできることについて考え提案することができる。
- いろいろな活動によって、歯・口の健康づくりについての知識を深めたり、ヘルスプロモーションに基づいた行動をとったりすることができる。

5 評価規準

学習への関心・意欲	問題解決の能力	ものの見方・考え方	自己の生き方
自分の歯・口についての様々な情報から、歯・口や噛むことに関心をもち、進んで調べて、生活の充実のために、日常の生活に取り組もうとしている。	自分の歯・口の健康度を基に自分の課題をもち、インターネットや図鑑での調査・歯科医師や養護教諭等へのインタビュー活動等を通じて追求し、解決に向けて取り組んでいる。	歯・口の健康について、調べることや体験を通じて理解を深め、よく噛むことを日々の生活の中に取り組みすることの大切さに気づいている。	自分の歯・口の健康を守るために、学び合いながら自分の見つけた方法を実践しようとしている。

6 指導計画

	主な学習活動 <全12時間>	◎ つけたい力 ☆ 教科との関連
	①かむことの大切さは何だろう？ <2時間> ○資料『かむことの力』を読む。 ○学活「よくかむ習慣をつけよう」などの既習の学習内容を振	◎情報を収集する力

課題の設定	<p>り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 進め！ かむかむ探検隊 </div> <p>「調べてみたいことを見つけよう。」 本時 ○自分が興味をもったことや調べてみたいと思ったことを見つける。 ○グループで話し合い、個々の課題をもつ。</p>	<p>☆学活「よくかむ習慣をつけよう」</p> <p>◎課題を発見し、設定する力</p>
情報の収集・整理・分析	<p>②かむことの大切さについて詳しく知ろう。 <5時間> 「各自の選んだ課題について調べよう。」 ○インターネットや図鑑、インタビューなどを通して自分たちの課題に迫る。 ○課題が似ている人でグループに分かれて調べる。 ○実際に噛んだり、調べたことをまとめたりする。</p> <p>「まとめたことを伝えよう。」 ○他のグループに、調べてまとめたことを伝える。</p>	<p>◎情報を収集する力 ◎解決の見通しをもつ力 ☆国語「新聞を作ろう」</p> <p>◎分かりやすくまとめ表現する力</p>
まとめ・表現	<p>③ヘルスプロモーターとして、自分たちにできることは何かを考えよう。 <4時間> 「調べてわかったことを校内で発表しよう。」 ○3年生にわかりやすく発信する。 「町へ出て発信しよう。」 ○家族や幼稚園・地域で、調べたことや自分の思いを発信する。 「ポスターを作ろう。」 ○ポスターを作り、自分たちの思いを伝える。</p>	<p>☆国語「伝えあうということ」</p> <p>◎情報を収集する力 ◎情報を伝える力 ◎課題の解決に向けて実践する力 ☆図工「歯・口のポスター作り」</p>
振り返り	<p>④自分たちの活動を振り返ろう。 <1時間> 「学習のあしあとを振り返ろう。」 ○活動の反省をしたり、今後取り組みたいことをまとめたりする。</p>	<p>◎学習の仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする力</p>

7 本時のねらい

- 話し合いを基に、かむかむ探検隊員として自分に適した学習課題を決めることができる。

8 本時の展開

学 習 活 動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
<p>1 前時までの学習を基に、本時の学習のめあてをつかむ。</p>	<p>○資料『かむことの力』の要点を貼ったり、自分たちの「かみかみ生活」を振り返ったりすることで、本時の学習で、噛むことの大切さについて探求していくことへと意識を向けていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「進め！ かむかむ探検隊」で自分が調べていきたいことを決定しよう。 </div>
<p>2 自分たちの咀嚼の状態について知る。</p>	<p>○学活「よくかむ習慣をつけよう」のかみかみマシンの体験活動を想起させ十分に噛むことができていなかったことを確認する。 ○資料を見たり、学校歯科医の話の聞いたりすることで、今の生活スタイルを改善せず漠然と続けていくと、健康の増進のためには問題があることに気づくことができるようにする。 ★A児にはカード等を使って黒板提示をすることで歯科医の話が理解しやすいように配慮する。</p>
<p>3 「かむかむ探検隊員」と</p>	<p>○活動2をふまえて、ワークシートに自分が調べていきたいめ</p>

して自分が調べていくめあてを決定する。

あてを書き込ませ、めあてを意識できるようにする。

<予想される児童の反応>

- ・歯・骨・関節・筋肉が強くなる。
- ・唾液が出てむし歯になることを防ぐ。
- ・脳に情報を伝える。肥満を防ぐ。
- ・歯全体で噛むことで体全体の成長や活動に良い影響が出る。
- ・学習能力が上がる。

○めあてを書きやすくするためにワークシートには、「かむことと〇〇の関係を調べよう。」「よくかむと〇〇になるぞ。」などの例示を示しておく。

○学級全体の取り組みであるため、同じめあてに集中する場合は意図的に分散させる。考えためあてのうちで自分が削除したものも、最終的には誰かが調べていくことを伝えておく。

★B児には個別に対応し、前時で学習した『かむことの力』で赤線部を引いた箇所を示し、自分にとって最も関心の高かったものにするように助言する。

○ワークシートに書き込んだ児童は、黒板の発表ボードに自分のめあてを書きこむ。各自のめあてが、全員にわかりやすくなるよう教師が発表内容ごとに分類する。

○発表後内容の似ている人が同じグループになるように指示する。今後の学習が円滑に進むよう、グループの人数をなるべく2～3人にする。

○今後はグループでの活動が主なることを伝え、情報収集・整理・分析の方法や発表の仕方についてグループで相談させ、ワークシートに書き込むように指示する。

○グループごとにまとめたことを発表させ、疑問点を質問したり、アドバイスをお互いにしたりすることで、各グループの今後の活動がより深まったものになるようにしていく。

◆【学習への関心・意欲】

話し合いを基に、学習課題を決めている。

<学習カード、観察>

4 本時のまとめをしたり、教師の話の聞いたりする。

○各グループのめあてや方法を確認して、次時より情報収集・整理・分析の段階の活動に入ることを活動計画表で示し、意欲を高めていく。

○決められた時間の中で、協力しながら効率よく活動することが大切であることを確認しておく。

- ※1 「かみかみマシン」 そしゃく計 かみかみセンサー 日陶化学
- ※2 資料『かむことの力』 光村図書出版 四年国語上 平成22年印刷

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

・課題の設定場面では、学級活動「よくかむ習慣をつけよう」で学習した「かみかみマシン^{※1}」の実験結果や噛むことについての意識アンケート結果を提示することで、各自の問題意識が高まった。しっかり噛むことの大切さについて理解し、問題意識を焦点化していくために石井雅之学校歯科医の話が非常に有効であった。

情報の収集・整理・分析場面では、発表する対象を3年生の児童にしぼったことで、スムーズに学習が展開していった。また、インターネットや図書の本の活用だけではなく、歯科医からもらった資料、養護教諭、本校職員への積極的なインタビュー活動などへの展開も見られた。多方面からの助言により、模型の作成や資料提示の工夫も見られた。

まとめ・表現場面では、3年生児童への発表を反省することで、指導の意欲がさらに膨らみ町内の円城小4年生との交流学習へとつながっていった。当初は全12時間の活動を計画していたが、さらに5時間の「進め！ かむかむ探検隊パートII」として活動



し内容も飛躍的に深まっていった。発表を重ねることで各自の課題が明確になり、ヘルスプロモーターとしての意識がより確立されていったように思う。

(2) 話し合い活動を充実させる

- ・課題設定から発表までの活動全般をグループ活動で行い、常にグループ・学級での話し合いを基盤としながら活動していくことで、協力して問題を解決しようとする姿勢が定着した。また、発表の仕方や感想の言い方を確認することで、言語によって分析しまとめたり表現したりする力が徐々についてきている。本学級の児童は、実験、製作などの体験活動を好むことから、これらを適切に位置づけた学習活動を展開していったことで活動が生き生きしたものとなった。



調査方法を話し合う



歯の模型を使って発表



だ液の実験のまとめ

2 学級活動の実践

「よくかむ習慣をつけよう」

かみかみマシーンを使って、給食を食べてみることで、一回の食事でおよそ何回くらい噛んでいるかを各自がはっきりと把握することができた。それを一覧表にし常に確認できるようにしておくことで、総合的な学習「進め！かむかむ探検隊」の導入部がスムーズに展開できたように思う。また、自分の考えている「噛む」とかみかみマシーンが示す「噛む」とではかなり差があることが分かったことも大きかった。マシーンがカウントするかみ方を体得することで、日常生活の中で「しっかり噛みなさい。」と指導された時の「しっかり」が体感できるようになった。授業後、給食時の噛む様子が明らかに変化してきていることが分かった。本授業で方向性を定め、課題意識を明確にできたことが「進め！かむかむ探検隊」の学習が生き生きしたものになっていった大きな要因である。



ぼくの考えたよく噛む習慣をつける方法



かみかみマシーンをつけて調査中

3 学習発表会での発表

自分たちが歯・口の健康問題についてヘルスプロモーターとして推進していく一員であるという自覚も育てていくために、学習発表会で「あまちゃん、ヘルスプロモーション」の発表をした。ヘルスプロモーションの理念である「守る」「育てる」「つなぎ合う」が、劇を演じる中で「はみがきをきちんとする。」「健康の維持増進をする。」「身近な人から少しずつ広めていく。」など、自分たちにもできる活動であるということが理解できてきたように思われる。



「あまちゃん、ヘルスプロモーション」



「守る」「育てる」「つなぎ合う」



「守る」は歯みがきだ。



「育てる」は外で元気よく遊ぶことだ。 「つなぎ合う」「岡山県」「全国」「世界中」に
ヘルスプロモーターとして

平成26年度

1 学級活動の実践

第4学年 学級活動学習指導案

平成26年7月16日(水) 第5校時

指導者 片岡 為世
T T 河本 君子 養護教諭

- 1 題材名 歯っぴースタディ「小白歯をピカピカに！」
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

4年生では、歯っぴースタディの技能編で小白歯をきれいにみがけることをねらっている。児童は前学年までに第一大臼歯の溝・前歯の外側・内側のみがき方を学習し、日々の歯みがきで実践してきている。ここでは、これまでの歯のみがき方を振り返るとともに、小白歯のみがき方を学び、歯の染め出し検査により課題に気付くようにする。そして自分の課題を解決する方法を考え、個々の「歯みがきレシピ」を作り、それに沿って実践できるようにしていく。自分の課題に気づき、具体的に解決する経験を重ねることで、主体的に健康行動を選択し、ライフスタイルを改善することができる実践的態度が育っていくと考える。

○児童の実態

本学級の児童は、5月・6月の歯・口の健康診断で、10名中カリエスフリーの児童が2名、処置済みの児童が8名であった。前学年までの歯っぴースタディ・学童はみがき大会・歯っぴー集会・親子はみがき教室などで、歯・口についての学習を深めてきている。6月の歯っぴー集会では、1～3年生で学習した、「くるくる回転みがき」「こちょこちょくすぐりみがき」「たてよこミックスみがき」「シュシュかきだしみがき」などを劇にして発表している。毛先を歯の面にきちんと当ててみがくよう個別に声をかけながら日々の歯みがきに取り組んでいる。

本時では、新しく「こちょこちょつま先みがき」を学習し既習のみがき方と比較しながら小白歯をきれいにみがくことができるようにしていく。新たなみがき方を身につけることで、歯みがきタイムや家庭での歯みがきの時に、きれいにみがけた喜びが増し、児童の歯・口に関する関心をさらに高め、自らの健康づくりに取り組む態度の育成につながると思う。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

小白歯の効果的なみがき方を選ぶことができるように、歯垢の染め出し検査を行うとともに自己評価にも活用する。実際にみがくことでどのみがき方が適しているかを考えるようにする。

(2) T T指導を生かす

養護教諭による「小白歯の位置や形」「色々なみがき方」についての専門的な話を聞くことで個々のねらいがより具体的になるようにする。

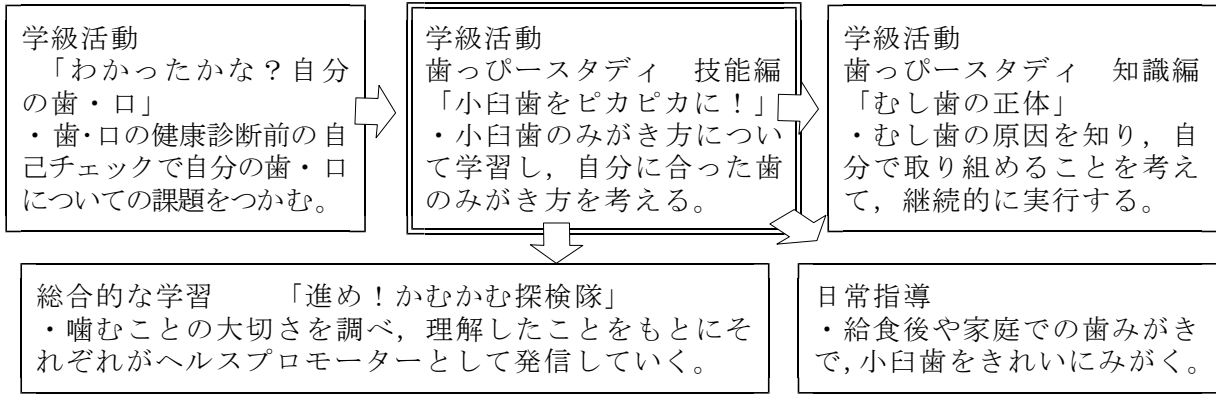
自分に合った歯のみがき方を決定したり、実際にみがいたりする学習場面では本時で学んだ「こちょこちょつま先みがき」を有効に活用しているか個別指導を行い、よりよいみがき方ができるようにしていく。

(3) 話し合い活動を充実させる

自分と友達との考えを比較をしやすくするために、歯っぴースタディカードへの書き込みや掲示などを視覚的にわかりやすくする。多数の名前カードを用意して黒板に貼り、話し合いのポイントをしばっていき、発表がよりしやすくなると思う。

各自の気づきを大切に、学級全体へと広めていくために、歯ブラシや歯の模型などの具体物を活用する。

3 他の教科等との関連



4 本時のねらい

- 自分の小白歯の様子を知り、話し合いから自分の歯並びや歯の形に合ったみがき方を考え、決定したみがき方できれいにみがくことができる。

5 評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活について知識・理解
自分の歯みがきの仕方についての課題に関心を持ち、健康な歯を保つために、進んで効果的な歯みがきに取り組もうとしている。	お互いの歯みがきの仕方の課題について話し合い、自分に合った解決方法について考え、判断し、実践している。	歯をきれいにするためにいろいろなみがき方を活用することが大切であることやその方法について理解している。

6 指導計画

	日時	活動内容
事前	6月14日（土）	○養護教諭から、既習のみがき方として「くるくる回転みがき」「ちょちょくすぐりみがき」「たてよこミックスみがき」「シュッシュかきだしみがき」についての説明を聞き、3年生までのみがき方を歯っぴー集会の劇として発表する。
本時	7月16日（水）	○小白歯のみがき方について知り、自分に合った歯のみがき方を考え決定し、きれいにみがくための技能を身に付ける。
事後	7月16日（水）～7月24日（木）	○「小白歯ピカピカ週間」を設定し、自分で決定した方法を続ける。 ○家庭との連携をはかり、自分で決めたことが実行できるようにする。

7 本時の展開

学習活動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
振り返る	<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <p>○本時は歯っぴースタディの技能編であり、6年間通じて歯のみがき方について学習する時間であることを知らせる。 ○小白歯の正しい位置を理解できるように、写真・模型・歯鏡などで確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">小白歯を自分に合ったみがき方できれいにみがこう！</div>
知る	<p>2 歯のみがき方について知る。</p> <p>○本時は小白歯のみがき方についての技能習得であることを確認し、養護教諭が歯の模型と歯ブラシを用いて「ちょちょつ</p>

話し合う	3 小臼歯の効果的なみがき方についてみがくことを通して考え、話し合う。	<p>ま先みがき」のみがき方をわかりやすく指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「歯っぴースタディカード」を使用することで自分の考えを視覚的にわかりやすくまとめることができるようにする。 ○効果的に歯垢を落とせているかどうかを判断しやすくするために、小臼歯の染め出し検査をする。 ○鏡で確認しやすいよう、下側の小臼歯のみをみがくよう指示する。 ○自分の見つけたみがき方を歯っぴースタディカードに書き込み全体の話し合いへとつなげていく。 ○自分と友だちの考えが比較しやすくなるように拡大した「歯っぴースタディカード」を黒板に掲示しそれを用いて説明するように指示する。 ○自分のみがき方を振り返り、きれいにみがけた理由、みがけなかった原因などを話し合い、意見を学級全体で共有できるようにする。 ○友だちの考えを共感的に聞き、自分に合った歯のみがき方を決定する際に役立てるように言葉かけをしておく。
決める	4 自分に合った歯のみがき方を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの結果をもとに、自分にとってよりよいみがき方を決めるように指示する。 ○決定したみがき方を一人ずつ発表することで、実践への意欲を高めることができるようにする。
みがく	5 決定したみがき方でみがき、本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○決定したみがき方で上側の小臼歯をみがくことを伝え、養護教諭とともに机間指導をしながら、自分に合った歯のみがき方ができているかどうか、個別に指導をする。 ○きれいにみがけた児童には歯みがき学年別到達目標にスタンプを押し賞揚する。
		<p>◆【思考・判断・実践】</p> <p>話し合いから自分の小臼歯に合ったよりよいみがき方を見つけ、小臼歯をきれいにみがくことができている。</p> <p><歯っぴースタディカード・観察></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時で決定した、自分に合ったみがき方が定着していくように「小臼歯ピカピカ週間」を設定して、取り組んでいくことを伝える。

8 準備物

歯っぴースタディセット 歯っぴースタディカード 歯の模型・写真

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

- ・歯っぴースタディカードに沿って①小臼歯の位置の確認 ②左右で「くるくる回転みがき」「こちょこちょくすぐりみがき」を試す。
- ③新しく学習した「こちょこちょつま先みがき」を使ってみがく。これらの中で既習のみがき方と比較しながら小臼歯をきれいにみがくことができるようになった。歯垢を落とせているかどうかを判断しやすくするために、染め出し検査をしたことも効果的であった。



(2) TT指導を生かす

- ・養護教諭の専門的な話により個々がより具体的なめあてを立てていくことができた。実際にみがく場面では本時で学んだ「こちょこちょつま先みがき」を有効に活用してみがくことができているか個別指導を行うことで正しいみがき方ができるようになった。



(3) 話し合い活動を充実させる

- ・多数の名前カードを用意して黒板に貼り、小臼歯の溝・外側・内側・間とひとつずつ確認しながら話し合うことで焦点化がはかれた。机間巡視のときに建設的な意見には、朱書きをしたり、うまくいかなかった点も書いておくように指示したことは有効であった。



第5学年

平成25年度

1 学級活動の実践

① 歯っぴースタディ 「やだよ歯周病」

第5学年 学級活動指導案

平成25年10月29日(火) 第4校時 指導者 山本 恵子
T T 河本 君子 養護教諭

- 1 題材名 歯っぴースタディ 「やだよ歯周病」
内容 (2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

5年生では、歯っぴースタディの知識編で歯周病について学習することになっている。その理由として、小学校中学年から高学年にかけてのこの時期に、歯周病のひとつである歯肉炎を発症する児童が現れ始め、最近では増加傾向にあることが指摘されている。また、5年生の時期には、第二大臼歯が生え始め、永久歯列が完成に近づく児童も出てくるとともに、各自の歯・口の健康状態も歯みがきの回数や仕方などにより大きく差が出てくると考えられる。そのため、この時期に歯周病を予防するための学習を行うことは、生涯を通して健康な歯や歯肉で生活できる素地となると考えた。

○児童の実態

児童は、4年生までの歯っぴースタディや学校歯科医による親子歯みがき教室、学童歯みがき大会などで、歯・口についての学習を深めてきた。

6月の歯・口の健康診断では、カリエスフリーの児童(ゴールド歯っぴー)3名、処置済みの児童(シルバー歯っぴー)5名、う歯保有の児童(イエロー歯っぴー)1名という結果であった。また、歯肉炎が見つかった児童は2名で、養護教諭の個別の指導を受けて夏季休業前に改善がみられた。う歯治療にも前向きに取り組み、9月にはう歯治療は100%を達成した。

しかし、夏季休業中の歯みがきの実態は、朝・昼・夜と3回歯みがきをしている児童は4名で、昼食後の歯みがきができていない児童が3名、残り2名は1日に1回しか歯みがきができていない状態であった。このことから、昼食後の歯みがきができていない傾向があり、歯みがきの習慣化が徹底できていないことが分かった。また、むし歯を治そうという意識はあっても、むし歯にならないようにする態度が育っていないことも考えられる。

また、歯周病の発生・進行を促進させる因子である生活習慣に目を向けてみると、習い事などが理由で就寝時刻が10時以降になったり、砂糖を多く含む菓子類を摂ったりする児童も多く、永久歯が生えそろったこの時期に、むし歯・歯周病を予防するための学習が必要であると考える。

本題材では、健康な歯・口づくりをめざし、歯周病は食習慣など生活習慣の改善が不可欠であることを踏まえ、歯みがきはもちろん、自らの生活をコントロールする力を身につけさせたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) T T指導を生かす

養護教諭の歯周病に関する専門的な話を本時で取り入れ、歯周病について正しく理解できるようにする。特に、歯垢・生活習慣が歯周病の原因であるということを中心に説明していく。

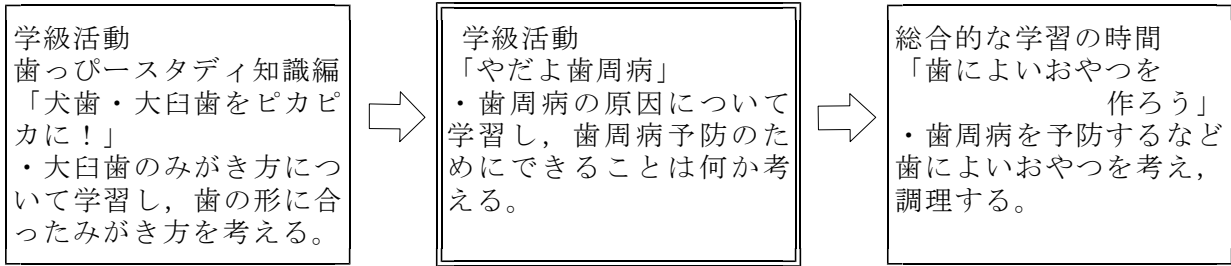
(2) 話し合い活動を充実をさせる

児童が積極的に話し合いに参加できるように、グループで話し合う時間を設定する。その際、様々な考えを引き出せるよう、共感的に話したり聞いたりすることを徹底する。

(3) 家庭や地域との連携を深める

歯みがきの徹底や生活習慣の改善には、家庭での呼びかけが必要であるため、児童がヘルスプロモーターとして学習内容を家庭で話題にできるようなプリントを用意する。その際、学年通信等を活用し、周知徹底を図る。

3 他の教科等との関連



4 本時のねらい

- 自分の歯肉の状態や生活習慣に関心を持ち、健康な歯・口を保つための自分に合ったよりよい方法を見つけ、実践しようとする。

5 評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
歯周病に対する考えを深めようと、自主的に活動に取り組もうとしている。	歯周病を予防するために、歯みがきの仕方や生活習慣の改善について話し合い、自分に合った取り組み方法を判断し、実践している。	歯周病とその原因について知り、歯みがきで予防できることやよりよい生活習慣の大切さを理解している。

6 指導計画

	日時	活動内容
事前	10月15日(火)	○歯・おやつに関するアンケートを行う。
本時	10月29日(火)	○歯周病について知り、その予防のために自分が取り組む方法を考え、決定する。
事後	10月30日(水)～ 11月5日(火)	○「歯周病予防強化週間」を設定し、自分で決定した方法を続ける。 ○ヘルスプロモーターとして、おうちの人に学習内容を伝え、歯周病について共有する。

7 本時の展開

学習活動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
1 歯肉の状態をチェックし、学習のめあてを確認する。	○本時は歯周病について学習することを意識できるよう、1学期の歯に関する学習を想起し、自分の歯・口の健康を振り返らせる。 ○これまでの自分の歯みがきがよかったか振り返られるよう、以前の自分の歯肉の写真が載っているワークシートを用意する。
	歯周病について考えよう。
2 歯周病について知る。	○歯周病について正しく理解できるよう、養護教諭の説明を聞く時間を設定する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <説明の概要> 歯周病の種類 歯周病の発生機序 歯周病の原因 </div>

3 歯周病にならない生活について考える。	○児童一人一人が発言しやすくなるよう、グループごとに分かれてアイデアを出す時間を設定する。
	<p style="text-align: center;">＜予想される児童の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起きをして、朝落ち着いて歯みがきをする。 ・食べたら、すぐみがくようにする。
	<p>○視覚的にまとめられるよう、アイデアごとに分類できる小黒板を用意する。</p> <p>○アイデアが出にくい児童には、これまでに取り組んできたことで、歯周病予防によいことは続けて行えばよいことを助言する。</p>
4 よりよい方法について話し合う。	<p>○アイデアを共有できるよう、グループで出たアイデアを発表する時間を設定する。その際、安心して発表できるよう、共感的にアイデアを聞くよう伝える。</p> <p>○自分に合ったよりよい方法を選べることができるよう、グループでの話し合いで出たアイデアの中で、よい点・改良すべき点について話し合う時間を設定する。</p> <p>○出てきたアイデアから、自分に合った歯周病予防法を決めるよう指示する。その際、目標設定が行いやすくなるよう、具体的な数値等を挙げるよう助言する。</p> <p>◆【思考・判断・実践】</p> <p style="padding-left: 20px;">話し合いから、自分に合った歯周病予防法を決めている。 ＜ワークシート、観察＞</p>
5 本時のまとめをする。	<p>○歯周病予防の大切さについておさえられるよう、まとめや感想をワークシートに記入するよう伝える。</p> <p>◆【知識・理解】</p> <p style="padding-left: 20px;">歯周病の原因とその予防法を理解することができる。 ＜ワークシート＞</p> <p>○意欲的に歯周病予防に取り組められるよう、「歯周病予防強化週間」中に、家族に学習内容を共有するよう伝える。</p>

8 反省と考察

(1) TT指導を生かす

- ・養護教諭の歯周病に関する専門的な話を取り入れることで、児童は歯周病について正しく理解できた。特に、歯垢・生活習慣が歯周病の原因であるということに要点を絞って説明したことで、児童の理解もより深まったと考察する。

また、話し合いや自己決定の学習場面では、養護教諭の立場から児童に的確なアドバイスをした。その結果、児童は、一人一人の生活習慣に合った歯周病の予防法を考えたり選んだりすることができた。



模型を使って指導

(2) 話し合い活動を充実をさせる

- ・少人数の学級であることや児童の実態から、より活発な話し合いになるように、ペアで考えを交流する時間を確保した。さらに、考えを付箋に書き込むことで、互いの考えが明確になり、活発に意見交換することができた。

しかし、全体の場での話し合いになると、恥ずかしさや間違えたくない等の理由から消極的になり、教師主導の話し合いとなった。学習活動に、より積極的に話し合い活動を取り入れ、話し合いに慣れさせる必要があると感じた。



ペアで考えを出し合う



ペアでの話をもとに全体で

(3) 家庭や地域との連携を深める

・自ら決めた歯周病にならないための方法を、意識して取り組められるよう「歯周病予防強化週間」を設定した。その期間中に、家族に学習内容を伝える「ヘルスプロモーション活動」を取り入れた。保護者の方には学年通信でもお願いをし、協力していただいた。感想に、「丁寧に教えてくれた。」「歯周病にならないように歯みがきをします。」等と児童の励みになる言葉をいただいた。その後も、学年懇談会等でも話題に挙げることで、児童も保護者も歯周病のみならず歯・口の健康に対して意識していただけるようになった。また、学習内容を家庭のみならず地域にも広く伝えようと、地域の老人ホームを訪問し、歯周病予防法を発表した。一度の発表だけでは十分な連携は図れないので、定期的に訪問し、歯・口の健康について交流ができると理想的である。



要点をまとめて提示する工夫

② 「かむかむ大作戦」

食事をしている時に「よく噛みなさい。」と言われるが、どうして噛まなくてはならないのか、また、噛まなくてはならないと分かっているにもかかわらず実際には噛めていないということが、児童への事前アンケートで分かった。そこで、授業では意識して噛もうとする態度が養えるよう、噛むことでどんなよいことがあるのかということに焦点を当てて指導した。

アンケート結果で噛まない食べ物の上位にあった一口ゼリーを、授業内で2回食べた。1回目は授業の始まりに、2回目は噛むことでどんなよいことがあるかを話した後に食べさせた。咀嚼回数は大幅に増え、「あまり噛んでいないゼリーでも、こんなに噛めるんだ。」と驚く児童もいた。その後、どのようにしたら意識して噛めるようになるか、考え話し合い活動をした。今回も、自分が取り組む方法を決め、実践する期間を設けた。

また、この題材は参観日の参観授業として行い、保護者の方にも家庭で協力していただけるようにした。



③ 「元気の出る朝ごはん」

この題材では、自分の普段食べている朝ごはんが栄養バランスのよい朝ごはんなのか、またどのような食品の組み合わせがバランスのよい朝ごはんになるのか考えさせた。

家庭科で食品の栄養的な特徴と、食品を組み合わせると必要があることを学習した児童は、実際に食べている朝ごはんは栄養バランスが偏っていて、「この食品をとり入れたらよくなる。」「果物を入れよう。」と、食品分類表を見ながら、熱心に取り組んでいた。

児童は、家庭科で炊飯とみそ汁作りを実習したので、元気の出るみそ汁を家で作ってみようというホームワークを取り入れた。



分類表を見ながらチェック

2 体育科（保健領域）の実践

「けがの防止」

第5学年の保健学習では、身の回りの生活におけるけがなどの防止について学習するようになってきている。周囲の状況を見極め、的確な判断の下に安全に行動することが必要であることを理解できるようにすることを目的としている。日常生活の中で、廊下の左側を走っていると曲がり角ではどんな危険が潜んでいるか、大勢が一か所でいろいろな遊びをしているとどのようなけがをしてしまうかなど、ケーススタディーを取り入れ学習を進めた。その際、転倒・衝突によって、健全歯を失ったり、歯の破折・脱臼・陥入ということも起こりうるということにもふれた。

＜児童の感想から＞

- ・ 何もないところでつまずいたり、少しのだんさでつまずいたりしてしまうから、気をつけたい。
- ・ 遊具では、きけんな遊び方をしないようにする。
- ・ 陥入が特にしょうげき的で、どのけがにもならないように、自分にも相手にも気をつけようと思う。

3 家庭科の実践

「バランスのよい食事をしよう」

5大栄養素や3つの食品のグループについて学習した児童は、日本の伝統的な食事のひとつであるごはんのみそ汁を調理する学習を行った。みそ汁の具の組み合わせも、栄養バランスのみならず歯ごたえのあるものを選び、どのタイミングで入れるとよいかなどまで考えながら調理することができた。

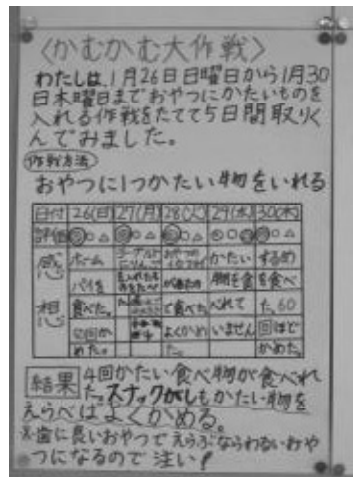
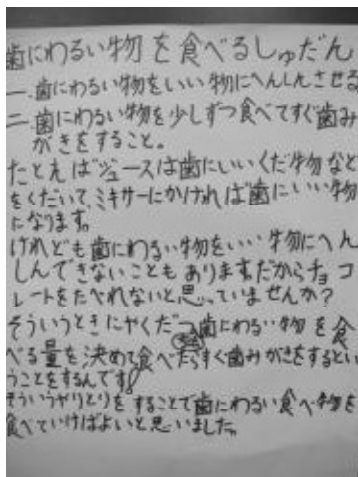


4 総合的な学習の時間の実践

「歯によいおやつを作ろう」

家庭科の学習で、食品を組み合わせると必要な栄養素があるということを知り、間食は食事だけでは補えない栄養をとる方法ということを知った。そこで、総合的な学習の時間に、どのようなおやつをとるとよいのか、またどのようにとるとよいのかなどについて詳しく調べていくことにした。調べていく中で、間食をとることにはリラックス効果があるということを知り、どのようなものをどのようにとったらよいかということを利用してインターネットや図書を利用して調べることができた。たくさん咀嚼できるものはどんなものか、たとえ歯によいおやつに分類されても食後は必ず歯を磨くべきだなど、これまでの学習を生かしたまとめ方を考える児童も多く、学習内容の定着を確認することができた。

さらに、学習内容を地域の人にも伝えようと、今回は幼稚園児にヘルスプロモーション活動を行った。幼小連携という観点から、年長組園児に小学校の紹介をしながら、上手なおやつとり方を教えたり、事前に作った歯によいおやつをいっしょに食べたりして、ともに歯・口の健康に取り組もうと交流することができた。



児童の作品



平成26年度

1 学級活動の実践

第5学年 学級活動指導案

平成26年5月13日(火) 第6校時 指導者 山本 恵子
T T 河本 君子 養護教諭

- 1 題材名 歯っぴースタディ 「犬歯・大臼歯をピカピカに！」
内容 (2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

5年生では、歯っぴースタディの技能編で犬歯や大臼歯の形に合ったみがき方でみがくことができることをねらっている。その理由として、5年生の時期は、犬歯や小臼歯の交換時期で、第二大臼歯も生え始め、永久歯列が完成に近づく児童も出てくる。また、歯が生えそろうこの時期は、各自の歯・口の健康状態も歯みがきの回数や仕方などにより大きく差が出てくると考えられる。そのため、この時期に犬歯・大臼歯のみがき方を考え、技能を身につける学習を行うことは、生涯を通して健康な歯や口で生活できる素地となると考えた。

○児童の実態

児童は、前学年までの歯っぴースタディや学校歯科医による親子歯みがき教室、学童歯みがき大会などで、歯・口についての学習を深めてきた。

時間をかけてすみずみまで丁寧にみがいていると感じている児童は8名いた。しかし、これまでの歯垢の染め出し検査の結果をふり返り、改めてきれいにみがけているか尋ねてみると自己評価が下がってしまう児童が6割以上いた。これらの結果から、すみずみまできれいにみがく技能が十分に身に付いていないのでないかと考える。

また、給食後の歯みがきの様子を観察すると、思いつくまま歯ブラシを動かすなど、すみずみまでみがこうと意識していない児童も5割はいるように感じる。

本題材では、健康な歯・口づくりをめざし、歯の形や歯並びに合わせてみがく技能を身に付けさせるのはもちろん、歯みがきの重要性についても改めておさえ、歯みがきを丁寧にする態度を育てたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

自分に合った歯のみがき方を選べるよう、歯垢の染め出し検査を行い、実際にみがきながら考える時間を設定する。

(2) T T指導を生かす

養護教諭の専門的な話を本時で取り入れ、歯ブラシの毛先の当て方について正しく理解できるようにする。また、犬歯・大臼歯の形や歯並びはどのような特徴があるのかについても説明していく。

自分に合ったみがき方を決定したり、実際にみがいたりする学習場面では、個別指導を行い、自分の歯の形や歯並びに合ったよりよいみがき方ができるようにする。

以上のことにより、自分に合ったみがき方を選び実践する態度が養えるようにしたい。

(3) 話し合い活動を充実させる

児童が自分の考えをしっかりとって積極的に話し合いに参加できるように、考える時間を確保する。また、「歯みがきレシピ」が記入できる「歯っぴースタディカード」を用意し、自分の考えを視覚的に確かめられるようにする。話し合う際には、様々な考えを引き出せるよう、共感的に話したり聞いたりすることを徹底する。

3 他の教科等との関連

学級活動
「犬歯・大臼歯を
ピカピカに！」
・犬歯・大臼歯のみがき
方について学習し、歯の
形や歯並びに合ったみが



総合的な学習の時間
「いろんな歯・
は・HA！」
・人間の歯と動物の歯を
比較して役割の違いを調
べる。

き方を考える。



日常指導
 ・給食後や家庭での歯みがきで、犬歯・大臼歯をきれいにみがく。

4 本時のねらい

- 自分の犬歯・大臼歯の様子を知り、話し合いから自分の歯の形や歯並びに合ったみがき方を考え、きれいにみがくことができる。

5 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自分の犬歯・大臼歯に関心をもち、自分に合ったみがき方はどれか考え、自主的に活動に取り組もうとしている。	自分の犬歯・大臼歯に合ったみがき方はどれか積極的に話し合い、自分に合った取り組み方法を判断し、実践している。	歯の形や歯並びに合わせてみがき方を変えることの大切さやその方法を理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	4月16日(水)	○前学年までのみがき方を振り返る。
本時	5月13日(火)	○犬歯・大臼歯のみがき方について知り、自分に合ったみがき方を考え、決定する。
事後	5月14日(水) ～ 5月21日(水)	○「犬歯・大臼歯ピカピカ週間」を設定し、自分で決定した方法が続ける。 ○学習内容や家庭での協力依頼を学級通信等で伝え、自分で決定した方法が習慣づくようにする。

7 本時の展開

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 ・ 評 価 に 関 する 配 慮 事 項 な ど
振り返る	<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <p>○本時では犬歯・大臼歯のみがき方について学習することを意識できるように、事前に行った前学年までのみがき方のふり返りを想起させる。 ○犬歯や大臼歯の正しい位置を理解できるように、模型や歯鏡などを用いて確認する。</p>
	<p style="text-align: center;">犬歯・大臼歯のみがき方を考えよう。</p>
知る	<p>2 歯のみがき方について知る。</p> <p>○歯のみがき方について正しく理解できるように、養護教諭の説明を聞く時間を設定する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><説明の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 犬歯と大臼歯の形の特徴 ・ 歯ブラシの動かし方 </div> <p>○犬歯や大臼歯の歯の形などの特徴を理解できるように、模型や歯鏡などを用いて確認する。</p>

話し合う	3 犬歯・大臼歯の効果的なみがき方についてみがきながら考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをまとめられるよう、「歯っぴースタディカード」を用意する。 ○効果的に歯垢を落とせていることがわかりやすくなるよう、犬歯・大臼歯の染め出し検査をする。 ○みがき方が選べない児童には、歯の形や歯並びがどのようになっているかなどのポイントがふり返られるよう個別指導をする。 ○自分なりの効果的なみがき方を見つけてもよいことを伝える。 ○自分と友だちの考えが比較しやすくなるよう、「歯っぴースタディカード」を黒板に掲示する。 ○考えを共有できるよう、発表する時間を設定する。その際、安心して発表できるよう、共感的に考えを聞くよう伝える。 ○自分に合ったよりよいみがき方を選ぶことができるよう、意見を交流させる。話し合いがより活発になるよう、必要であれば小グループで考える時間を設定する。
決める	4 自分に合ったみがき方を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ○出てきた考えから、自分に合ったみがき方を決めるよう指示する。 ○実践への意欲喚起につながるよう、自分で選んだみがき方を発表する。
みがく	5 決定したみがき方でみがき、本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○実際にみがいて、よりよいみがき方を見つけることができたら変更してよいことを伝える。 ○きれいにみがくことができているか机間指導しながら確認し、みがくことができているれば学年別到達目標一覧にスタンプを押し、称揚する。
		<p>◆【思考・判断・実践】</p> <p>話し合いから、自分に合ったよりよいみがき方を決めて、犬歯・大臼歯をみがくことができる。</p> <p style="text-align: center;">＜歯っぴースタディカード，観察＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○決定したみがき方で継続的にみがこうとする態度を育てられるよう、「犬歯・大臼歯ピカピカ週間」を設定し、取り組むよう伝える。

8 準備物

歯っぴースタディセット 歯っぴースタディカード 発表ボード 歯の模型

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

- ・自分に合った歯のみがき方を選び、なおかつより活発な話し合いになるよう、歯垢染め出し検査を話し合い活動の前にとり入れた。授業時間の関係から1度しか検査ができなかったが、児童の興味・関心をより引き出すためには、自分に合ったみがき方を決めた後に、改めて検査を行った上でみがきたかった。学習活動の時間のスリム化を図る必要があった。



犬歯・大臼歯のみ染め出す

(2) TT指導を生かす

- ・「やだよ歯周病」と同じように要点を絞って犬歯・大臼歯の説明，みがき方の説明をすることで、児童は正しく理解し、自分の歯の形に合ったよりよいみがき方を選ぶことができた。自分に合ったみがき方を選んだり、選んだみがき方でみがいたりする時間には、机間巡視し児童にアドバイスしたり質問に答えたりすることで、自信をもってみがき方を選ぶことができた。



専門的立場でアドバイス

(3) 話し合い活動を充実させる

- ・掲示用の歯みがきレシピと歯っぴースタディカードを用意することで、掲示した自分の考えを確かめることができたので、児童は安心して発言することができた。しかし、みがく場所が多岐にわたり、話し合いの観点が複雑化するため、教師側が一方的に決めてしまい、話し合いも誘導するかたちになってしまった。



第6学年

平成25年度

1 家庭科の実践

第6学年 家庭科学習指導案

平成25年11月20日(水) 第5校時 指導者 菅野 秀昭
GT 藤川 典子 栄養委員

1 題材名 くふうしよう 楽しい食事

2 題材の目標

- 日常の食事の大切さに気付き、楽しく食事をしようとする。 (関心・意欲・態度)
- 栄養のバランスを考え、ごはんのみそ汁を中心に、1食分の献立を工夫して立てている。 (創意・工夫)
- 身近な食品を用いて調理計画を立てて、簡単なおかずを作ることができる。 (技能)
- 食品の組み合わせを考えた献立の立て方を理解している。 (知識・理解)

3 題材の評価基準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を創意工夫する 能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
毎日の食事に関心をもち、食事の仕方について考えたり、1食分の食事の献立を立てようとしている。	食品の組み合わせを考え、1食分の献立を工夫したり調理計画を考えたりしている。	材料や目的に合わせて安全に気をつけて調理している。	栄養のバランスを考えた1食分の献立の立て方や食事の役割を理解している。

4 指導と評価の計画(全12時間)

	小題材	学習活動	関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	知識・理解
1	バランスのよいこんだてを考えよう (5時間) 本時 4/5	○よい食事にするための工夫について調べる。 ○バランスのよい献立を考える。	○毎日の食事に関心をもち、1食分の献立を立てようとしている。 ○食事の役割を考え、食事を大切にしようとしている。	○栄養のバランスを考え、食品を組み合わせることで1食分の献立を考えたり自分なりに工夫したりしている。		○栄養のバランスを考えた1食分の献立の立て方について理解している。
2	身近な食品でおかずをつくらう (6時間)	○計画を立てておかずを作る。	○身近な材料を使っておかずをつくらうとしている。	○材料や目的にあったゆで方やいため方について考えたり工夫したりしている。	○材料や目的に応じたゆで方やいため方ができる。	○材料や目的にあったゆで方やいため方について理解している。
3	家族と楽しく食事をしよう (1時間)	○家庭での実践のための計画を立てる。		○楽しく食事をすることについて考えたり、自分なりに工夫したり		○食事の役割や日常の食事の大切さについて理解している。

				している。		○楽しく食事をするためのマナーについて理解している。
--	--	--	--	-------	--	----------------------------

5 指導上の立場

○題材について

本題材は、これまでの調理の実践を生かしながら、1食分の食事の献立を立てたり調理をしたりすることで、自分の食生活を振り返り、栄養的にバランスのとれた食事を楽しくとり、より豊かな食生活を送ろうとすることをねらいとしている。児童の毎日の生活に関わる題材のため、自分の生活を振り返りやすく、また、家庭での実践にも結びつきやすいと考える。

そこで、本題材を指導するに当たっては、1食分の普段の食事や給食を取り上げて、食事を作るときのポイントについて考えることで、献立作りに生かすことができるようにする。また、身近な材料を使って調理する計画を立て、それぞれが工夫しながら意欲的に実践できるようにする。調理実習で学んだことを家庭でも生かせる場を設定し、家族の中で役割を果たすことの大切さや食事の役割について理解できるようにし、家族の一員として望ましい生活を送ろうとする態度を育てていきたい。

○児童の実態

本学級の児童は、食に関する関心が高い。1学期の「くふうしよう 朝の生活」の学習では、朝食の重要性を知り、おかず作りの計画を立て積極的に実習に取り組むことができた。しかし、家庭において食事作りをしたり、手伝ったりしたことのある児童は少ない。また、栄養のバランスを考えながら食事をするものの重要性は理解しているが、栄養のバランスを視点として、食品を組み合わせて献立を考えたり、考えた献立がバランスよくできているかどうかを検討することは苦手な児童が多いと考えられる。

そこで、自分の生活を振り返り、1食分の食事を調べる活動を通して、栄養のバランスの大切さに気付くようにする。また、それぞれが献立を立てたり検討したりする場面では、アドバイザーとして地区の栄養委員さんに来てもらい、献立を立てるときのポイントをアドバイスしてもらったり、立てた献立についてよりよくバランスなるように意見を言ってもらったりすることで、意欲的に学習に取り組むことができるようにしたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

自分の食事を振り返りながら課題を見つけたり、学習したことを家庭で実践していくように活動を進めていくことで、児童が興味や関心を継続しながら取り組めるようにしたい。

(2) GT指導を生かす

立てた献立について検討する場面では、栄養委員さんに栄養のバランス、色どりや味付けなどについてアドバイスをしてもらうことで、より調和のとれた献立になるようにしていきたい。また、5名という少人数のため、一人一人に合った細かい支援も行いやすいと考える。

(3) 話し合い活動を充実させる

話し合いのポイントをカードにして、それを見ながら紹介したり聞いたりするようにすることで、スムーズに話し合いができるようにしていく。また、栄養委員さんに児童が考えた献立のよいところを賞賛してもらうことで、自信をもって紹介したり、聞いたりできるようにする。

6 本時の目標

- 自分が考えた1食分の食事について、調和のとれた食事となるように、食品の組み合わせを考えたり工夫したりできる。(創意・工夫)

7 本時の展開

学 習 活 動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
1 前時までの学習を振り返る。	○1食分の献立を立てた前時の学習を想起できるようにし、献立を立てるときに考えた視点から、本時は栄養のバランスで献立を見直していくことを知らせる。

栄養のバランスを考えて、献立を見直そう。

2 献立の例を使って、学習の進め方を理解する。

- 献立の例を提示し、ワークシートを使って栄養のバランスを確認する作業を一緒に行うことで、学習の進め方を理解できるようにする。
- 栄養委員さんにアドバイスをしてもらいながら献立を修正していき、栄養のバランスからみて、よりよい献立の作り方を理解できるようにしていく。

3 自分の献立の見直しをする。

- 「3つの食品の分類表」を活用しながら、食品カードを使って献立の中の食品を栄養素で分類したり、付け加えたりしていくことで、視覚的に分かりやすく取り組むことができるようにする。
- どの食品群に入れるか迷ったり、作業の仕方が分からない児童には、栄養委員さんと机間指導をしながら個別に指導をしていく。
- ☆作業の仕方が理解できにくいA児には、1つずつ手順を確認しながら個別指導で作業を進めるようにする。
- 不足している栄養素がある場合、献立に新しく食品を加える以外に、みそ汁の中に入れる具を工夫する方法もあることを知らせ、いろいろな工夫ができるようにする。
- 分類した結果を基に、ワークシートに修正した献立やそれに使われている食品をまとめ、新しく加えた食品を赤で囲んでおくことで、工夫の過程が分かるようにしておく。

4 見直した献立を紹介し、意見を交流する。

- それぞれがつくった献立の工夫を紹介し合ったり、それぞれのよさについて意見を出し合ったりすることで、よりよい献立にしていく。
- ☆紹介の仕方をカードにしておき、それを見ながら紹介したり聴いたりすることで、スムーズに話し合いができるようにする。
- 栄養委員さんに、1人1人の献立のよいところを賞賛してもらい、児童の学習意欲が継続できるようにしたい。
- 話し合っ出てきた意見をさらに自分の献立に生かすよう助言する。
- ◆【創意・工夫】
栄養のバランスを考え、食品を組み合わせる1食分の献立を工夫しながら作っている。<ワークシート、観察>

5 本時のまとめをする。

- 見直してみて気付いたことを発表したり、調理をすることを予告したりすることで、次の活動への意欲につなげる。

8 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

- ・本時は、バランスのよい食事にするために、まず食材カードを操作させて栄養のバランスを確認できるようにした。少人数ということもあり、人数分のカードを用意でき、学習を進めることに役立った。しかし、食材カードがたくさんあったため、自分が選んだ食材を見つけるだけでも時間がかかってしまい、並べたり付けたしたりする時間があまりとれなくなってしまった。カードを最初から色分けし、スムーズに作業ができるようにしておくなどの工夫が必要であった。

(2) TT指導を生かす

- ・栄養委員さんに献立を立てるところから授業に参加していただいた。前時に、児童が立てた献



栄養委員さんによるアドバイス

立を実際で作ってみて写真に撮ってきて下さった。児童も自分が立てた献立が実際に作られた写真を見てイメージがしやすかったようだ。実際に毎日献立を立て、食事を作っている方からのアドバイスなので児童は熱心に聞いていた。また、第2次でじゃがいもを使った調理実習を行った時にも栄養委員さんに来ていただいてアドバイスをしてもらった。今回が3回目の参加で、児童も次第に打ち解けて質問も気軽にできるようになった。



調理実習の様子

(3) 話し合い活動を充実させる

- ・話し合いを活発にするため、紹介の仕方やアドバイスの仕方をカードにして提示した。自分が見直した献立を紹介するときにはカードを見ながらスムーズに発表できたが、意見を交換するときには活用できたとは言いがたい。自分の考えを相手に適切に伝えたり聞きとったりする活動をさらに充実させていきたい。



2 学級活動の実践

①「かむことって大切！」

児童へのアンケートから、普段の生活の中で「自分たちはよく噛んでいる」という回答が多かった。しかし、実際に給食などの様子を観察すると、噛むことを意識しながら食事をしたり、よく噛んでいるとは言いがたい。また、今までに「しっかり噛みなさい。」と言われたことのある児童も多かった。

授業では、養護教諭によく噛むと良いことがたくさんある中で、特にだ液の効果についての話をしてもらった。だ液には歯を守る働きがあることや消化を助ける働きがあることを、絵や模型などの視覚的なものを使って説明してもらったので、とても理解しやすかったようだった。

よく噛むことでだ液がたくさん出ることを学習した上で、次にするめを実際に噛んでみる活動を取り入れた。児童は初め、30回程度噛むと飲み込めると予想していたが、実際に噛んでみると80回以上噛まないと飲み込めないことに気づき、普段の生活の中であまり噛むことができていないことに気付いたようだった。また、80回以上噛むとだ液もよく出てくることにも気付いた。

自分の生活を見直して「かみかみ生活」のために自分でできそうなことを考える場面では、いろいろなアイデアを考えることができた。ただ、そのアイデアを検討するところまでは十分学習が進まなかったが、「一口30回かむ」ということを決め、授業後早速自分の机に貼っている児童もいて、意識が高まっている。



だ液の模型

②「すいみんの力」

今までの自分の睡眠を振り返り、よりよい睡眠について考えた。児童は、「自分の睡眠が少ない」という認識をもっているが、ビデオやテレビに夢中になったり、時間までに寝るという意識が薄かったりしているようだった。

そこで、「睡眠にはどのようなものがあるのか」「なぜ睡眠が大切なのか」ということを理解できるようにするために、視覚的な教材をかつようした。また、この授業は参観日に実施し、家族にも公開することで、家庭でも児童の睡眠に意識を向けてもらうようにした。



3 総合的な学習の時間の実践

①「かみかみメニューを作ろう」

学級活動「かむって大切！」の学習を基に、総合的な学習でさらに「よく噛むこといいことがある」ということについて詳しく調べていくことにした。その中で、よく噛むこといいことは「ひみこの歯がいーぜ」という合い言葉でまとめられることを知り、それぞれに課題を設定して調べまとめた。また、調べたことは「歯っぴー集会」の中で全校児童や保護者にも報告することでさらによく噛むことへの意識が高まってきた。

また、よく噛まないと飲み込めない食材について調べ、それを使ったオリジナルのメニューを考えて絵やイラストで表現し、地域の高齢者に向けて発表した。



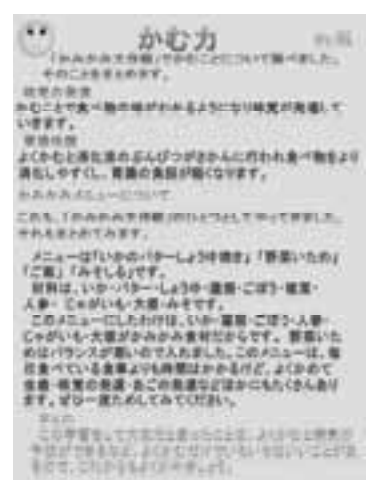
歯っぴー集会での発表



児童が考えたかみかみメニュー

②「学んだこと発信しよう」

1年間で学習してきたことをWEBページにまとめる活動に取り組んだ。自分たちが調べたことや活動してきたことを多くの人に知ってもらい広めていくために、見る人を意識しながらページを作ったり、見やすさや分かりやすさを考えながら工夫したりすることにより、学習したことを振り返ったりさらに調べたりすることで、知識や意識を高めることにつながった。



児童が作ったページ

平成26年度

1 学級活動の実践

第6学年 学級活動指導案

平成26年5月13日(火)

第5校時

指導者

菅野 秀昭

TT

河本 君子養護教諭

- 1 題材名 歯っぴースタディ「すべての歯をピカピカに！」
内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 指導上の立場

○題材について

6年生では、歯っぴースタディの技能編ですべての歯をきれいにみがけることをねらっている。児童は前学年までに、前歯の外側や内側、大臼歯・小臼歯、犬歯のみがき方を学習し、日々の歯みがきで実践してきた。ここでは、これまでの学習のまとめとして、それぞれの歯のみがき方を振り返るとともに、歯の特徴や歯並びなど個々の状態からくみがきにくさや歯みがきの課題に気付くようにする。そしてそれを解決する方法を考えながら、個々の「歯みがきレシピ」を作り、それに沿って実践を重ねていくことで課題を具体的に解決できるようにしていきたい。自分の課題に気づき、具体的に解決する経験を重ねていくことで、主体的に健康行動を選択し、ライフスタイルを改善することができるような実践的態度が育っていきと考える。

○児童の実態

本学級は、歯科の健康に関して、カリエスフリーの児童が7名、処置済みの児童が1名という健康的な児童が多い。また、前学年までに、歯っぴースタディや歯みがき教室・日々の歯みがき指導により、歯をみがくことの必要性やいろいろなみがき方があることを学習している。しかし、そのみがき方を上手に活用しながら、それぞれの歯の形や口の中の様子に合ったみがき方ができているとはいえず、歯垢染め出し検査の実施結果からみても、汚れが残っている傾向がある。また、家庭での歯みがきについては、手順を決めたり時間を計ったりして、きちんとできている児童は少ない。そこで、6年間の歯みがきの技能向上のまとめとして、すべての歯をピカピカにするために、それぞれの自分にあった合ったみがき方について考えたり、よりきれいにするための方法を話し合ったりすることで、個人に合ったみがき方の手順を自分で見つけることができるようにしたい。そのことにより、さらに意欲的に歯みがきに取り組み、効果的な実践につながるのではないかと考える。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 児童の興味・関心を生かす

児童が実際に歯みがきをしながら自分に合ったみがき方を見つける場面では、まず、歯垢染め出し検査を行ったり、前回の検査の結果と比較したりしながら、汚れが残っているところを見つけていることができるようにする。そして、それをきれいにするためのいろいろなみがき方を試しながら、それぞれの歯に合ったみがき方に気付いたり、友達の課題を解決する方法を考えたりすることができるようにしていく。

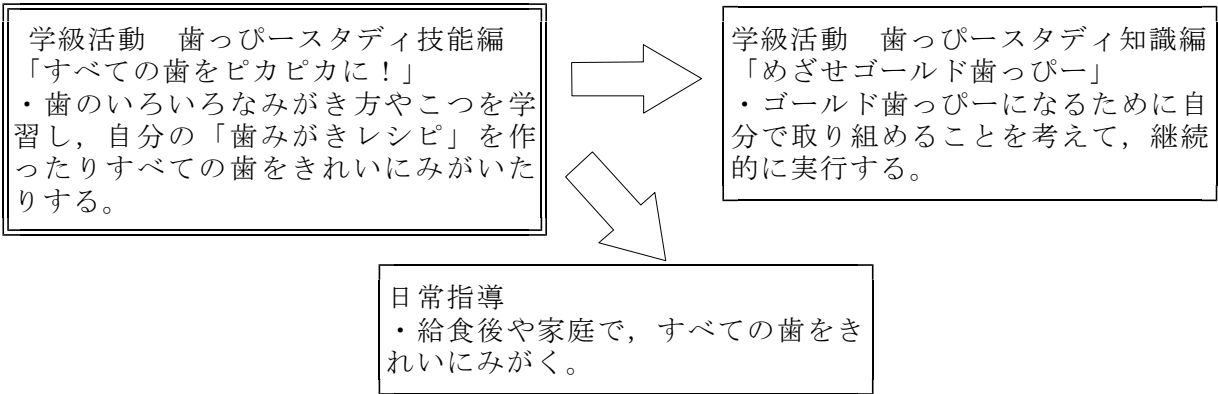
(2) TT指導を生かす

本時には養護教諭による、歯のいろいろなみがき方やみがく時のこつや注意点などの専門的な話を取り入れて、より具体的に実践につながるようにしていきたい。歯のみがき方の中から5種類のみがき方を紹介し、歯の様子に合わせた方法を選択しながらよりよい手順を見つけていることができるようにしたい。また、児童が自分の実践のための自己決定をする場面では、TTを活用した個別指導により、それぞれの児童に合った内容になるように留意したい。

(3) 話し合い活動を充実させる

児童同士で活発に意見の交流ができるようにするために、まず、自分の意見をしっかりともてるようにする。そのために「歯っぴースタディカード」を工夫し、いろいろな種類の歯に合わせたみがき方を選び、みがく手順が一目で分かるようにしていく。そして、上手にみがけないことや、逆に上手にみがけたことの原因を考えたり解決策を話し合ったりすることで、よりよいみがき方を見つけていることができるようにし意欲を喚起したい。話し合い活動の充実や「歯みがきレシピ」を作り、それに沿って歯みがきをすることで技能の向上を図っていきたい。

3 他の教科等との関連



4 本時のねらい

- 6年間のまとめとして、歯のいろいろなみがき方やこつを養護教諭から聞き、自分の歯のみがき方についての課題に気付いたり、「歯みがきレシピ」を考えたりして、自分に合ったよりよい解決方法を考え、すべての歯をきれいにみがくことができる。

5 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自分の歯みがきの仕方についての課題に関心をもち、健康な歯を保つために、進んで効果的な歯みがきに取り組もうとしている。	お互いの歯みがきの仕方の課題について話し合い、自分の歯の様子に合った解決方法について考え、判断し、実践している。	歯をきれいにするためには、いろいろなみがき方を活用することが大切であることやその方法について理解している。

6 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	4月16日(水)	○歯垢染め出し検査を実施する。
本時	5月13日(火)	○自分の歯のみがき方について考え自己決定する。
事後	5月13日(火) ～ 5月19日(月)	○「歯みがきレシピおためし週間」を設定し、自分で決めたことを確かめたり修正したりする。 ○自分で決めたことが実行できているか、学級だよりなどで保護者にも協力を要請する。

7 本時の展開

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 ・ 評 価 に 関 する 配 慮 事 項 な ど
振り返る 1 これまでの歯っぴースタディで学んだことを復習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 30%;">すべての歯をきれいにみがこう</div>	○各学年でいろいろな歯のみがき方を学習したことを想起し、本時の課題へつなげていく。
知る 2 歯のいろいろなみがき方を知る。	○養護教諭が5つのみがき方を紹介することで、歯の種類や形に合ったいろいろなみがき方を理解できるようにする。 ○歯みがき指導用パペットを使って実際に近い様子を再現しながら説明することで、身近なことに感じられるようにする。
話 3 歯をみがきながら、	○歯垢の染め出し検査を行い、汚れが残ったところを「歯っぴー

し 合 う	効果的な歯のみがき方を考えたり，課題についての意見を交流したりする。	「スタディカード」に記入し，前回の歯垢染め出し検査の結果とも比較しながら個々の歯みがきの課題を捉えやすくする。 ○個々の課題や学習したみがき方を基に歯みがきの手順を記入していくことで，すべての歯をきれいにするための方法を考えることができるようにする。 ○個々に作成した歯みがきの手順を黒板にかいて掲示することで，自分と友達のを考え方を比較しやすくする。 ○自分の課題や友達の課題についての解決方法を考え，意見を交流することで，歯みがきの技術の向上につなげていく。 ○養護教諭と連携し，専門的な立場から見た手順のよさや問題点を指摘しながら，よい手順を見つけていけるようにする。
決 め る	4 自分が取り組む方法を決定する。	○話し合いの結果を基に，自分にとって効果的な「歯みがきレシピ」を作り，続けて実行できるようにする。 ○自己決定した結果を発表するようにし，実践の意欲を高める。 ◆【思考・判断・実践】 お互いの歯みがきの仕方の課題について話し合い，自分の様子に合った解決方法を決めている。 ＜歯っぴースタディカード，観察＞
み が く	5 自分が決めた方法でみがき，まとめをする。	○自己決定した手順で歯をみがき，歯みがきレシピを確認したり修正したりするように指示する。 ○「歯みがきレシピお試し週間」を設定し，自分で決めた手順や順番が適しているかについて実践していくように伝える。

8 準備物

- ・歯っぴースタディセット，歯みがき指導用パペット，歯っぴースタディーカード，小黒板

9 反省と考察

(1) 児童の興味・関心を生かす

- ・本時は，個人に合った歯みがきの手順を作ることを活動の中心に考えて学習を進めた。児童が意欲をもって学習に取り組むために，歯っぴースタディカードを工夫した。歯の種類ごとにみがき方を決め，一覧表にしてひと目で確認できるようにしたので見やすかった。

また，学習の中に歯垢染め出し検査の活動を取り入れることで，今の歯の状態を確認したり比較したりすることができた。児童は本時まで染め出し検査に数回取り組んでおり，スムーズにできるようになってきている。



歯垢の染め出し検査

(2) TT指導を生かす

- ・養護教諭による5つの歯のみがき方の指導では，短い時間の中で，歯みがき指導用パペットを使って具体的に分かりやすく説明をしてもらった。そのため，「歯みがきレシピ」を作る段階では，歯ブラシの動かし方を理解した上でレシピ作りに役立てることができたと考える。また，授業後には給食後はみがき活動に参加しながら，それぞれが作ったレシピがきちんと行われているか，レシピがそれぞれの児童に適しているかどうかを継続的に指導してもらい，より効果的なレシピになるようにしていった。



歯みがき指導用パペット歯太郎君

(3) 話し合い活動を充実させる

- ・話し合いを活発にするため，過去の歯垢染め出し検査の結果と，本時の歯垢染め出し検査の結果を並べて比べられるような学習カードを用意した。前回の検査と同じようなところに汚れが残っており，きれいにできていない実態が浮き彫りになった。しかし，その点を比較して汚れを落とす方法を考える児童は少なかったため，もう少し指導が必要であったと考える。



Ⅲ 研究の実践

2 日常活動

2 日常活動

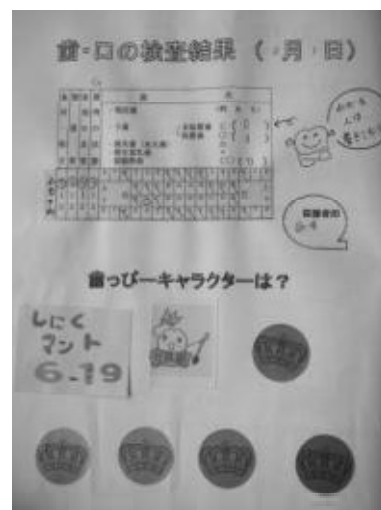
(1) 歯っぴー銀行

①「みほく歯っぴー銀行」では、歯・口の健康診断の結果に応じて金貨を発行し、児童に渡した。また、う歯の治療を済ませたり、歯肉炎を改善したりすると金貨を発行した。「みほく歯っぴー銀行」を開設し、金貨を貯めることで、児童の歯・口への意識が高まり、児童一人一人が健康づくりに寄与できたという充実感を味わえるものとなった。この銀行の運営を保健・栽培委員が行い、児童が貯金する時などに役割を果たした。そのことにより、保健・栽培委員会の活動がより充実したものになった。



さらに、ヘルスプロモーション活動を行うことで、金貨を発行することにした。

②「歯っぴー通帳」を作成し、自分が得た金貨の枚数分のシールや歯の状態のキャラクターのシールを貼ることで、自分の歯・口の健康状態がより分かりやすくなった。さらに、歯・口の健康診断や歯肉検査の結果を貼り付けたり、児童自ら記入する欄を設けたりすることで、興味・関心が高まった児童も多にいる。



③歯・口の健康診断の結果から、健全歯ばかりの状態を「ゴールド歯っぴー」、処置歯がある状態を「シルバー歯っぴー」、う歯がある状態を「イエロー歯っぴー」と3段階で表すようにした。「歯っぴーキャラクター」を考案したことで、歯・口の健康が児童にとってより身近に感じられるようになった。

しかし、この取り決めであるとう歯を処置した児童は、「ゴールド歯っぴー」にはなれないと地域推進保健委員会（平成26年2月）で指摘を受け、意欲喚起につながらないと判断



し、年度が変わる際に、見直しを図った。

今年度から「ゴールド歯っぴー」と「イエロー歯っぴー」の2段階とし、「ゴールド歯っぴー」は、歯・口の健康診断時に健全歯ばかりの状態と治療を済ませている状態とした。「イエロー歯っぴー」はう歯がある状態で、治療を済ませると「シルバー歯っぴー」になり、次回の歯・口の健康診断時に新たなう歯がなければ、「ゴールド歯っぴー」になれることとし、全児童に「ゴールド歯っぴー」になれる可能性があるようにした。さらに、歯肉にも着目できるように、基本のキャラクター「歯っぴーちゃん」にマントを着けて、マントを身に着けていれば歯肉の状態がよいことを表すことにした。

平成25年度

ゴールド歯っぴー		健全歯ばかりの状態
シルバー歯っぴー		新たなう歯はなく、処置歯がある状態
イエロー歯っぴー		う歯がある状態 (う歯を治療すると、シルバー歯っぴーになれる。)

平成26年度

ゴールド歯っぴー		う歯のない状態	歯肉炎なし	
	歯肉マントつき	う歯のない状態 もしくは、 処置歯がある状態		
イエロー歯っぴー		う歯がある状態	歯肉炎なし	
	歯肉マントなし	う歯がある状態		

(2) 歯みがきがんばり表

長期休業中の4回、平成25年度6月(1ヶ月)、第2回歯・口の健康診断前(1ヶ月)、校内歯みがき大会実施後(1週間)、平成26年度6月(1ヶ月)の計8回、歯みがきがんばり表を実施した。

11月の歯・口の健康診断に向けて、保護者にも配布し、1ヶ月取り組んだ。しかし、歯・口の健康診断の結果は良くなかった。歯みがきがんばり表と歯・口の健康診断の結果から、1日に2回以上みがけているにも関わらず、「イエロー歯っぴー」の児童が多かった。このことから、児童がきれいに歯をみがくことができるように指導を行っていくことが必要だと分かった。

歯みがきがんばり表を続けていく中で、児童の歯みがきをする習慣の傾向を知ることができるよう、結果を、Aゾーン(朝・夜2回以上みがけている)、Bゾーン(夜1回)、Cゾ

ーン（1日3回みがいたり、1回しかみがかなかったりとりズムがバラバラ）の3つに分けて考察を行うようにした。（表1）

校内歯みがき大会実施後には、Aゾーンの児童が80.7%から92.2%に上昇している。これは、行事後に取り組んだことにより、児童の意識が向上したからだと考えられる。また、B・Cゾーンの児童の歯みがきの習慣化が課題であることが分かり、日常の指導に生かすよう共通理解を図った。結果を集計したものを歯っぴー通信に掲載し、家庭に発信した。

表1 歯みがきがんばり表の結果の推移

歯みがきがんばり表の結果 (%)	H25年度 冬休み	校内歯みがき 大会実施後 H25年度2月	H25年度 春休み
Aゾーン（朝・夜2回以上）	80.7	92.2	87.8
Bゾーン（夜 1回）	9.6	0	4.1
Cゾーン（リズムがバラバラ）	9.6	7.8	6.1

歯みがきがんばり表も、児童が意欲をもって記録できるよう、色を塗る部分を小さくしたり、可愛いイラストを入れたり、記録する方法を各自で選択できるようにするなど、工夫を行った。



また、平成26年度6月の歯みがきがんばり表は、結果を保健栽培委員会が模造紙にまとめ、学校朝会で披露し保健室前に掲示した。「私のもあるなあ」「今度はもっとたくさん塗れるようにがんばろう」等興味をもっている児童もいた。

(3) 校内歯垢染め出し検査

全校で統一した「カラーテストのきろく」を使い、定期的（約2ヶ月に1回）に歯垢染め出し検査を実施した。毎回の検査のあとで、赤く染まったところを「カラーテストのきろく」に書き込んでいくことで、前回の染め出しの状態と比較しながら自己評価をすることができた。お昼の歯みがき等で、児童が自分のうまみがかけない課題を意識してみがく姿も日常に見られるようになった。また、教師も「カラーテストのきろく」に準じて各自の課題となる箇所を重点的にみがくよう言葉かけをすることができた。

(4) 昼の歯みがき指導

① これまでは、各学級でCDに合わせて歯みがきを行っていたが、歯みがきを行わない児童がいたり、指導が十分でなかったりしたため、1日の時程に歯みがきタイム（13:20～13:25）を組み込み、全校で一斉に歯みがきを行った。その結果、児童は落ち着いて歯みがきに取り組むことができた。また、習慣化され、歯みがきに対する意識が高まった。歯っぴースタディの学習内容の事前指導や事後指導にも活用することができた。



② これまでは、歯みがきCDに合わせて、鏡を見ながら3分間みがいていた。しかし、歯・口の健康診断の結果、う歯や歯肉炎の児童が多かった。また、日常や家庭での歯垢染め出し検査の結果から、奥歯の溝をきれいにみがくには時間がかかることがわかったため、CDの音楽を約5分に延ばした。さらに、みがく部位の順序を口腔内の写真や、文字で提示した。また、養護教諭が各教室をまわり歯みがき指導を行った。その結果、集中して歯みがきを行う児童が増えた。



③ これまでは、各自で準備した歯ブラシで歯みがきを行っていたが、児童の歯・口に合った歯ブラシを使用させるため、学校で歯ブラシの選定を行い、全校児童に歯ブラシと鏡を配布した。また、鏡に写らない部位の確認のため、児童一人一人に歯鏡を配布した。今年度6月に、学校歯科医から毛の堅さについて指摘を受け、2度目の歯ブラシの選定を行い、毛先が柔らかい歯ブラシにした。また、仕上げみがき用のヘッドの小さい歯ブラシも加えた。児童は、歯垢を落とすためにはどのような歯ブラシが良いか考えるようになった。毎月8日に歯ブラシチェックをすることで、「毛先が広がっている。」「そろそろ歯ブラシを変えよう。」と自分で意識して歯ブラシをチェックする児童が増えた。

Ⅲ 研究の実践

3 家庭・地域等との連携

3 家庭・地域等との連携

(1) 家庭との連携

①地域や家庭へ、児童の学習の様子や歯の健康状態などの情報を発信していくため、学校だよりや学級だより・保健だよりを活用した。また、特に歯と口の健康については「歯っぴー通信」を発行し、家庭に配布したり、教室に掲示したりして啓発した。



②参観日を活用して、保護者とともに学校歯科医による「歯みがき教室」を実施した。1人1人の歯の様子を保護者に確認してもらったり、歯みがきで特に気を付けることを教えてもらい、実践することで、児童・保護者とも正しい歯みがきに対する意識が高まった。



家族に確認してもらって



学校歯科医による歯みがき指導

③年間1回「健康参観日」として、全学年で歯と口の健康に関する授業を行った。学級活動と保健学習などで、児童の学習の様子や歯と口の健康づくりの取り組みを公開することで、保護者の意識を高めた。また、PTAを対象で、岡山大学病院、仲野道代先生に「歯の健康のおはなし」と題して、子どもの歯の現状やこれから特に気を付けなければいけないことなどを講演していただいた。保護者も初めて知ることも多く、関心をもって聞いていた。



4年生(仲野先生をGTとして)



みがいてお休み（2年生）



歯と口のけがについて考えよう（3年生）

- ④ 歯っぴー集会において、PTAのコーナーを設け、参加者に向けてクイズをしたり出し物をしたりして、保護者も参加しながら活動を進めた。また、PTA文化部会主催の「歯によい料理教室」では、保護者と児童が協力して、噛みごたえのある食材を使った料理を楽しく作った。



歯によい料理教室



さつまいもトリュフ

(2) 幼稚園・地域等との連携

- ① 運動会での休憩時間を使い、全校でパレードをしながら歯・口に健康づくりに取り組んでいることを発表すると共にティッシュを配り、観覧者にアピールした。また、学習発表会でも、4年生が歯・口の健康づくりをテーマに演技を構成し発表することで取り組みの様子や成果を発表した。



運動会での全校パレード



学習発表会での発表（4年生）

② 1年間の学習の成果を発表する場として、3月に「人生大学」の講座に出かけていき、2・3・6年生が歯・口の健康づくりの大切さを発表した。児童は学んだことを確認し、高齢者の方に理解してもらえるように発表の仕方を工夫し、また、高齢者の方々も児童の発表に熱心に耳を傾けて下さることでお互いの理解が深まった。



6年生の発表



3年生の発表



2年生の発表

③ 本校と幼稚園は隣接しているため、幼稚園との交流は日頃から活発に行われている。幼稚園に出かけていき、歯ブラシの正しい使い方を説明した。また、幼稚園年長児を学校に招待し、歯にいいおやつを作って一緒に食べたり、歯・口の健康に関するクイズをしたりして交流を深めた。また、4年生は近隣の他校との交流会をもち、学習したことを発表し合った。



歯ブラシの使い方（2年生）



歯によいおやつを一緒に試食（5年生）



円城小学校4年生の児童を招いての発表会（4年生）

Ⅲ 研究の実践

4 学校行事や児童会活動

4 学校行事や児童会活動

(1) 学童歯みがき大会への参加

平成25・26年度と全国学童歯みがき大会（一般社団法人日本学校歯科医会・財団法人東京学校保健会・財団法人ライオン歯科衛生研究所・ライオン株式会社主催）に4年生以上の児童で参加した。全国や海外も含め1000校以上の学校が参加する中、「歯と口の健康教室」として、歯のみがき方の指導や歯ぐきクイズなど、1時間の学習に楽しく取り組み、知識や技術を高めることができた。特に、明海大学 安井利一先生による歯肉炎の治し方や、歯ぐきの健康の大切さの講話は興味をもって聞いていた。



インターネットを通じて全国の友達と一緒に



歯ぐきに関するクイズ



映像を見ながらの歯みがきの実践

(2) 保健栽培委員会による報告や啓発活動

歯・口の健康診断が終わると養護教諭が全校児童の歯っぴーキャラクターを確認する。その結果を学校朝会等の時間に発表した。児童は各キャラクター別の人数が発表されるたびに真剣な眼差しで聞き入っていた。また、歯っぴー銀行活動を通して得た金貨の使い道のアイデアを全校に募り、馬の金貨ポスターを作成した。また、「歯っぴー集会」の中の歯っぴークッキングで「きなこ飴」を実演した時は、保健・栽培委員の児童も時間内に完成させられるかドキドキしながら取り組んだ。「きなこ飴」が完成した時には歓声があがった。集會に集まった児童・園児・保護者でおいしく試食した。また、ナタ豆を栽培してグリーンカーテンつくり挑戦した。ナタ豆収穫後はお茶にして試飲する計画である。



(3) 歯っぴー集会の開催

児童がそれぞれの学級で学んだことを他の学年の児童や保護者、地域の人たちに紹介する活動として「歯っぴー集会」を開催した。今年度と昨年度の6年生が作詞した替え歌を歌い、前半と後半に分かれて、今までに学習した、歯・口の健康に関することで、劇やクイズなどそれぞれの学年で工夫した内容を発表した。保護者の中には、歯と口の健康に関する児童の知識や意識の高さに感心する方も多かった。



保健栽培委員会
「歯っぴークッキング」



2年生「プラークねらいうち」



1年生「おくばのひみつをさぐろう」



3年生「むしばおばけやしき」



4年生「歯と口の健康
ヘルスプロモーション」



5年生「犬歯・大臼歯のみがき方」



6年生「食べ物のゆくえ」

<保護者の感想>

- どの学年もよく勉強できていて、楽しく観たり学べたりできました。歯について学んだことを忘れないで続け、次世代へつなげて欲しいと思います。その気持ちも伝わりました。
- 5年生では、自分がクイズ番組の解答者になっている気分でもっと楽しかったです。1年生では、自分が進行の児童より先走りしてしまうくらい楽しく参加できました。
- 「ちょちょみがき」「くるくる回転みがき」など、いろいろなみがき方を試してみようと思いました。楽しく勉強しながら、歯・口のスペシャリストになって下さい。

(4) 歯・口の健康診断

本校では従来より年2回の歯・口の健康診断を行っている。しかし、児童は常に受け身の姿勢であった。そこで、この健康診断を健康作りの場として機能させるため、「歯っぴー調査票」・「歯っぴー通帳」を作成するとともに、事前指導・健診時・事後指導の流れを作成して、児童自身が主体的に健診に参加できるようにした。それにより児童の意識が高まった。健診時に「一つ一つの歯になぜ名前がついているのか?」「歯並びが気になるけど、どうしたらよいでしょう?」と学校歯科医に質問する児童もいた。丁寧に答えてもらい児童は理解でき、満足した表情であった。また、健診時に本人にキャラクターを知らせ、金貨発行なども行うとともに、結果をその日のうちに家庭に知らせるようにした。

事後指導として、う歯保有者にはう歯治療を勧める。歯肉炎の見つかった児童には「歯っぴー教室」で養護教諭が個別指導を行ったり、担任が集団指導を行った。指導後は学校歯科医の歯肉検査を行い改善されていることを確認するようにした。今年度の6月19日の歯肉検査で3名の児童が歯肉1と判定され、6月27日の歯肉検査で3名の児童全員の改善が学校歯科医により確認された。「歯肉炎なし」という校医の言葉を聞いた児童は、自分の健康を自分で改善できたことで自信につながったようだ。ヘルスプロモーション活動で、全員で歯肉炎0をめざしてがんばったことも効果があったと思われる。



IV 成果と課題

IV 成果と課題

○・・・成果 ▲・・・課題

1 児童の興味・関心を生かし、実践力が高まる授業づくり

- 歯に関する学習を「歯っぴースタディ」として、知識編・技能編の2単位時間を設定することで、発達段階に応じて系統立てて指導を行うことができ、児童の歯や歯みがきに関する知識及び技能の向上も見られた。「歯っぴースタディカード」を各自ファイルすることで、既習内容を振り返ったり、以前の自分と比較したりしながら学習を進めることができた。
- 歯っぴースタディの学習過程を統一することにより、見通しをもって学習することができた。また、自分に合った歯のみがき方のレシピを作る活動により、自分の歯のどこをどのようにみがくかということが明確になり、話し合いが活発になった。
- 学習活動の中に体験活動を取り入れることにより、児童が新たな発見をしたり、より自分のこととして捉えることができたりして、興味・関心をもって学習に臨むことができた。
 - ・自分の歯みがきの実態を客観的に把握、理解するために歯垢染め出し検査を行う。
 - ・正しい箸の持ち方を習得するためにスポンジつまみや豆つまみを行う。
 - ・切歯の役割が実感できるように丸ごとのリンゴをかじる。
 - ・よく噛む習慣をつけるために「かみかみマシーン」を活用する。
 - ・児童が普段よく噛んでいないゼリーを食べ、咀嚼回数について考える。
 - ・よく噛み、だ液の大切さが実感できるように噛み応えのあるすめを食べる。
 - ・調理や工夫により食べ物の好き嫌いを改善できるように野菜入りのケーキを食べる。などである。
- 今回の研究では、歯科医、学校歯科医、養護教諭、栄養教諭、栄養士、栄養委員、歯科衛生士、保健師など、多くの専門的な知識をもった方々との授業を行ってきた。その中で児童は、より詳しく最新の正しい知識に触れることで、正しい実践の仕方を考えたり、意欲的に取り組んだりすることができた。
- 事前指導の中でアンケートを実施することにより、児童の実態に合った指導計画を立てることが可能になったことに加え、児童が自分達のこととして興味・関心をもって学習に臨むことができた。
- ▲事後指導で、「○○ウィーク」「○○週間」などのがんばり週間を実施したが、児童の実態が見えにくかった。支援のあり方を工夫する必要がある。
- ▲TT、GT指導では、授業の中でより効果的に専門性を生かすことのできる指導のあり方を検討していきたい。専門的な話だけではなく、児童の考えが正しいかということにもアドバイスをしながら学習を進めていけるとさらに効果的ではないかと考える。

2 児童の意識が高まり、継続するような日常生活の指導と環境整備

- 「みほく歯っぴー銀行」の開設や金貨の発行、「歯っぴーキャラクター」の考案などを行ったことで、児童の歯・口への興味・関心が深まった。「絶対ゴールド歯っぴーになりたいから、歯科医の先生にむし歯かどうか判断してもらいに行った。」という児童もいた。
- 歯みがきががんばり表・校内歯垢染め出し検査・昼の歯みがき指導を継続して行うことで、児童の歯みがきに対する意識・実践力は高まり、6月に行った歯肉検査では歯肉炎児童0人という結果になった。

歯肉炎1の児童

H25	6月-11人		11月-23人
H26	5月-13人	6月- 0人	10月- 4人

- 歯・口の健康診断を見直し、事前指導・健診時・事後指導の流れを明確にしたことで、児童の中に意識が育ってきた。「僕の歯は、ここに小白歯が2本生えるはずなのに1本分のスペースしかない。先生どうということ？」と養護教諭にたずねてくる高学年児童もいた。養護教諭のアドバイスで歯科医を受診し「今はとりあえず経過を観察しよう。」と言われたと報告があった。
- 歯肉炎の児童対象に養護教諭が「歯っぴー教室」を行ったが、対象児童だけでなく担任の指導で全体への指導に広がった。指導の際、口腔内カメラ「みはる君」で全児童が自分の口の中を確認出来たことや、口の中の写真を撮ったことなどにより意識が高まった。
- ▲歯・口に対する意識は取り組みをすることで高まるが、特定の児童に関しては、休日や長期休業中など教師の指導がなくなる場合、意識が低下しやすかった。児童の実態に即しながら、個

に応じた指導の必要がある。

- ▲児童の意識が高まり、継続することをねらい、様々な手立てを立て日常生活の指導を行ってきた。これまでに行ってきた全ての活動を検証し、簡素化しながら、2年間で育ちつつある児童の歯・口の健康への意識を今後も継続していく必要がある。

児童アンケートから

- 歯みがきで、どこをみがくかということ意識できるようになった。また、「歯みがきに
取り組むぞ!」という意欲が強くなった。(6年男子)
- だれにも言われなくても自分から歯みがきができるようになった。(5年男子)
- 前はあまり鏡を見ていなかったけれど、今は前歯のうらがわまで見るようになった。(4年女子)
- 歯みがきの時間が長くなって、歯をみがく力かげんを工夫するようになった。(3年女子)

3 家庭や地域等との連携

- 健康参観日や授業後のキャンペーン週間を行う中で、家庭にも協力を依頼することにより、家族も巻き込んだ活動を行うことができた。ヘルスプロモーション活動では、自分の家族以外にも、幼稚園、特別養護施設、人生大学など世代を超えて行ったため、地域の歯・口の健康づくりの意識が一層高まったと思われる。
- 学校だよりや歯っぴー通信、保健だよりなどを活用したり、運動会でのパレードや学習発表会での演技などで、家庭や地域への啓発活動に取り組んだ結果、地域の人々にも情報の発信ができた。
- ▲通信や児童を通じて家庭にもいろいろな働きかけをしてきたが、家庭の中に浸透させていくためには、さらなる工夫が必要だと考える。

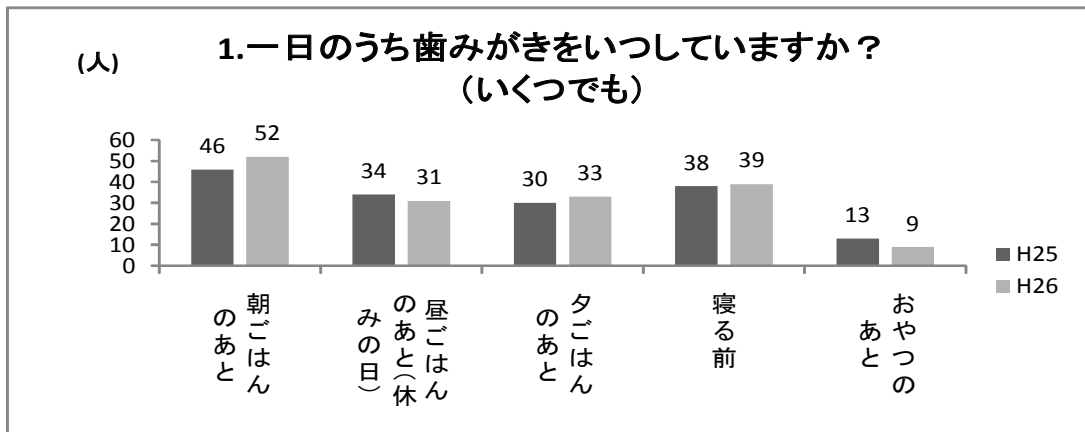
保護者アンケートから

- 子どもの歯みがきの時間が長くなり、みがくことがしっかりできてきており、自分の歯の大切さが分かってきたように感じます。家族にも、「こうしたら歯や体にいいんだよ。」と教えてくれるようになりました。
- 歯みがきが嫌々でなくなりました。また、酢の物が歯・口の健康によいことを知って食べるようになりました。
- 自分の歯や口の中に興味をもつようになり、大人の歯の数や、歯の様子、汚れのチェックなど、鏡を見ながらしている姿を見るようになりました。
- いっそう丁寧に歯みがきをしています。舌で歯を触ってツルツルしていることを確認しているようです。

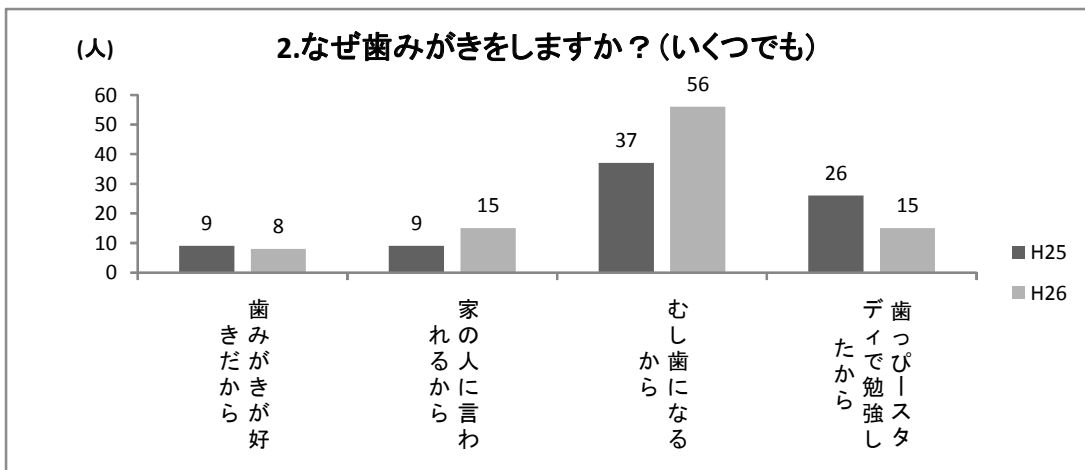
歯・口の健康診断結果の推移

	H 24		H 25		H 26	
	5月	6月	11月	5月	10月	
むし歯のある者の割合	63.5%	60.4%	48.1%	57.4%	54.1%	
う歯罹患率	25.0%	34.0%	22.2%	23.0%	16.4%	
一人平均むし歯数(永久歯)	0.17	0.23	0.26	0.13	0.13	
う歯治療率	61.5%	100%	100%	92.9%		

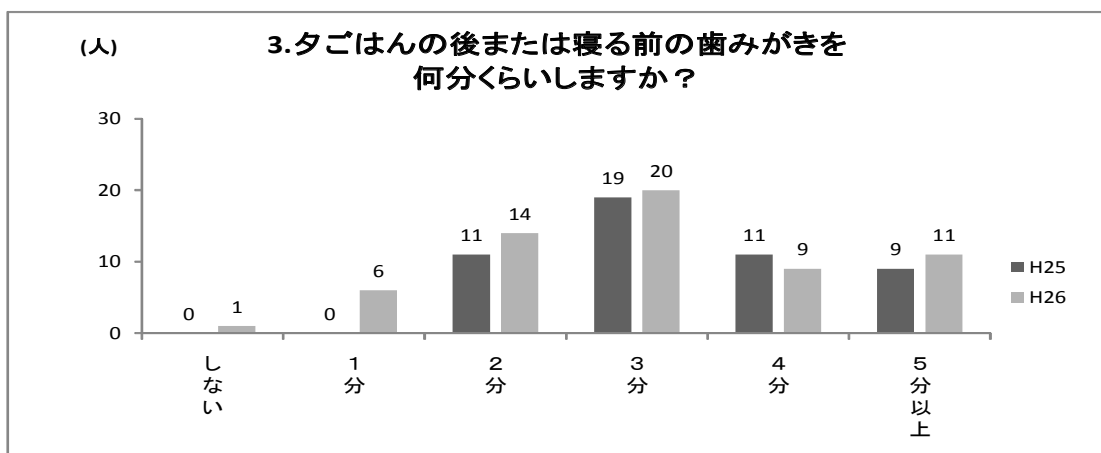
4 児童・保護者アンケートから（抜粋） <平成26年2月，平成26年9月実施>
<児童>



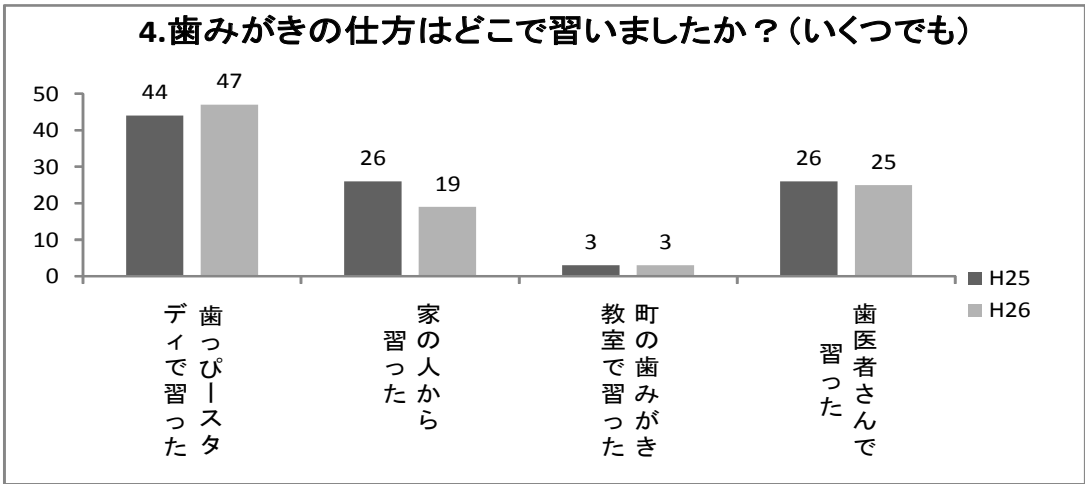
少しずつではあるが，朝食後や夕食後，寝る前に歯みがきをする児童が増えてきている。次第に歯みがきの回数が増えてきているが，休みの日の昼食後の歯みがきについては今一歩である。



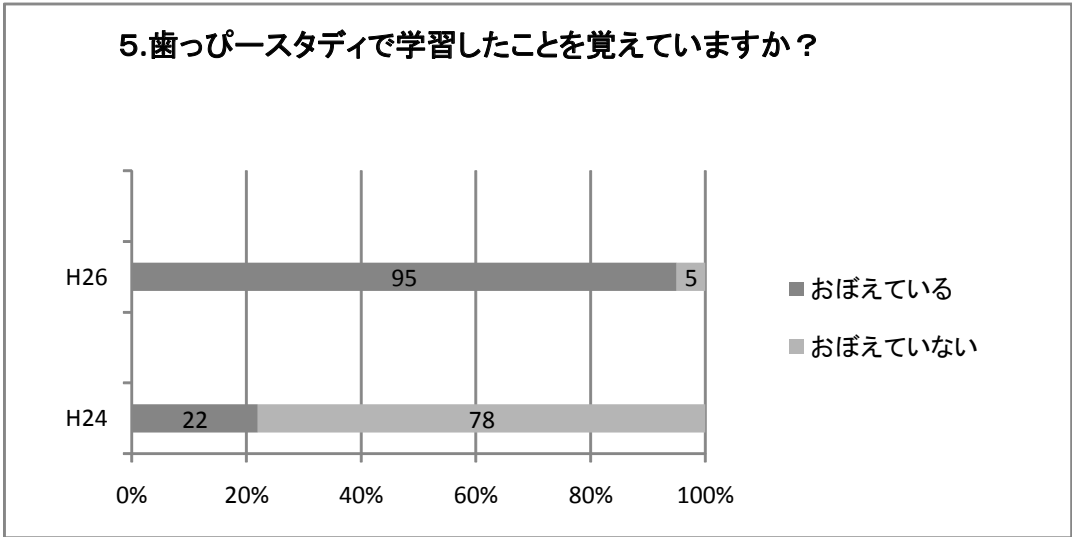
実践の積み重ねにより，歯みがきがむし予防に効果的であるということが理解できてきている。また，家族の意識も高まっていると考えられる。



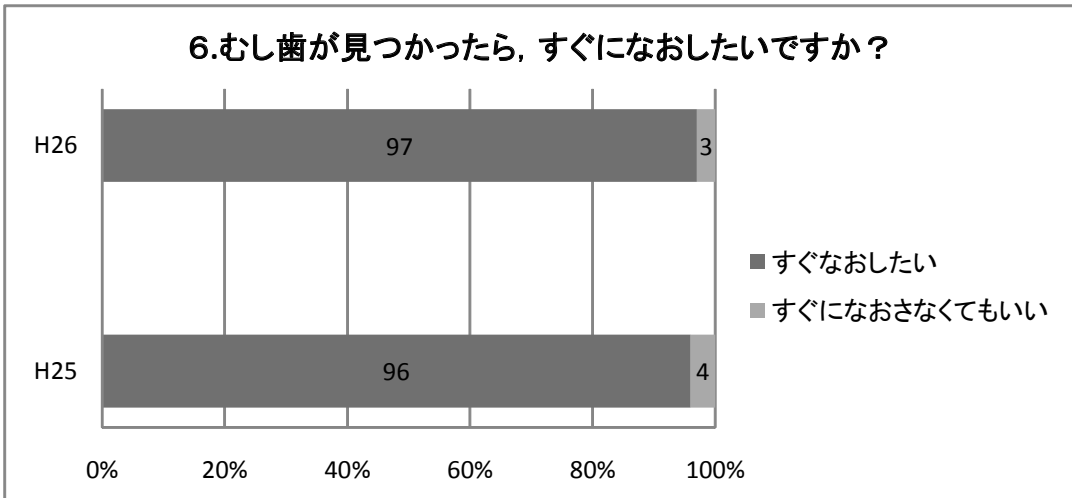
夕食後の歯みがきで5分以上できている児童が増えてきた。2分以下という児童も増えており，今後の課題でもある。



歯のみがき方を「歯っぴースタディ」で習ったという児童が多い。授業で教えたことが生かされているように思う。

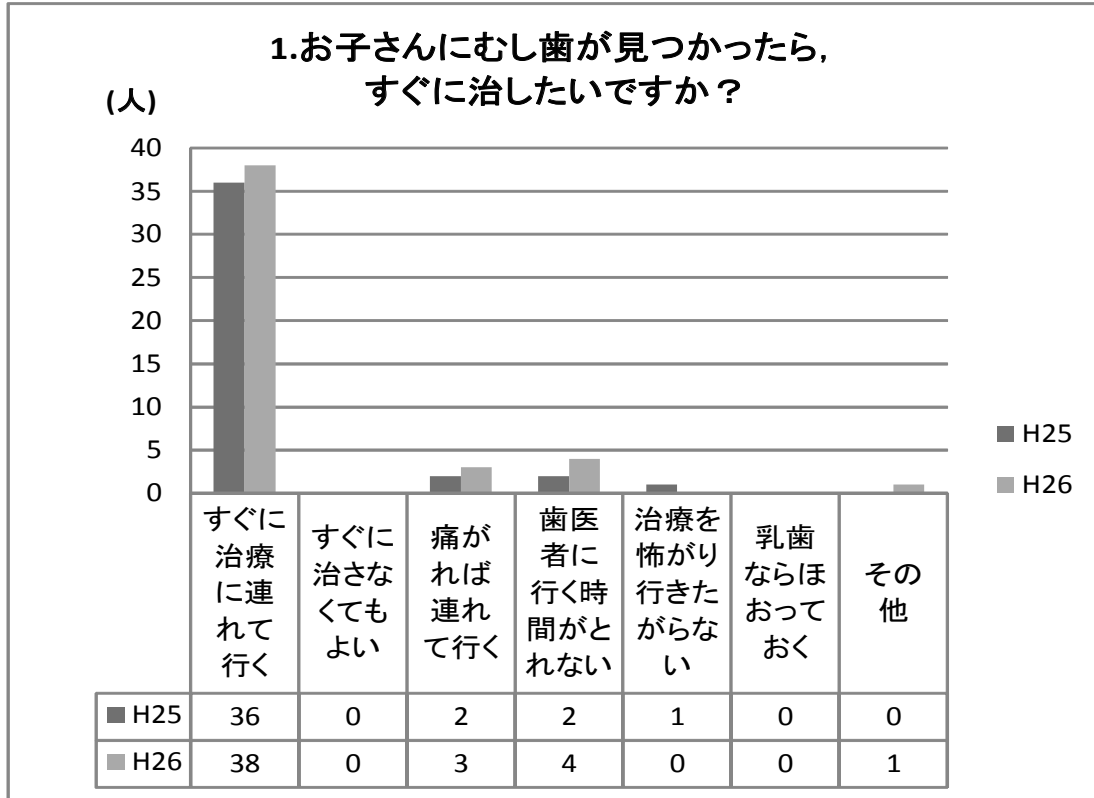


歯っぴースタディの学習で学習した内容を覚えている児童が増えたが、覚えていない児童もいる。今後さらに定着できるようにしたい。

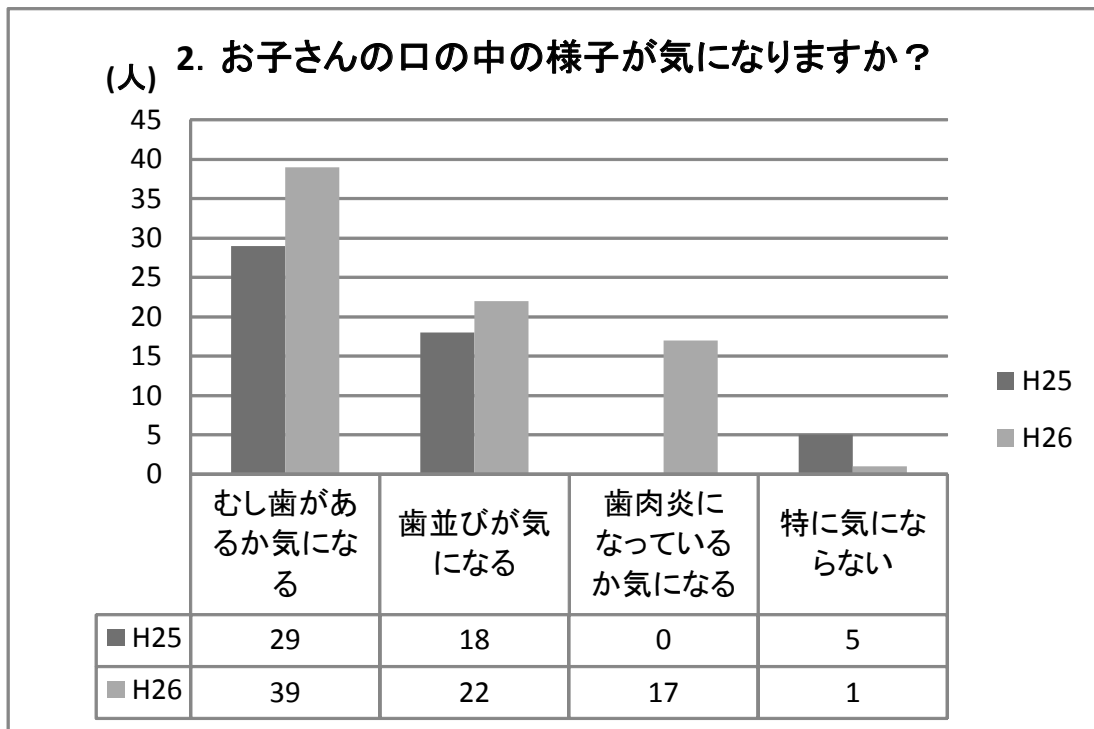


むし歯は治したいという児童の割合は高い。すぐに治さなくてもよいという児童もいるので今後も指導を継続していきたい。

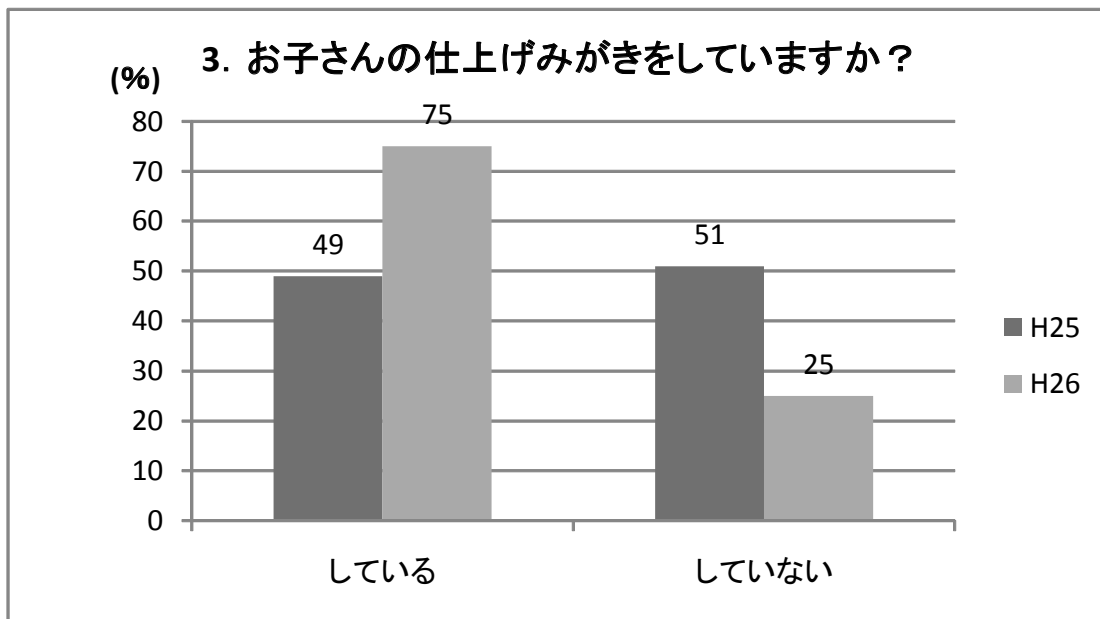
<保護者>



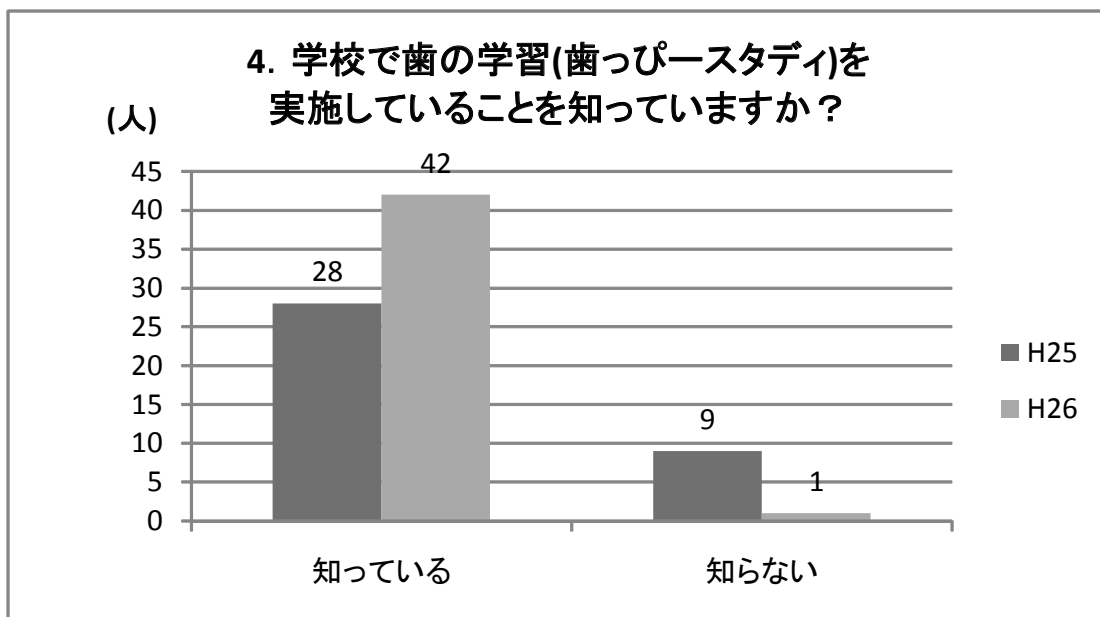
子どもにむし歯が見つかった時、すぐに治療に行くという家庭が多い。しかし、消極的な保護者も見られる。



むし歯に加え、歯肉炎が気になるという保護者が増えた。歯だけでなく口の中の健康にも目を向けるようになったのではないかと考える。



仕上げみがきをしている家庭の割合が増えた。保護者の意識が高くなってきたことの表れであろう。



さまざまな活動により、家庭へも歯と口の健康づくりの大切さを働きかけることにより、家庭の意識が高まってきているということがいえると思う。

V 資 料

月		4 月	5 月	6 月	7 月	
月 目 標	安全指導目標	安全に登下校しよう	遊具で安全に遊ぼう	校内の安全に気をつけよう	不審者に気をつけよう	
	保健指導目標	自分の保健目標をたてよう	さわやかな身なりをしよう	歯・口の健康作りをしよう	暑さにあった健康作りをしよう	
学校行事 (健康安全・体育的 行事等)		始業式、入学式、 定期健康診断(身体測定・ 視力・聴力・尿・蛭虫 心臓検診 内科検診) 交通教室 地区別児童会 避難訓練 (火災)	定期健康診断 (歯科 ・尿二次・眼科・ 耳鼻科健診) 修学旅行 山の学校 プールの掃除	定期健康診断 (心臓検診予備日) プール開き 海事研修 歯っぴー集会 学童はみがき大会	健康参観日 救急法講習会 大掃除 着衣泳 終業式	
保 健 安 全 指 導 全 教	保 健 安 全 指 導	1 年	○あんぜんなとうげこう ○ひなんのしかた (火災)	 6さいきゆうしがはえ たよ ○わかったかな?自分の歯・口	○ひなんのしかた (防犯)	◎なんでもたべよう! ○なつやすみのくらし
		2 年	○あんぜんなとうげこう ○ひなんのしかた (火災)	 ブラークがかくれんぼ ○わかったかな?自分の歯・口	○ひなんのしかた (防犯)	◎みがいておやすみ ○夏休みのくらし
		3 年	○安全な登下校 ○避難訓練に向けて (火災)	○わかったかな?自分の歯・口	○避難訓練に向けて (防犯)	◎けがはいやだね ○夏休みのくらし  前歯の内側をピカピカ に!
		4 年	○安全な登下校 ○避難訓練に向けて (火災)	○わかったかな?自分の歯・口	○避難訓練に向けて (防犯)	◎おやつ時間 ○夏休みのくらし  小臼歯をピカピカに!
		5 年	○安全な登下校 ○避難訓練に向けて (火災)	 大歯・大白歯をピカピカに! ○わかったかな?自分の歯・口 ○プールの使用について	○避難訓練に向けて (防犯)	○夏休みのくらし
		6 年	○安全な登下校 ○避難訓練に向けて (火災)	 すべての歯をピカピカに! ○プールの使用について ○わかったかな?自分の歯・口	○避難訓練に向けて (防犯)	◎かむことって大切! ○夏休みのくらし
		わかば 1	○安全な登下校 ○避難訓練に向けて (火災)	○わかったかな?自分の歯・口	○避難訓練に向けて (防犯)	◎みがいておやすみ ○夏休みのくらし ◎なんでもすきスキ!
		わかば 2	○安全な登下校 ○避難訓練に向けて (火災)	○わかったかな?自分の歯・口	○避難訓練に向けて (防犯)	◎けがはいやだね ○夏休みのくらし ◎なんでも食べよう
	保 健 安 全 学 習	体育科 保健領域			病気の予防 (6年)	けがの防止 (5年) 変化してきたわたしの体 (4年)
		理 科		動物の体のはたらき (6年)	動物のからだのつくりと運動 (4年)	
生活科			やさいをそだてよう (1年) 野さいをそだてよう (2 年)			
家庭科						
総合的な 学習			いろんな歯・は・HA (5年)			
保 健 安 全 管 理	心身の管理 生活の管理	健康観察(毎日) 定期健康診断の事後措置 給食後の歯みがき開始 保健調査 朝のペース走 救急体制の計画	健康観察 (毎日) 定期健康診断の事後処置 修学旅行・山の学校時の健康管理 朝のペース走 愛・EYE・タイム CO・GO 個別指導	健康観察 (毎日) 定期健康診断の事後処置 海研・水泳時の健康管理 児童教育相談 愛・EYE・タイム	健康観察 (毎日) 定期健康診断の事後処置 愛・EYE・タイム	
	環境の管理	校舎内外の環境整備 安全点検 清掃用具の整備 トイレ・手洗いの衛生管理 水質検査 椅子・つくえの調整	安全点検 水質検査 プールの衛生管理	安全点検 水質検査 プールの衛生管理	安全点検	
	三 師 の 活 動	校 医	内科検診 (30日)	眼科・耳鼻科検診 (29日)		
		歯科医		歯・口の健康診断 (1日) 歯肉検査	歯肉検査	
薬剤師			飲料水・給食室拭き取り・ ダニの検査	プール水・トリハロメタン の検査	プール水の検査	
組 織 活 動	児 童	年間計画の立案・計画	なた豆栽培 歯っぴー集会所計画・準備	歯っぴー集会所実施 みはく歯っぴー銀行運営	健康ジュース作成・試飲 みはく歯っぴー銀行運営	
	教 職 員	年間計画の立案・計画	第1回学校保健委員会		救急法講習会 (AED)	
	P T A	年間計画の立案・計画	第1回学校保健委員会	歯・口のクイズ大会 (歯っぴー集会)	救急法講習会 (AED)	

(学級活動の◎は1単位時間の保健安全指導,
○は20分の保健安全指導, ☆は自立活動)



歯っぴースタディ技能編



歯っぴースタディ知識編

月		9 月	10 月	11 月	12 月		
月 目 標	安全指導目標	安全に自転車を乗ろう	運動時のけがに気をつけよう	安全に避難しよう	火の取り扱いに気をつけよう		
	保健指導目標	生活リズムを作ろう	毎日を目の愛護デーにしよう	心とからだの関係について知ろう	寒さに負けない生活をしよう (かぜ・姿勢エッセイ)		
学校行事 (健康安全・体育的 行事等)		始業式 地区別児童会 身体測定 運動会	視力検査 陸上記録会 (5・6年) 歯・口の健康診断	歯・口の研究発表会 就学時健康診断 避難訓練 (火災)	なわとび大会 大掃除 地区別児童会 終業式		
保 健 安 全 指 導 教 育	保 健 安 全 指 導	学 級 活 動	1 年	◎めざせ！おはしめいじん ○あんぜんなじてん車ののりかた	◎目をたいせつにしよう (しせい) ○わかったかな？自分の歯・口	おく歯をピカピカに！ ◎ひなんくんれんにむけて (火災)	○ふゆ休みのくらし
			2 年	前歯の外がわをピカピカに！ ○あんぜんなじてん車ののりかた	◎よいしせいをしよう ○わかったかな？自分の歯・口	◎ぐっすりおやすみ ◎ひなんくんれんにむけて (火災)	○冬休みのくらし
			3 年	歯！いろいろ ○安全な自転車の乗り方	◎よい姿勢について ○わかったかな？自分の歯・口	◎歯によりおやつを考えよう ◎避難訓練に向けて (火災)	○冬休みのくらし
			4 年	○安全な自転車の乗り方	◎よくかむ習慣をつけよう ○わかったかな？自分の歯・口	むし歯の正体 ◎避難訓練に向けて (火災)	○冬休みのくらし
			5 年	○安全な自転車の乗り方	やだよ歯周病 ○わかったかな？自分の歯・口	◎かむかむ大作戦 ◎避難訓練に向けて (火災)	○冬休みのくらし ◎元気になる朝ごはん
			6 年	○安全な自転車の乗り方 ◎情報モラルと携帯電話	◎大切な目 ○わかったかな？自分の歯・口	めざせ！ゴールド歯っぴー マント ◎避難訓練に向けて (火災)	○冬休みのくらし
			わかば1	○安全な自転車の乗り方	◎歯っぴーおやつパートⅡ ○わかったかな？自分の歯・口	◎よくかむ習慣をつけよう ☆歯っぴーおやつを作ろう	○冬休みのくらし
			わかば2	○安全な自転車の乗り方	◎歯っぴーおやつパートⅡ ○わかったかな？自分の歯・口	◎よくかむ習慣をつけよう ☆歯っぴーおやつを作ろう	○冬休みのくらし
	保 健 安 全 学 習	体育科 保健領域		大人に近づく体 (4年)		体の中で起こる変化 (4年)	
		関 連 学 習	理科				
生活科							
家庭科			くふうしよう楽しい食事 (6年)	バランスのよい食事をしよう (5年)			
総合的な学習		かみかみメニューを作ろう (6年)		おやつのみみつを調べよう 進め！かむかむ探検隊Ⅰ (4年)	(3年) → → →		
保 健 安 全 管 理	心身の管理 生活の管理		夏休みの健康調査 疾病・異常治療状況把握 熱中症対策 身体測定 愛・EYE・タイム	視力検査後の事後処置 姿勢指導 朝のなわとび CO・GO 個別指導	歯・口の健康診断後の治療 指示 愛・EYE・タイム 朝のなわとび	朝のなわとび 愛・EYE・タイム	
	環境の管理		机・いすの調整 安全点検 水質検査	安全点検 水質検査 照度検査	安全点検 水質検査	安全点検 水質検査	
	三 師 の 活 動	校 医			就学時健康診断 (18日)		
		歯科医		歯・口の健康診断 (2日) 歯肉検査	就学時健康診断 (18日)		
薬剤師							
組 織 活 動	児 童		汗はどれだけ出ているの？ 実験 (ニンヒドリン) みほく歯っぴー銀行運営	目玉を探せ！大作戦 みほく歯っぴー銀行運営	なた豆収穫 みほく歯っぴー銀行運営	みほく歯っぴー銀行運営	
	教 職 員						
	P T A						

(学級活動の◎は1単位時間の保健安全指導、○は20分の保健安全指導、☆は自立活動)



歯っぴースタディ技能編



歯っぴースタディ知識編

月		1 月	2 月	3 月	本年度の反省	
月 目 標	安全指導目標	安全に避難しよう（地震）	安全に登下校しよう（雪道）	安全生活の反省をしよう		
	保健指導目標	かぜやインフルエンザの 予防をしよう	毎日をよい生活習慣で くらしよう	健康生活の反省をしよう		
学校行事 (健康安全・体育的 行事等)		始業式 学習発表会 地区別児童会 身体測定 避難訓練（地震）	ペース走大会	身体測定 大掃除 地区別児童会 卒業式 修了式		
保 健 安 全 指 導	保 健 安 全 指 導	学 級 活 動	1 年	◎ひなんくんれんにむけて (地震) ◎男の子・女の子	○はる休みのくらし ○けんこうメモリー	
			2 年	◎ひなんくんれんに向けて (地震) ◎おへそのひみつ	○春休みのくらし ○けんこうメモリー	
			3 年	◎けがはいやだね ◎避難訓練に向けて（地震）	○春休みのくらし ○健康メモリー	
			4 年	◎避難訓練に向けて（地震）	○春休みのくらし ○健康メモリー	
			5 年	◎避難訓練に向けて（地震）	○春休みのくらし ○健康メモリー	
			6 年	◎すいみんの力 ◎避難訓練に向けて（地震）	○春休みのくらし ○健康メモリー	
			わかば 1	◎避難訓練に向けて（地震）	◎早ね早おき朝ごはん ☆かんたんのできるおかずを 作ろう	○春休みのくらし ○健康メモリー
			わかば 2	◎避難訓練に向けて（地震）	◎早ね早起き朝ごはん ☆朝食作りをしよう	○春休みのくらし ○健康メモリー
			教 育	保 健 安 全 学 習	体育科 保健領域	すくすく育て わたしの体 (4年)
関 連 学 習	理 科					
	生活科					
	家庭科					
総合的な 学習	おやつのみつを調べよう(3年) 進め！かむかむ探検隊Ⅱ(4年)	歯によいおやつを作ろう(5年) 世界の歯・口の健康(6年)				
保 健 安 全 管 理	心身の管理 生活の管理	健康観察（毎日） 愛・EYE・タイム 朝のペース走 手洗い・うがいの励行	健康観察（毎日） 愛・EYE・タイム 朝のペース走 ペース走大会時の健康管理 手洗い・うがいの励行	健康観察（毎日） 愛・EYE・タイム		
		環境の管理	教室の換気 安全な火気取り扱い	教室の換気 安全な火気取り扱い		
		三 師 の 活 動	校 医		ペース走大会前健康診断	
			歯科医			
	薬剤師	照度検査・空気検査				
組 織 活 動	児 童	かぜ予防取り組み 換気タイム・大型ジャンケン みほく歯っぴー銀行運営	みほく歯っぴー銀行運営	みほく歯っぴー銀行運営 体によいおやつ作り 一年間の反省		
	教 職 員					
	P T A					

(学級活動の◎は1単位時間の保健安全指導,
○は20分の保健安全指導, ☆は自立活動)



歯っぴースタディ技能編



歯っぴースタディ知識編

歯と口の健康を通して元気な体を作るアンケート (別紙用)

★歯・口について



1-1日のおうち歯磨きをしていますか？(はい/いいえ)

- はい 朝と夜のおと
- はい 朝と夜のおと (休みの日)
- いいえ 朝と夜のおと
- いいえ 朝と夜のおと

2-お母さん歯磨きをしますか？(はい/いいえ)

- はい 歯磨きが好きだから
- はい 歯磨きが好きだから
- はい 歯磨きが好きだから (歯の健康のため)
- はい 歯磨きが好きだから

3-歯磨きの回数や歯磨き粉の量が歯を固くしてくれますか？

- はい
- はい () 1分 () 2分 () 3分 () 4分 () 5分以上

4-歯磨きの回数や歯磨き粉の量が歯を固くしてくれますか？(はい/いいえ)

- はい 歯磨き粉の量が歯を固くしてくれます
- はい 歯磨き粉の量が歯を固くしてくれます () 歯の健康のため
- はい 歯磨き粉の量が歯を固くしてくれます
- はい 歯磨き粉の量が歯を固くしてくれます

5-歯磨き粉の量を歯磨き粉の量が歯を固くしてくれますか？

- はい
- はい () 歯磨き粉の量が歯を固くしてくれます



6-歯磨き粉の量を歯磨き粉の量が歯を固くしてくれますか？

- はい
- はい () 歯磨き粉の量が歯を固くしてくれます
- はい 歯磨き粉の量が歯を固くしてくれます
- はい 歯磨き粉の量が歯を固くしてくれます

★早寝 早起き 朝ごはんについて

1-朝ごはんを食べていますか？

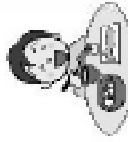
- はい
- はい () 朝ごはんを食べています
- はい () 朝ごはんを食べています
- はい () 朝ごはんを食べています

2-学校の朝ごはんを食べますか？

- はい
- はい () 朝ごはんを食べます
- はい () 朝ごはんを食べます
- はい () 朝ごはんを食べます

3-学校の朝ごはんを食べますか？

- はい
- はい () 朝ごはんを食べます
- はい () 朝ごはんを食べます
- はい () 朝ごはんを食べます



★食生活について

1-毎朝歯磨きをしますか？

- はい () 毎日
- はい () 毎日
- はい () 毎日
- はい () 毎日

2-歯磨きの回数や歯磨き粉の量が歯を固くしてくれますか？

- はい () 10回以上
- はい () 10回以上
- はい () 10回以上
- はい () 10回以上

3-歯磨きの回数や歯磨き粉の量が歯を固くしてくれますか？

- はい () 毎日
- はい () 毎日
- はい () 毎日
- はい () 毎日

歯と口の健康を上げてお口の健康を保つことをお願いします。



鼻と口の健康を通して元気な体を作るアンケート (保護者用)
 ※ 全てはまるものに○をつけてください。(複数可)

鼻・口について

1・お子さんにお鼻が臭ったから、すぐに診察したいですか？

- すぐ治療に連れて行く
 すぐに治さなくてもいいと思っている
 押がるようなら連れて行く
 耳鼻科に行く時間がとれない
 子どもが治療を怖がって行きたがらない
 乳歯はいつ生えかわかるのをおぼえておく
 その他 ()

2・お子さんの口の中の腫れが原因になりませんか？

- 腫れがあるか気になる () 歯肉炎になっていて、口臭になる
 腫れがなごぶか気になる () 気にならなない

3・お子さんの仕上げがききしていませんか？

- している () していない
 (1・2年生のお子さんかいる方のみお答えください)

4・学校で歯の勉強(歯っぴーダンスやキッズ)を体験していることありますか？

- 知っている () 知らない

食生活について

1・お子さんの食事でお茶を付けていることありますか？

- ある (具体的に) ()
 無い

2・お子さんのおやつなどでお茶を付けていることありますか？

- ある (具体的に) ()
 無い

3・よくかんで食べられるよう声をかけていますか？

- 声をかけている () 声をかけていない

4・食事をするとき、家族でよく話しますか？

- よく話す () あまり話さない



※今までの鼻・口の健康づくりの取り組みを通して、お子さんが変わったと思うことがあれば書いてください。

平成25・26年度「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」地域推進委員会会則

第1条（名称）

本会は、「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり地域推進委員会」と称する。

第2条（目的）

一般社団法人日本学校歯科医会の委嘱を受け、生涯にわたる健康づくりの源である生活習慣の形成につながる歯・口の健康づくりについて研究・協議し、地域及び本県における学校歯科保健のさらなる充実と子どもの生きる力の育成に寄与する。

第3条（事業内容）

本会は、前条の目的を達成するために、推進学校における児童の歯・口の健康に関する調査研究に関して研究・協議し、提言を行う。

第4条（組織）

本会の委員は、次により構成する。

- （1）推進学校職員
- （2）推進学校PTA関係者
- （3）推進学校歯科医
- （4）岡山県教育庁保健体育課関係者
- （5）吉備中央町教育委員会学校教育課関係者
- （6）岡山県歯科医師会関係者
- （7）御津歯科医師会関係者
- （8）岡山県学校保健会加賀支部関係者
- （9）吉備中央町保健課地域保健班
- （10）御北地区人生大学関係者
- （11）その他、委員長が必要と認める者

第5条（委員の任期）

委員の任期は、2年とする。

- 2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第6条（役職）

本会には、委員長、副委員長を1名置き、委員長は推進学校校長をもってこれに充て、副委員長は、委員長が選任するものとする。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

第7条（会議）

会議は、委員長が招集する。

- 2 会議は、定例推進委員会と、臨時推進委員会とする。定例推進委員会の開催は、年1回とし、臨時推進委員会は緊急必要を生じたときに開催する。

第8条（庶務）

推進委員会の庶務は、推進学校において処理する。

付 則 本会則は、平成25年4月1日より施行する。

地域推進委員会構成員氏名等（平成26年度）

【医師会・学校保健会関係者】

氏名	所属	役職	備考
黒住 正三	岡山県歯科医師会	副会長	
平岩 弘	岡山県歯科医師会	常務理事（学校担当）	
磯島 修	御津歯科医師会	会長	
宮本 恒弘	岡山県学校保健会加賀支部	支部長	
石井 雅之	石井歯科医院	学校歯科医	

【地域び行政関係者】

伊藤しおり	吉備中央町保健課	保健師	
沼本 英雄	御北地区人生大学	運営委員長	
浮森 洋恵	御北幼稚園	園長	
渡邊 順子	町立御北小学校 P T A	PTA 会長	副委員長
池田 順子	同 上	PTA 副会長	
中村ともみ	同 上	PTA 副会長	
坂上加の夫	同 上	PTA 副会長	

【教育委員会関係者】

福本 和宏	岡山県教育庁保健体育課	課長	
末廣真由美	岡山県教育庁保健体育課 健康・安全教育班	指導主事（副参事）	
永安 裕美	吉備中央町教育委員会 学校教育課	主査	

【推進学校職員】

有馬雄二郎	吉備中央町立御北小学校	校長	委員長 庶務担当
日野 秀	同 上	教頭	
林 司	同 上	教諭	
片岡 為世	同 上	教諭	
菅野 秀昭	同 上	教諭	
佐野 隆朗	同 上	教諭	
山本 恵子	同 上	教諭	
池口真由美	同 上	教諭	
江草 亜紀	同 上	教諭	
安田 麻美	同 上	講師	
河本 君子	同 上	養護教諭	
堀 圭子	同 上	教育支援員	
池田 助吉	同 上	教育支援員	
齋藤 則彦	同 上	事務副参事	
佐溝美和子	同 上	学校司書	
上村美津子	同 上	栄養職員	
吾浦佳代子	同 上	給食調理員	
山本 尚子	同 上	給食調理員	
梶原 琴美	同 上	校務員	

お わ り に

平成25年度・26年度と「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」に取り組むことになり、わたしたちは児童とともに毎日の生活を見直しました。

その中で浮かんできたのが、「歯・口の健康」を自ら見つめ、友達や家族などの周囲の人ともかかわりながら、学習していくことの大切さでした。

小規模校らしく互いのことをよく知った上で、学んだことをもとに一緒に考えたり、よりよい方法を伝えたりして学習を進め、深めていきました。

その成果の一つに、歯肉炎ゼロをめざして全校で取り組み、歯肉炎ゼロになったことがあります。各自がめあてを明確にもち、努力したことが結果へと結びついたので、児童にも職員にも励みになりました。

今回の推進事業への参加は、本校児童、職員、保護者が健康への意識をもつ貴重な第一歩であり、まさに口は「生きる」の入り口でした。これからも、自分の体に関心を持ち、進んで健康な生活を送ることができるようにと願います。

最後になりましたが、学内外の多くの皆様方のご支援・ご指導をいただき、ありがとうございました。お陰さまで、拙いながらも研究を進めることができました。

今後ともご指導の程、よろしくお願いたします。

研 究 同 人

平成26年度

有馬雄二郎	日野 秀	安田 麻美	林 司
菅野 秀昭	山本 恵子	片岡 為世	池口真由美
江草 亜紀	佐野 隆朗	河本 君子	池田 助吉
堀 圭子	齋藤 則彦	佐溝美和子	梶原 琴美
上村美津子	吾浦佳代子	山本 尚子	

平成25年度

江本 洋子	岡崎多香子	山本由佳理
-------	-------	-------